

3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

166 昭和12年9月6日

在滿州国植田大使より
広田外務大臣宛(電報)

中ノ不侵略条約の成立にも鑑み華北自治政權
樹立と防共地帯設定が緊要の旨意見具申

新 京 9月6日後發
本 省 9月6日後着

第七九四號(極祕)

事變後蘇支呼應滿洲國擾亂ノ謀略益々活潑ナルコトハ屢次
申進ニ依リ御承知ノ通りナル處蘇支不侵略條約公表セラレ
支那ノ容共政策益々露骨トナリタル今日ニ於テハ帝國政府
既定ノ方針タル南京政府ノ膺懲赤化禍害ノ除去、眞ノ日滿
支提携ニ邁進スヘキハ勿論ノコトナルモ之カ爲現南京政府
ノ反省ヲ期待スルカ如キハ至難ノコトナルヘク旁此ノ際一
日モ速ニ我實力ノ及ヒ居ル北支ニ於テ北支人ノ北支建設ヲ
目標トスル強力ナル自治政權ヲ樹立シ諸般ノ施策ヲ合理適
正ナラシムルト共ニ特ニ防共地帯ノ設定ニ依リ南京政權ニ

痛撃ヲ與フルコト我國策遂行ヲ容易ナラシムル上ニ於テモ
將又滿洲國ノ安定上ヨリスルモ緊要ナリト思考ス之カ爲ニ
ハ帝國政府ニ於テモ北支我實力範圍内ニ於ケル財源ノ確保
其ノ他凡ユル施設ニ付急速ニ確乎タル方針ヲ決定實行シ以
テ自治政權ノ樹立ニ滿幅ノ指導、協力ヲ與フルコト急務ト
認ム

右既ニ御取計中ノコトトハ存スルモ敢テ卑見具申ス

167 昭和12年9月14日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

磯谷第十師団長が外国人記者団に対し日本軍
の目的は抗日中国軍の膺懲であると力説した
旨報告

天 津 9月14日後發
本 省 9月14日夜着

第九三一號

當地外人記者側ニ於テ從來戰線視察ニ付日本人記者ト差別待遇ヲ受ケ居ルコトヲ滯シ居ル向アリシヲ以テ軍側トモ相談ノ結果馬廠占領ヲ機會二十二、十三日ニ亘リ外人記者團八名井口及軍係官同行馬廠ニ赴キタリ

(一)唐官屯ニ於テ磯谷中將ニ會見中將ヨリ戰況ノ説明アリタル後濟南迄行クヤトノ外人側ノ質問ニ答ヘ日本軍ノ目的ハ東洋ノ平和ニ害アル抗日支那軍ノ膺懲ニアルヲ以テ何處迄行ク等ノ地域的占據ノ如キ第二次的問題ナリ支那政府及軍隊ノ抗日病膏盲ニ入り居ルヲ以テ相當大手術ヲ必要トスヘク日本ノ態度ハ降魔ノ劍ヲ振フ佛ニ似タルモノニシテ唯之カ爲ニ苦シム支那民衆ニ對シ氣ノ毒ニ堪ヘスト述ヘ滄州攻略ハ天氣好キ爲馬廠ノ如ク長ク掛ラサルヘシト答ヘタリ

(二)同地ニ日本軍入城後支那民衆ノ復歸スル者漸次多キヲ加ヘツツアルモ皆老人、女子、子供ニシテ若者ハ全部支那軍ニ強制徵用サレ南方ニ連行カレ爲ニ老人、子供ノミ勞働ニ従事スルヲ見掛ケタルカ軍ノ話ニ依レハ右ハ今回ノ戰爭ニテ何レノ地ニテモ同様ナリシト言フ又唐官屯支那人基督教徒代表十名許リ外人記者團歡迎ニ來リ支那軍ノ

掠奪振等ヲ語り日本軍入城ニ依ル秩序回復、食糧配給等心ヨリ日本軍ニ感謝ノ意ヲ表シ居ル次第ヲ述ヘ外人側ニ好印象ヲ與ヘタル模様ナリ

(三)馬廠河及運河兩岸ノ支那軍防禦工事ノ堅固ナルコト連日ノ降雨ノ爲道路ノ泥濘劇シキコト運河ノ左岸三、四箇所ニ支那軍カ堤防ヲ決潰シ附近田地ニ侵水セシメ日本軍ノ進撃ヲ阻止セル跡等ヲ見津浦線方面ニ於ケル日本軍ノ遭遇セル困難ヲ偲ヒ進撃意ノ如ク速ナラサリシコトヲ今更乍ラ實感セルモノノ如シ

北平、上海へ轉電セリ

168 昭和12年9月15日 在上海岡本総領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本が事変に何を求めているのか蔣介石が苦慮していた様子など南京情勢に関する伊国大使内話について

上海 9月15日後発
本省 9月15日夜着

第一四五六號(極秘)

十五日伊國大使ハ往訪ノ日高參事官ニ對シ左ノ如ク内話セリ御參考迄

一、自分ハ十三日南京ヨリ自動車ニテ途中無事歸滬セルカ先般貴官以下大使館員南京出發ニ際スル自分ノ配慮ニ關シ廣田大臣ヨリ在東京「アウリツチ」大使ヲ通シ本國政府ニ對シ鄭重ナル御挨拶ヲ賜ハリ自分ハ過分ニ面目ヲ施セリ

二、滯寧中蔣介石ノ希望ニ依リ同人ト屢々會見セルカ（蘇支聯繫ノ體裁ヲ取繕フ爲ノ「ゼスチユア」カトモ思ハルル旨附言セリ）最後ノ會見ノ際蔣ハ日本カ何ヲ求メ居ルカヲ知り度キ旨熱心ニ述ヘ居タリ自分ハ廣田大臣カ伊國大使ニ話サレタル趣旨（日本側ニ於テハ支那側ト何時ニテモ開談ノ用意アリ支那側民間有力者カ日本側ト接觸スルコト然ルヘシトノ趣旨ナリト語レリ）ヲ私見トシテ告ケタル處蔣ハ別ニ意見ヲ述ヘス單ニ謝意ヲ表シ居タリ

三、蘇支協定ニ付キテハ蔣ハ最後迄反對ナリシカ如ク上海事件發生以來蔣ハ英米ノ干涉ヲ誘致セント計リタルカ如キモ（支那側空撃カ右ノ意圖ニ出テタルヤノ疑アルコトモ話題ニ上レリ）英米動カサルヲ見テ取り蔣ハ嫌々蘇支協

定ニ決セリ不可侵協定ノ裏ニ實質的援助ナキヤニ付キテハ支那側ニ於テハ六箇月位頑張レハ蘇側ノ援助ヲ受ケ得ルモノト期待シ居リ一方蘇側ハ出來得ル限り兵ヲ損セス思切ツテ後方ニ撤退シ以テ長期抵抗ヲ試ミル様支那側ニ勸告シタルカ蔣ハ支那軍隊ノ統制訓練ヨリ見テ之ニ應シ得サル旨應酬セル模様ナリ

四、南京ハ日本側空爆ニ備フル爲所々ニ「コンクリート」地下室ヲ設ケ又政府各機關ハ市ノ内外ニ場所ヲ變ヘツツ執務シ居リ未タ全般的ニ遷都ノ氣配ナキモ行政院ノ或ル部ノ如キハ既ニ書類ヲ長沙ニ送リツツアルモノモアリ場合ニ依リテハ一部ハ長沙邊リニ移轉ヲ考慮シ居ルヤニ存セラ

五、伊國大使館ハ「コンクリート」地下室ヲ設ケ（ソ）大使館ノ如キハ完備セル地下室ヲ設ケタリ）書記官書記生各一名ヲ殘シ置ケリ自分ノ歸寧ハ未定ナルカ一方長江航路ニ從事シ居タル殘船一隻ヲ徵發シ機銃ヲ搭載シ軍艦トシテ日支双方ニ通告シ下關ニ碇泊セシメ之ニ無電ヲ裝置セリ右ハ目下上海ニアル砲艦ヲ遡航セシメントシ之ヲ果ササリシ結果ナルカ長江封鎖開始ニ付テハ既二三回ニ亘リ

列國ヨリ共同申出ヲ爲シタルモ支那側ノ肯スル所トナラ

サリキ江陰下流ハ最近更ニ日清ノ「ボンツーン」等ヲ沈

メ事實航行不能トナレル趣ナリ

北平、天津へ轉電セリ

伊へ轉電アリタシ



169 昭和12年10月1日 總理・外務・陸軍・海軍四大臣決定

「支那事變對處要綱」

支那事變對處要綱

總 則

一、一般方針

今次事變ハ軍事行動ノ成果ト外交措置ノ機宜ト兩々相俟

チ成ル可ク速ニ之ヲ終結セシメ支那ヲシテ抗日政策及容

共政策ヲ解消セシメ、眞ニ明澄且ツ恆久的ナル國交ヲ日

支間ニ樹立シ以テ日滿支ノ融和共榮ノ實現ヲ期スルヲ本

旨トス。

情勢ニ依リ長期兵力行使ニ堪ユル爲メ之ニ關スル所要ノ

處置ヲ講ス。

二、軍事行動

軍事行動ハ、支那ヲシテ速ニ戰意ヲ拋棄セシムルヲ目途

トシ、兵力ノ行使、要地ノ占據及之ニ伴フ必要ナル諸工

作等適時適切ナル手段ヲ執ルモノトス。

三、外交措置

外交措置ハ速ニ支那ノ反省ヲ促シ、我方ノ所期スル境地

ニ、支那ヲ誘致スルヲ目途トシ、支那及第三國ニ對シ、

機宜ノ折衝及工作ヲナス。

事變ノ終結ニ方リテハ、支那ヲシテ、抗日政策及容共政

策ヲ解消セシメ、從來ノ行懸ニ捉ハレサル、劃期的國交

調整條件ヲ以テ、外交交渉ヲ行フ。

四、軍事、外交及之ニ伴フ諸施策ハ國際法上許サルヘキ範圍

ヲ逸脱セサル様慎重實行ス。

準 則

一、兵力行使

(1) 陸上兵力行使ノ主要地域ハ、概ネ冀察及上海方面トス。

(2) 所要地域ニ對シ、海上並ニ航空作戰ヲ行フ。

二、國家總力ノ整備

作戰ノ遂行ヲ圓滑ナラシムルト共ニ、國際情勢ノ最惡化

スル場合ニ應スル爲、總動員ノ實施、戰時法令ノ制定、耐久的舉國一致ノ具現等所要ニ應シ、國家諸般ノ運營ヲ之ニ適合セシム。

三、北支對策

北支問題ノ解決ハ、日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルヲ
目途トシ支那中央政府ノ下ニ、眞ニ北支ヲ明朗ナラシム
ルヲ以テ本旨トス。

四、中南支對策

中南支ハ、日支通商貿易ノ増進及發展ノ永續ニ適スル情
態ヲ、此處ニ、出現セシムルコトヲ期ス。

五、北支作戰後方地域ニ對スル措置

事變中、北支作戰後方地域ニ對スル措置ハ、敵國領土占
領ノ觀念ヨリ脱却シ、概ネ左ノ如ク律ス。

(一) 占領地行政ハ之ヲ行ハス。但治安ハ軍ノ指導ニヨリ、
之ヲ確立ス。

(二) 政治機關ハ、現地住民ノ自主的組成ニ委ス。但之ヲ指
導シ、明朗ナル施政ヲナサシム。

(三) 軍事上必要ナル交通施設及資源ノ開發ハ、必要ナル統
制下ニ之ヲ行フ。

但以上(二)及(三)ハ、和局出現後ノ國交調整ニ影響セシムル
コトナシ。

六、對外通商並經濟財政關係

日支及第三國間ノ、通商並ニ經濟財政事項ニ關シテハ、
支那ヲシテ、戰意ヲ拋棄セシムルヲ主眼トシ之ヲ律ス。

七、對第三國關係

第三國ニ對スル、外交措置並ニ之ニ伴フ諸工作ハ、進テ
我ニ好意ヲ持タシムルト共ニ、第三國トノ紛爭ヲ醸シ、
又ハ其干涉ヲ誘發スルコトナキ様之ヲ施策ス。軍事行動
及之ニ伴フ諸工作モ亦、右ノ主旨ニ副フ様慎重施行ス。

八、居留民ニ對スル處置

居留民ニ對シテハ、救恤ヲ行フ。

九、前記諸項ノ具体的方策ハ別ニ之ヲ定ム。

170 昭和12年10月1日 總理・外務・陸軍・海軍四大臣決定

「事變對處要綱附屬具體的方策」

付記 右方策の別紙

事變對處要綱附屬具體的方策

時局收拾ノ條件ハ、概ネ左ノ通りトス。

第一、北支

(甲)非武装地帯ノ設定

北支某一定地域(概ネ永定河附近ヨリ張家口ヲ連ヌル線)ヲ、非武装地帯トシ、同地帯ノ治安維持ハ、武装ヲ制限セル支那警察ヲシテ、其ノ責ニ任セシム。

(乙)北支ニ於テ帝國ノ許與シ得ル限度

(1)必要ニ應シ、我方駐屯軍ノ兵數モ、事變勃發當時ノ兵數ノ範圍内ニ於テ、出來得ル限り自發的ニ、縮少スルノ意向アル旨表示ス。

(2)塘沽停戰協定(之ニ準據シ成立セル各種約束ヲ含ム。

但北平申合ニ準據セル各種申合、即チ(1)長城諸關門ノ接收(2)通車(3)設關(4)通郵(5)通空ハ、解消セラレサルモノトス。)土肥原秦德純協定、及梅津何應欽協定ハ、之ヲ解消ス。(尤モ、現ニ河北省内ニ進出シ居ル中央軍ハ、省外ニ撤退スヘキコト勿論ナリトス。)但右非武装地帯内ノ、排日抗日ノ取締及赤化防止ヲ、嚴ニスルコトヲ約セシム。

(3)冀察及冀東ヲ解消シ、南京政府ニ於テ、任意右地域

ノ行政ヲ行フコトニ同意ス。

但右地域ノ行政首腦者ハ、日支融和ノ具現ニ、適當ナル有力者タルコトヲ希望ス。

尙右ニ關聯シ、北支ニ於ケル、日支經濟合作ノ趣旨ヲ協定ス。但右ハ日支平等ノ立場ニ立テル、合併其他ニ依ル合作タルコト勿論ナリ。

第三、上海

上海ニ非武装地帯ノ設定

(1)上海周邊一定地域ヲ非武装地帯トシ、同地帯ノ治安維持ハ、國際警察若ハ武装ヲ制限セル支那警察ヲシテ、其ノ責ニ任セシメ、租界工部局警察之ヲ援助ス。

(2)右ニ依リ、各國カ租界ニ陸上兵力ヲ保持スルノ要ナキ情態ヲ出現セシムルコト。(軍艦ノ在泊ハ此ノ限ニ非ス)。

第三、日支國交ノ全般の調整

以上、第一及第二ニ依ル停戰談ト同時ニ、又ハ引續キ、從來ノ行懸リニ捉ハレサル、日支國交調整ニ關スル交渉ヲ行フモノトス。國交調整案ノ要綱左ノ通り。

尙右停戰ノ話合成立シタルトキハ、日支双方ニ於テ、從

3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

來ノ行懸リヲ棄テ、眞ニ兩國ノ親善ヲ具現セントスル「ユーデイール」ニ入ルモノナルコトヲ聲明スルモノトス。
一、政治的方面

(一)支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト

(二)日支間防共協定(北支非武装地帯内ノ防共ハ、之ニ依リテ當然實現サルヘキモ、同地帯ニ關シテハ、特ニ取締ヲ嚴ニス)

(三)停戰條件ニヨリ、冀東冀察ヲ解消セシムル外、日本ハ内蒙方面ニ就テモ南京トノ間ニ話合シ、南京ヲシテ我方ノ正當ナル要望(概ネ前記(一)ニ包含セラレ)ヲ、容レシムルコト(支那ハ、錫、察兩盟ニ於ケル徳王ノ原狀ヲ認め、之ヲ以テ滿支間ノ緩衝地帯トシ、双方右狀態保持ヲ尊重ス)

(四)支那ハ全國ニ亘リ抗日排日ヲ嚴ニ取締リ、邦交敦睦令ヲ徹底セシムルコト。(北支非武装地帯内ノ排日抗日ニ關シ、特ニ取締ヲ嚴ニスヘキハ勿論ナリ)

二、軍事的方面

自由飛行ヲ廢止スルコト。

三、經濟的方面

(一)特定品ノ關稅率引下。

(二)冀東特殊貿易ノ廢止、竝ニ非武装地帯海面ニ於ケル、支那側密輸取締ノ自由恢復。

(付記)

事變對處要綱附屬具體的方策ノ別紙

(甲)北支非武装地帯ノ設定

(1)德化、張北、龍門、延慶、門頭溝、涿州、固安、永清、信安、濁流鎮、興農鎮、高州嶺ヲ連ヌル線(線上ハ之ヲ含ム)ノ以東及以北地區ヲ非武装地帯トシ右地域内ニハ支那軍ハ駐屯セサルモノトス

右地域内ノ治安ハ保安隊ヲ以テ維持ス該保安隊ノ人員及裝備ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

(2)寶昌、張北、龍門、延慶、門頭溝ヲ連ヌル線(線上ハ之ヲ含ム)ノ以東及以北竝ニ之ト接續スル河北省内永定河及海河左岸(長辛店及附近高地竝ニ天津周邊ヲ含ム)地區ヲ非武装地帯トスルコトニ同意ス(此ノ場合ニ於テモ保安隊ノ件前項ニ同シ)

(3)支那側カ非武装地帯ノ設定ニ付一定ノ期限ヲ附スルコ

トヲ條件トシテ前記(1)若ハ(2)ヲ受諾スヘキ旨強ク主張スル場合ニハ期限付ニ同意シ差支ナシ

但シ期限付ノ場合ニハ期限滿了ノ際ノ措置ニ付更ニ研究スルコトトス。尤モ交渉ノ模様ニ依リテハ期限滿了ト共ニ新ニ滿支國境ニ沿フ地區ニ一定ノ線(例ヘハ長城ヨリ三〇浬)ヲ劃シテ非武裝地帯ヲ設定スルノ了解ヲ確立シ置ク案モ考慮シ差支ナシ。

(註)以上(1)(2)(3)ノ何レニ依リ妥結ヲ計ルヘキヤハ交渉ノ際ノ情勢ニ因ルモノトス

171 昭和12年10月1日 總理・外務・陸軍・海軍四大臣決定

「國交調整ト同時ニ交渉スヘキ諸事項」

國交調整ト同時ニ交渉スヘキ諸事項

前述時局收拾ニ關スル方針ハ(一)非武裝地帯ノ設定等ニ依リ、將來ニ於ケル日支間軍事衝突ノ危險ヲ緩和スルト共ニ(二)國交ノ全般ノ調整ニ依リ、兩國間ニ蟠ル、相剋ノ原因ヲ芟除シ、新ナル國交關係ノ基礎ニ於テ、眞ニ明朗ナル日支關係ヲ樹立センコトヲ期スルモノナリ。從テ日支間懸案事項ノ

如キモ、右明朗ナル國交關係其ノ緒ニ着キタル上、日支双方ノ常道ノ話合ニ依リ圓滿ナル解決ヲ計リ、兩國ノ善解ヲ愈々強化増進センコトヲ理想トス。

然ルニ戰局ノ擴大ニツレ、國民ノ戰果ニ對スル期待モ亦増大シ、以上ノ如キ常道ニ満足スル能ハス、賠償等物質的條件ノ獲得ヲ熱望スヘキヲ以テ、對内的ノ考慮ニ基キ、前述大乗の收拾策ノ精神ニ出來得ル限り背馳セサルヲ念トシ、國交調整交渉ト同時ニ左記諸項ヲ交渉スルモノトス。

別途條件

(甲)賠償(支那側ニ於テ保護方引受ケタル、我方財產竝ニ權益ニ與ヘタル直接損害、及支那側カ我方財產又ハ權益ヲ不法ニ使用又ハ處分シタルコトニ依リ生シタル直接損害、及之ニ類スル損害等)

(乙)日支合辦一大「シンジケート」ヲ創立シ、例ヘハ、左記事業ヲ經營ス。

(1)海運(招商局ト日清汽船一及大連汽船一ノ合併)

(2)航空

(イ)上海福岡、青島福岡、福建臺北、廣東臺北連絡飛行ノ實施

3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

- (ロ) 滿支連絡(惠通公司ノ營業線ハ之ニ吸收ス)
 - 「歐亞連絡飛行ハ合辦トシ、本「シンジケート」ニ入ルヘキヤ又ハ別途交渉トスヘキヤ、研究ヲ要スルモ、差シ當リ左記ヲ考慮ス」
 - ハ) 歐亞航空公司ヲ本「シンジケート」ニ合併ス(同公司ノ獨逸側持株ヲ我方ニ於テ買收ス)
- (3) 鐵道
 - イ) 膠濟鐵道及同延長線ノ建設及經營
 - ロ) 津石鐵道ノ建設及經營
 - ハ) 承平鐵道ノ建設及經營
- (4) 礦業
 - 北支ニ於ケル金、鐵、炭礦等
- (5) 農業其他適當ナル事業
- (丙) 懸案ノ解決(左記頭番號ハ概ネ解決ヲ計ルヘキ順序ヲ示ス)
 - (1) 日支關稅協定ノ締結(細目別表甲)(見当ラズ)
 - 輸出入稅ノ引下若ハ撤廢
 - (2) 輸出入ノ禁止制限ノ撤廢若ハ緩和(細目別表乙)(見当ラズ)
 - (3) 鹽ノ生産及輸出制限ノ撤去

備考

前記附屬具体的方策第一北支、甲非武裝地帯ノ設定ノ項ハ陸海外三省間話合ノ際ニ於テハ一應別紙ノ通り事務的ニ纏リタルモ其ノ後之ヲ簡單ニスル趣旨ヨリ十月一日決定ノ通り修正セラレタルモノナリ



172 昭和12年10月5日 広田外務大臣より
在中国川越大使宛

「支那事變對處要綱」など三文書の送付に際し留意点通報

付記一 昭和十二年九月十六日、東亞局第一課作成

「支那事變對處要綱」ニ關スル次官會議議題ノ

説明一

二 昭和十二年十月一日、外務省作成

「支那事變對處要綱」など三文書の四相決定

に關する広田外相口述録

亞一機密第一二二二號

昭和拾貳年拾月五日

外務大臣 廣田 弘毅

在支(上海)

特命全權大使 川越 茂殿

支那事變對處要綱送付ノ件

今次事變處理ニ關スル帝國政府ノ方針ニ就テハ豫テ關係方面ト協議ヲ進メ來レル處今回讓漸ク纏リ別紙^{編註}支那事變對處要綱、事變對處要綱具體の方策及國交調整ト同時ニ交渉スヘキ諸事項ノ三文書ヲ一括シ本月一日總理及外陸海四大臣ニ於テ之ニ署名ヲ了シ近衛總理ヨリ御内奏ノ手續ヲ了シタルニ就テハ同文書一通宛送付ス

尙本文書ヲ閣議決定トセス總理以下四大臣ノ署名トセルハ一ニ本件文書ノ内容ヲ極秘ニ附スル必要ニ出テタル次第ナルカ他方陸軍側ニ於テハ差シ當リ出先ニ對シテハ方面軍司令官丈二三文書中事變對處要綱ノミヲ傳達スル趣ニ付右御含ミ置キ相成度シ

本信寫送付先

北平參事官、上海及天津總領事

編注 省略。本書第169文書、第171文書として採録。

(付記一)

支那事變對處要綱ニ關スル次官會議議題ノ説明

(十三、九、六、亞、一)

別紙^{本誌}支那事變對處要綱、同附屬具體の方策及國交調整ト同時ニ交渉スヘキ諸事項ノ三文書ハ外務、陸、海三省事務當局間ニ於テ一應話合ヲ遂ゲタルモノナリ但シ別紙中赤字「タイプ」ノ部分ハ結局事務當局間ニ於テ話合纏ラス、三省次官間話合ニ移シ、其ノ裁定ヲ仰クコトトナリタル次第ナルガ、議論ノ要旨左ノ通り

(一)概ネ永定河ノ線―要綱附屬具體の方策。第一、北支、(甲)非武装地帯設定ノ項

(説明)三大臣署名ノ文書ニハ、北支非武装地帯ノ地域ヲ明定セルモ、陸軍側ハ事態當時ト著シク變化シ、目下同地方ニ於テ戰鬪行ハレ居ル現狀ニ鑑ミ、今茲ニ非武装地帯ノ地域ヲ明定スルハ、軍ノ作戰ニモ影響アリ面白カラサルヲ以テ、單ニ北支某一定地域トシ置クコトトシ度シ、尤モ陸軍トシテハ三相決定ノ地域ヨリ廣クセントノ考ナキ旨説明セリ

外務側ハ結局三相決定ノ通り明記シ得ストスルモ、セメテ

大体ノ目安丈ハ記載シ置ク必要アリトテ(概ネ永定河ノ線)ノ一句挿入方主張シ、海軍モ亦三相決定ノ地域ヨリ廣ケサルコトヲ保障スル何等カノ字句挿入ノ要ヲ主張セルカ、陸軍ハ明記セストモ大丈夫ナリトテ承知スルニ至ラス。但シ最后ニ陸軍ハ考慮ヲ約シタリ

(二)滿洲國承認ノ件

三相決定ニハ「支那側ニ正式承認ノ意向アル様ナラハ可成正式承認セシムルコト」トアリタルヲ、陸軍ノ主張ニ依リ本項ノ通り「支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト」ト修正スルコトニ同意シタル次第ナリ。依テ外務側ハ余裕ヲ取ル爲(止ムヲ得サルモ今后問題トセストノ約束ヲ陰約ノ間ニナスコト)ノ一句挿入方固執シタルモ遂ニ陸軍ノ同意ヲ得ス、懸案トシテ殘ルニ至レリ

(三)附屬具体的方策。第三、日支國交ノ全般的調整ノニ、政治的方面(三)末尾

同方面ヨリ南京ノ勢力ヲ排除スルカ如キコトナシノ點。

右一句ヲ削除スルヤ否ヤハ、次官間ノ話合ニ殘サレタル、最モ重要ナル問題ナリ

陸軍側ノ主張。(イ)當初ハ内蒙自治政府ノ樹立乃至獨立宣言

ヲ行フヤ否ヤハ只今明言シ得サルニ付、余裕ヲ取ル爲、右一句ノ削除ヲ主張シタルカ、後(ロ)軍中央ハ自治政府樹立ノ意向ナキモ、茲ニ萬一「南京ノ勢力ヲ排除セス」ナド、明記スルニ於テハ、關東軍ハ却テ其レナラト云フ氣ニナリ、獨立ヲ強行スルコトトナルヘキヲ以テ、斯カル刺激的字句ハ削除アリ度旨主張ス

海軍側。今回ノ時局收拾方針ハ日支關係ノ眞ノ樹テ直シヲ根本方針トシ、依テ冀東冀察ヲモ解消シ、日支相剋ノ禍根ヲ芟除セントスルニ在リ。然ルニ内蒙丈ハ陸軍ノ道樂トシテ殘シ置クコトトセハ、内蒙問題ヨリ、再ビ日支關係ノ惡化、延テハ衝突ニ迄進ム危險性アリ。折角日支衝突ノ禍根芟除ノ一大決心ヲナシ乍ラ、内蒙丈ヲ除外シ、此ノ點ヨリ再ビ日支衝突トナルコトハ、何トシテモ承服シ得ス、陸軍ノ主張ニハ絶對反對ナリ。

批評

(イ)陸軍ハ内蒙ヲ赤化ヨリ救フ爲、南京ノ干渉ヲ排シ、我方ノ手ニテ抑エ置ク要アリト云ハンモ内蒙、外蒙ノ國境ハ、外蒙側ニテ嚴重ニ閉鎖シ、外蒙ヨリ内蒙へ赤化ノ手ハ伸ビ居ラス

一般の赤化ナラ、蒙昧ナル内蒙ヨリハ、文化ノ程度高キ北支ノ方、一般危険ニテ、北支ヲ手離シ、内蒙丈抑へ置ク理ナシ

(ロ)軍事的施設(飛行場等)ノ問題ナラハ、南京ノ勢力ヲ排除セサルコトトシ、南京ト話合ヲナサバ、或程度希望ヲ達成シ得べく、他方我方カ内蒙ヲ冀東化スル結果ハ

(1)南京ト衝突ノ危険アリ、少クモ對日感情ヲ惡化セシムヘク

(2)毎年巨額ノ經費ヲ支出シ、而モ日本ノ手カ加ハレバ加ハル程内蒙ノ民心ハ反抗のトナル傾向アリ(最近二、三年ノ間内蒙ノ民心ハ却テ惡化セリ。)

(ハ)要之此ノ際ハ、日支間相剋ノ禍根ヲ完全ニ芟除シ、日支關係ノ明朗化ヲ計リ、茲十年位ハ滿洲國ノ育成ト日本ノ國力ノ培養ニ専心スルコト絶對ニ必要ニシテ、陸軍一部ノ道樂ノ爲、内蒙獨立ノ禍根ヲ貽シ、其ノ爲舊態依然トシテ、日支關係ヲ不明朗ナラシメ、日支關係ヲ再衝突ノ危険ニ曝シ置クカ如キハ、絶對ニ取ラサル所ナリ

依テ赤字「タイプ」ノ一句ノ挿入ハ絶對必要ナリ。
(四)賠償ノ件

今次事變ノ結末トシテ賠償ヲ要求スルカ如キハ本件ノ如キ公明正大ナル我方要求ヲ只此ノ一事ノミニテ、著敷不明朗ナラシメ、支那ノ面目ヲ傷ケ、世界ニ對シテモ、面白カラサル印象ヲ與フヘシ、僅カ計リノ賠償ヲ取ランカ爲、日支關係乃至帝國ノ世界ニ對スル立場ヲ著敷不明朗ナラシムルハ取ラサル所ナリ。(海軍モ同意見。陸軍モ餘リ強カラス)但シ前文中ニ「賠償ノ如キ物質的要求……」ト説明トシテ挿入スルハ妨ケス

(付記二)

支那事變對處要綱ニ關シ十月一日廣田外務大臣ヨリノ御話要領左ノ通り

一、一日陸海外總理ノ四相間ニ於テ右要綱ヲ決定セリ、總理ヨリ上奏ノ筈

二、四相間ニ於テ右要綱ハ南京政府カ日本ト交渉能力ヲ有スル場合ニ適用アルヘキモノニシテ同政府カ潰滅スルカ或ハ局面ニ重大變化アル場合ハ自ラ別ノ工夫ヲナササルヘカラストノ話合トナレリ但シ陸相ヨリ其場合ニモ右要綱ノ根本觀念ハ變ラサルヘシト云ヘリ

(欄外記入)

三、内蒙ノ問題ニ關シ海相ヨリ將來陸軍ニ於テ南京政府ノ意向ヲ無視シ兵力ヲ以テ德王ヲ助ケ錫察ニ盟以外ニ進出スルカ如キ憂ナキヤソレテハ困ルト云ヒタルニ對シ陸相ハ右ノ如キコトハセサルヘシ現ニ我方ヨリ德王ニ財的援助ヲナシ居ルモ若シ張家口テモ德王ノ支配ニ這入レハ收入モアルニ付財的援助モ必要ナクナルヘシト云ヘル由

173

昭和12年10月22日 外務・陸軍・海軍三省決定

事変に対する第三国の斡旋・干渉へのわが方

対応方針

日支事變ニ對スル第三國ノ斡旋乃至干渉ニ對シ
帝國政府ノ採ルヘキ方針決定ノ件

昭和十二年十月廿二日、陸海外三省決定

日支事變ノ進展ニ伴ヒ英、蘇、米等ノ各國ハ漸次事變ニ容喙ノ態度ヲ示シ來リ、國際聯盟ノ決議、九國條約會議ノ招請等ヲ見ルニ至レル處此ノ如キ豫メ帝國ヲ被告ノ地位ニ置ク干渉乃至調停ハ固ヨリ之ヲ排斥スルヲ當然トスルモ我方軍事行動ノ目的略達成セラレ南京政府ハ其ノ壓力ニ耐ヘ兼

ネ内心我ニ和ヲ乞ハント欲スルモ表面強硬態度ヲ裝フノ必要ニ迫ラルルコトアルヘク斯ル際ニ於ケル英米其他第三國側ノ好意的斡旋ハ其ノ方法等宜シキヲ得レハ寧ロ之ヲ支那側引出ノ具トシテ利用スルコト有利ニシテ殊ニ日本ト友好關係ニアル獨伊兩國ノ如キカ支那側ヨリ依頼セラレテ斡旋ノ舉ニ立ツカ如キコトトナラハ更ニ妙ナルモノアルヘシ
叙上ノ次第二鑑ミ此際豫メ陸海外三省間ニ左記方針ヲ決定シ置クコトト致シ度シ

記

一、日支事變ニ對スル第三國ノ過早ナル干渉乃至調停ハ極力之ヲ豫防排除スルモ對支軍事行動ノ目的略達成セラレタル時機ニ於ケル第三國ノ公正ナル和平勸告の斡旋ハ之ヲ受理スルヲ妨ケス

二、右方針ハ之ヲ必要ナル在外使臣ニ訓令シ右含ミニテ工作セシムルモノトス但シ之ヲ過早ニ公表シ若クハ外國政府ニ申入ルルコトハ帝國ニ弱味アリテ收拾ヲ焦リ居ルカ如キ印象ヲ與ヘ不得策ナルニ付之ヲ避クルコトトシ唯獨伊兩國ニ對シテハ適當ナル機會ニ於テ豫メ右方針ヲ通達シ以テ帝國政府ノ希望ニ副ハシムル如ク工作ス

三、前記對支軍事行動ノ目的略達成セラレタリト認ムヘキ時
機竝ニ獨伊兩國ニ對シテ本方針ヲ通達スヘキ時機ニ付テ
ハ陸、海、外三省ニ於テ協議ノ上之ヲ決定ス

(欄外記入)

十月二十一日外務大臣決裁

編注一 本文書の外務省高裁案には、広田外務大臣による「日

本ガ九國會議參加拒絶ノ際英米獨伊等ニ此意向ヲ内示
スルコト可然」との書き込みあり、その横に「此點陸
海軍不贊成」との別人の書き込みあり。

二 昭和十二年十月二十七日、広田外相ないしは堀内外務
次官が在本邦英米獨伊各国大使へ九国条約會議不参加
を説明し、日中直接交渉の斡旋方に言及した会談内容
については、本書第925文書および第926文書参照。

~~~~~

174

昭和12年11月7日

在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日本軍の杭州湾上陸に関する中国紙報道振り

## 報告

第二一八一號

上海 11月7日後発  
本省 11月7日夜着

七日漢字紙ハ支那側ノ虚ヲ衝キ杭州湾ヨリ上陸ノ日本軍部  
隊ハ松江ノ南迄進出シタルモ支那ハ大軍ヲ以テ之ヲ包圍シ  
肅清近キニアリ蘇州河南岸ノ支那軍ハ原陣地ヲ確保ス太原  
近郊ハ混戦ニ陥リ砲火猛烈ヲ極ムト報シ申報ハ日本軍ノ杭  
州湾上陸ハ該地方漁民等ノ訓練ナキニ依リ之ヲ豫知スルヲ  
得ス支那ノ失敗ニ付今後民衆訓練ヲ嚴重ニスヘシト悲鳴ヲ  
擧ケ大公報短評ハ山西ノ失敗ノ原因トシテ同省軍政當路高  
官連中カ舊態依然タルコト民衆ノ組織不定ニシテ軍ニ有效  
ナル協力ヲ爲シ得サルコト等ヲ擧ケラルル處今回ノ失敗ヲ  
教訓トシ將來ニ備ヘサルヘカラスト述ヘ居レリ  
又「ノース・チャイナ・デーリー・ニュース」ハ第一面ニ  
大見出ヲ附シ日軍五千乍浦附近ニ上陸セル結果戦局ノ興味  
ハ此ノ方面ニ向ケラレタリト報シ上海「タイムズ」モ同様  
第一面ニ多クノ傍觀者ハ紛争ハ最後ノ局面ニ急進シツツア  
リト報シ居レリ

尙漢字紙ハ日本軍カ朱家濱(蘇州河南)附近ノ戰鬪ニ於テ毒瓦斯ヲ使用セリトカ崑山ニ於テ日本飛行機ハ救護車ヲ爆撃セリ等宣傳シ又六日ノ南京發中央通信ハ日本ノ對支宣戰及大本營設置說ハ九國會議ニ對スル「ゼスチヤ」ニ過キスト傳ヘ居レリ

175 昭和12年11月8日 在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

九国条約會議に期待しつつ抗戦を継続すると  
の蔣介石のロイター会見談につき報告

上海 11月8日午後發  
本省 11月8日夜着

第二一九〇號

南京七日發路透ノ蔣介石トノ會見談通信左ノ通り  
九國會議ニ於テ萬一日支直接交渉ヲ議決スルカ如キハ會議ノ精神ニ反シ日本ニ無理要求ヲ爲サシムルコトトナリ支那ハ愈々困難ノ地位ニ置カルヘシ又日本ハ決シテ約束ヲ守ラサルニ付有效ナル保障ナケレハ日支限りニテ事件ヲ解決スルモ東亞ノ安定及支那ノ保全ニ役立タス軍事ノ將來ニ付テ

ハ支那ノ目的ハ戰鬪力ヲ蓄ヘ日本軍ヲシテ疲弊セシムルニアリ上海浦東ハ決シテ有利ナル防禦地ニアラサルモ支那ハ日本ニ對シ日露戰爭以來ノ大打撃ヲ與ヘタリ戰線後退セハ支那有利トナリ最後ノ勝利ハ支那ニアリ九國會議ニ付テハ結局成功スト思フ處支那ハ條約及國際信義尊重セラルル迄戰フヘシ

176 昭和12年11月8日

外務省作成の「對支宣戰布告ノ得失」

對支宣戰布告ノ得失

一、結論

宣戰ハ不可ナリ

二、理由

試ニ宣戰ニヨル利益ヲ擧ケンニ左ノ如シ

(1)帝國ノ牢固タル戰爭遂行ノ決意ヲ支那側ニ印象セシム但シ反對ニ支那側ノ決意ヲモ固メシメ事態收拾ヲ困難ナラシムル結果トナル處モアリ

(2) 戰時禁制品ノ輸送防遏及戰時封鎖ニヨリ第三國船ニヨル對支武器輸出ヲ防遏シ得ヘシ但シ同時ニ列國トノ葛藤ヲ増シ武力衝突ニ迄至ル危險ナシトセス(香港澳門廣州灣及佛領印度支那等ヲ封鎖シ得サルハ勿論ナリ)

(3) 軍事占領、軍政施行等交戰權ノ行使ヲ爲シ得ルノ利益アリ

然ルニ此等宣戰ヲ利益トスル諸點ニハ同時ニ前記ノ如キ不都合ヲモ伴フ次第ナル處更ニ宣戰ニヨル積極の利益ヲ擧ケレハ次ノ如シ

(1) 宣戰ノ結果ハ支那國民全體ヲ敵トシテ戰フコトトナリ政府ノ累次宣明シタル「日支提携ヲ目的トス」「支那民衆ヲ敵トセス」ト云フ主張ト矛盾スルニ至ル

(2) 宣戰ヲ布告スルトキハ國交斷絶シ直接交渉ノ端緒ヲ擱ムノ途ヲ失フノミナラス講和ニ依リ始メテ國交ヲ恢復シ得ヘキモノナルカ故ニ時局收拾ヲ遲延セシメ場合ニ依リテハ事實上停戰トナリタル後モ相當長キニ亘リ國交ヲ恢復シ得サル事態ヲ生シ得ヘシ(滿洲事變ノ如キモ實質上ハ戰爭狀態ニ在リタルニ拘ラス國交ヲ維持シ後始末ヲ比較的容易ナラシメタリ)

(3) 不戰條約違反ノ謗ヲ受ケ列國ノ對日態度ヲ惡化セシメ邦品不買、對日不賣、對日金融財政上ノ便益拒否等ヨリ經濟制裁ニ迄進ム可能性アリ右情勢ハ結局支那ノ戰意ヲ鼓舞シ其ノ決意ヲ硬化セシムルコトトナルヘシ

(4) 聯盟規約制裁條項ノ適用問題ヲ發生スル可能性アリ日支間ニ宣戰ナル新事態發生セハ聯盟トシテモ日支事變ヲ再檢討セサルヲ得サルニ至リ其ノ結果規約第十七條又ハ第十條第十一條ニ基キ對日制裁の措置ニ出ツルヲ餘儀ナクセラルルニ至ル危險性アリ殊ニ我方宣戰スルモ支那ハ宣戰セス聯盟等ニ對シ日本ヲ侵略者トシテ制裁方泣訴スルカ如キ場合ニ於テ聯盟トシテモ相當思ヒ切りタル措置ニ出ツルヲ餘儀ナクセラルヘシ

(5) 宣戰ノ結果米國中立法ハ當然適用セラレ之カ爲支那ハ現在以上困ラサルヘキモ帝國ハ兵器彈藥軍用器材ハ勿論供給ヲ絶タルノミナラス石油鐵屑其ノ他ノ重要物資ノ供給ヲモ絶タル處大ナルモノアリ又金融上ノ便宜ヲ失フノ不利益ハ我方ニトリ頗ル苦痛トスル所ナリ

(6) 香港及佛領印度支那向武器供給(右ヲ阻止セサレハ宣戰ニヨル利益ノ(2)ハ殆ト無價値トナルヘシ)防遏ノ場合ハ



英、佛等トノ間ニ相當紛争ヲ生シ國際關係ノ惡化スルヲ覺悟セサルヘカラス

(7) 蘇聯邦ハ支那トノ密約ノ有無ニ拘ラス對支援助強化ノ機會ヲ狙ヒ居ルモノト認メラル從テ前記ノ如ク帝國宣戰ノ結果國際關係惡化スル場合ニハ蘇聯ハ此機ニ乘シ積極的行動ニ出テ來ル懸念アリ

(8) 帝國ノ支那ニ有スル治外法權、租界、團匪賠償金其ノ他ノ條約上及契約上ノ權利ヲ喪失スヘク假令戰後此等ヲ恢復シ得ル<sup>(復)</sup>トスルモ完全ナル恢復ハ困難ナルヘシ加之支那ハ日本ノ宣戰ニヨリ一應日本トノ不平等條約關係ヨリ脱却スルコトトナリ南京政府ハ之ヲ國民鼓舞ノ具ニ供シ支那トシテ一致抗日ヲ繼續スルナラハ此等ノ利權ハ永遠ニ支那ニ復歸シ不平等條約撤廢ノ先驅トナラント宣傳ニ力メ國民ノ抗日意識益々強化スルニ至ラン

(9) 在支帝國公私財産及船舶等ハ支那官憲ニヨリ沒收若クハ押收セラルルヲ免レス

要之敍上ノ利益不利益ヲ比較考量セハ宣戰ニヨリ受クヘキ不利不便遙ニ大ナルノミナラス一般ニ日支ノ戰鬪モ大體一段落ニ近ツキツアリト見ラレ、九國條約會議モ日支兩國

ヲ刺戟セサル様穩健ナル態度ニ出テツツアリ、世界ノ輿論モ鎮靜ニ向ヒツツアル今日、突如宣戰ヲ布告スルハ平地ニ波瀾ヲ起スモノニシテ宣戰布告ノ時期トシテモ最モ不適當ナリト認メラル

編注 本文書は、国立歴史民俗博物館所蔵「木戸家史料」より採録。

177 昭和12年11月12日

在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

### 中国軍の上海撤退に関する中国紙報道振り報告

別電 昭和十二年十一月十二日発在上海岡本総領事

より広田外務大臣宛第二二三九号

軍事委員会政治訓練処の声明

上海 11月12日後発  
本省 11月12日夜着

第二二四〇號

十二日漢字紙ハ南市、浦東ノ支那軍ノ撤退ヲ特報シ南市軍警ハ中央ノ撤退電命ヲ受ケ昨夜七時半ヨリ退却ヲ實行シ十

一時頃迄ニ大部分完了シ一五 (三字アキ) 一部殘留抵抗中ト報シ

軍事委員會政訓處ノ上海同胞ニ告クルノ書別電第二二三九號及俞鴻鈞ノ戰略上戰線カ上海ヨリ離ルルモ上海民衆ハ落膽スルコトナク益々國家ニ誠忠ヲ盡スヘシトノ市民ニ告クルノ書ヲ掲載シ申報、大公報短評ハ避難民ノ救済ニ遺憾ナキヲ期スヘシト論シ居レリ又蔣介石カ九國會議ニ對シ支那軍ノ上海撤退ハ戰略上ノ舉ニ出テタルモノニシテ政府及人民ノ徹底の抗戰ハ一日モ忽ニセス如何ナルコトアリトモ九國條約ハ必ス遵守ス九國會議ノ成功ヲ信シテ疑ハスト電報シタル旨ヲ武府「ハバス」電ヲ載セ居レリ

尙本日ノ孫文誕辰紀念日ニ關聯シ神州日報ハ孫文ノ遺囑ヲ引キ支那ハ自由平等ヲ得ル爲戰フモノニシテ其ノ爲ニ民衆(脱?)ヲ喚起シ平等ヲ以テ我ヲ遇スル國家ト聯合スヘシ其ノ國トハ蘇聯ニ外ナラストノ趣旨ヲ論シ特ニ時事新報ハ支那カ全面抗戰ヲ以テ日本ノ軍力ヲ支那ニ引付ケ置ク時カ即チ蘇聯カ起チ蘇支一致行動ヲ執ル時ナリト (二字キ) へ其ノ他民報、中華日報モ論說ヲ掲ケタルカ孫文ノ遺囑ヲ體シ軍 (二字キ) 一致努カヲ爲スヘシト述ヘ居レリ

(別電)

上海 11月12日後發  
本省 11月12日夜着  
第二二三九號

軍事委員會政訓處ハ昨十一日「上海ノ同胞ニ告クルノ書」ヲ發表シ市民ニ訣別ノ辭ヲ述ヘタルカ右ハ支那軍ノ上海附近ヨリノ後退ハ戰略上ノ計畫的退却ニシテ戰事ノ失敗ニ依ルモノニアラス眞ノ抗日戰爭ハ之カラニシテ必ス近キ期間内ニ淞滬ヲ奪回スヘシト強カリ且過去三箇月間ニ亘リ上海市民カ軍民合作抗敵ノ精神ヲ全フセルハ感銘ニ堪ヘスト述ヘタル上軍隊撤去後上海市民ハ日本軍ヨリ種々ノ壓迫及誘惑ヲ受クヘク其ノ痛苦ト犧牲ヲ思ヘハ眞ニ痛心且憂慮ニ堪ヘサルモ軍隊ハ猶上海ヨリ近キ嘉定、南翔ノ線ニ在ルノミナラス殉國將卒ノ靈モ上海ヲ護リ居ルニ付市民ハ艱苦ヲ忍ヒ民族精神發揚ノ中心地タル上海ヲ國家精神上ノ長城ト爲スコトニ努メラレ度ク我軍隊ハ必ス近ク上海ニ歸リ以テ市民ニ報ユヘシト結ヘリ  
北平、天津へ轉電セリ

178

昭和12年11月13日  
在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日本軍の上海全市占領を伝える中国紙報道振  
り報告

付記 昭和十二年十一月二十日

中国国民政府の遷都宣言

上海 11月13日後発

本省 11月13日後着

第二二五〇號

十三日漢字紙ハ上海全市ハ完全ニ日本軍ニ占領セラレ支那軍ハ嘉定、青浦、松江ヲ連ヌル第二線ニ依リ防備ヲ堅ム、山東北部ニモ猛裂ナル戦鬪發生ス、劉湘南京ニ來ル、十二日日本飛行機ハ無錫ニ在ル米國教會ニ投彈シ「アンドリウウス」病院ヲ爆撃セリ等報シ又上海市黨部ノ發出セル全面抗戰ハ一日モ止メス後援工作ニ益々努力スヘシトノ趣旨ノ全國同胞ニ告クルノ書ヲ掲ケ申報ハ租界内ニ支那側各種機關アル處日本ハ武力ニ依リ支那ノ主權ニ屬スル一切ノ政治問題ヲ解決シ得サル譯ニテ英、米、佛各國ハ必スヤ支那ノ主權尊重ノ原則ヲ堅守スヘシトテ租界内ニ於ケル支那側機

關退去問題ニ關シ豫防線ヲ張り時事新報、神州日報ハ歐洲大戦ノ獨逸ノ如ク連戦連勝必スシモ最後ノ勝利者ニアラス敵カ内地ニ入ル程支那側ニ有利ナルモノナリトノ趣旨ヲ述ヘ例ノ如ク激勵シ悲觀的厭世主義者、無智ナル恐日病者何レモ漢奸ノ一種ニシテ警戒セサルヘカラスト述ヘ居レリ尙日本カ九國會議ノ再招請ヲ拒絶セリトノ報ヲ大キク掲ケ大公報カ支那ハ國際協調ヲ望ムモノナレト今ヤ日本カ九國會議ノ出席ヲ拒絶シテ協定ノ方法ナキニ至レルヲ以テ其ノ經過ヲ聯盟ニ報告シ其ノ規約ニ依リ適切ナル辦法ヲ發動セシムヘシ當局ハ此ノ爲ニ努力シ國民ハ上下一致シテ愈團結ヲ固クシ此ノ重大ナル新階段ニ對處スヘシト論シ居レリ

(付記)

國民政府の遷都宣言

一一、一一、二〇

蘆溝橋事變發生以來、北平天津は敵手に落ち、戦事は蔓延するに及び、政府は此の暴日の飽くことなき侵略に鑑み爰に抗戦自衛の方策を決定せり、全國民衆は敵愾心に燃え全將士は忠勇の念に奮ひ立ち、侵略を被りたる各省に於ては

何れも激烈なる奮闘の後壯烈なる犠牲を遂げたり、而して  
淞滬の一隅に於ては抗戦三ヶ月に亘り、各地の將士義を聞  
き難に赴くもの、朝に命を受くれば夕に至るの状ありき、  
其の前線にある者は血肉の己か體を以て塹壕となし、死す  
るも退かさるの決意を示す、暴日は其の陸海空軍の力を傾  
け包圍攻撃し來り、ために陣地は廢墟に化するも將士の信  
念金石の如く、陣に臨みて勇あり死するや壯烈を極むるは  
實に民族獨立の精神を照示し中國復興の基礎を定むるに足  
るものなり。

近來暴日更に貪汚の心を肆まにし、兵を分ちて西進し我  
首都に迫る、其の意圖を察するに暴力を恃み我と城下の盟  
をなさんと企圖せるものにして、彼等は我國か抗戦自衛を  
決定せるの日よりこれ最後の關頭なりとし國家の生存、  
民族の矜持のため、又世界平和のために斷して屈服する餘  
地なきことを我等か已に覺悟せるを知らざるなり、凡そ血  
氣あるの士にして寧ろ玉碎すとも瓦全を恥つるの決心を有  
せざるなし、國民政府は茲に戦況に適應し長期抗戦の全局  
を籌策せんか爲本日より重慶に移駐することとなれり、此  
の後は廣大なる規模に於て更に持久戦闘に従事せん、思ふ

に中國人民の衆多なると土地廣大なるとは、人々必死の心  
を持ちその熱血を以て土地と凝結し一體とならば如何なる  
暴力とても能く之を分離せしめ得るものあらざるなり、外  
に於ては諸外國の同情を得、内にありては民衆の團結あり  
抗戦を繼續することにより我等は必ずや國家民族の生存獨  
立を維持擁護するの目的を達するを得ん、特に此に宣言す。



179 昭和十二年十一月十九日 閣議決定

### 「大本營ト政府トノ連繫ニ關スル件」

大本營ト政府トノ連繫ニ關スル件

昭和十二年十一月十九日 閣議決定

大本營ト政府トノ連繫ニ關シテハ左ノ如ク取計ラヒ度

政戦兩略ノ一致ハ事變處理ノ爲最緊要ナルニ鑑ミ特大

本營ト政府トノ連繫ヲ緊密ナラシムル措置ヲ講スルヲ要

ス而シテ之カ連繫ハ當然陸海軍大臣之ニ膺ルト雖政戦相

關聯スル重要案件ニ就テハ所要ニ應シ關係閣僚ト統帥部

首腦者トノ會談ヲ行ヒ特ニ緊急重大ナル事項ニ關シテハ

御前會議ヲ奏請ス

前者ノ會談ハ内閣總理大臣、陸軍大臣、海軍大臣其ノ他  
 必要ナル閣僚、參謀總長及軍令部總長ヲ以テシ要スレハ  
 臨時必要ノ者ヲ加フルヲ可トスヘシ  
 後者ノ 御前會議ニハ前記閣僚ト參謀總長、軍令部總長  
 ノ外ニ所要ニ應シ 勅旨ニヨリ召サレタル者ヲ列セシメ  
 且 御前會議ノ奏請ハ通常大本營側ト政府側ト協議ノ上  
 總理大臣又ハ兩總長之ヲ行フコトスルヲ可トスヘシ  
 前者ノ會談又ハ 御前會議其ノ他ニ關スル事務ハ内閣書  
 記官長、陸海軍省兩軍務局長常ニ密接ニ連繫シテ之ヲ處  
 理スルモノトス

180 昭和12年11月21日

參謀本部第二課作成の「南京政權ノ將來ニ關  
 スル判斷(案)」

付記 昭和十二年十月三十日、陸軍省軍務局軍務課

作成

「事變長期ニ互ル場合ノ處理要綱案」

一一、一一、二一 第二課

南京政權ノ將來ニ關スル判斷(案)

一、南京政權ハ現在和戰兩派ニ分レ蔣ハ心中和ヲ欲シアルモ  
 對内統制上抗日抗戰ヲ標榜シアリ共產派及少壯抗日派ハ  
 主戰側ニ屬シ又蔣一派及大局派ハ和平側ニ屬シ別ニ反蔣<sup>(付)</sup>  
 派ノ存在アリテ兩者ノ間ニ交錯ス

而シテ和戰兩派ノ對立ハ時日ノ經過ニ伴ヒ對内苦境ノ増  
 大ト共ニ益々深刻化スヘシ

二、南京政權ノ戰爭持久方策ハ英、蘇、米ノ協力ニ期待シ英  
 二對シテハ廣東香港ヲ蘇ニ對シテハ新疆ヲ直接ノ連絡線  
 トシ又米ニ對シテハ外交施策ニ依ルヘク更ニ長期持久ノ  
 場合ニハ安南ヲ通スル連絡線ヲ考慮シアリ

三、講和ヘノ移行ハ左ノ方法ニ依ルナラン  
 イ、蔣一派カ主戰派ヲ彈壓シテ行フモノ

ロ、蔣ハ下野シ政權ヲ委讓セラレタル繼承者カ行フモノ  
 ハ、反蔣派カ蔣政權ヲ倒壞<sup>(裏)</sup>シテ行フモノ

右何レノ場合ニモ主戰派(反中央政權派)ハ統制外ニ自立  
 シ戰後ニ問題ヲ遺ス

而シテ自立政權領域ノ大小ハ講和政權ノ實力ニ依リ差異  
 アルヘク自立派ノ掃滅ハ講和政權ノ擔任トナルモ日支共

同ノ關心タリ

四、持久ヲ企圖スルトキハ左ノ如キ方法ニ依ルナラン

イ、南方開放セラレアル場合ハ主トシテ之ニ依リテ補給

シ持久戦ヲ繼續ス

ロ、南方遮斷セラルル場合ハ奥地ヲ保持シ主トシテ後方

擾亂工作ニ依リ持久ス此ノ場合時日ノ經過ト共ニ赤化

ノ傾向ヲ辿リ他政權ノ發生ト共ニ一地方政權ニ墮ス

ハ、蔣政權篡奪者ニ依リ持久ヲ強行ス此ノ場合ハ大規模

ノ赤化ニ移行ス

右何レノ場合ニモ支那ハ分裂ノ形勢トナル是天下動亂ノ

兆ナリ

五、現在ノ情勢ニ於テハ講和ヘノ移行(第三項)ノ公算多ク亦

之ニ努ムヘキモノナリ

若シ我諸般ノ施策ニシテ機宜ヲ失シ時日ヲ遷延セハ一般

ノ情勢持久(第四項)ニ陥ラン今ヤ其轉機ナリ

(付箋)

意見 軍務課(川本印)

講和ノ對照ハ寧ろ南京政府カ分裂スルヤ否ヤニ關スルモノニア

ラスシテ支那カ反省スルヤ否ヤニ存ス此見地ヨリ支那ノ現状ヲ

觀察スルニ今カ講和ヲ斷行スヘキ絶好ノ時機ナリトハ斷言シ得

ス

編注 本文書および本文書付記は、參謀本部と軍務局の間で

相互に検討されたものと思われる。

(付記)

事變長期ニ互ル場合ノ處理要綱案

昭和一二、一〇、三〇 軍務課

方針

一、南京政府ニシテ遂ニ反省セス交渉ノ對象トスヘカラサル

ニ於テハ一地方ノ共産政權ト見做シ所有方法ヲ以テ之カ

壞滅ヲ計ルト共ニ一方北支政權ヲ擴大強化シ更生新支那

ノ中央政府タラシムル如ク指導シ併せて此地域ニ於ケル

産業ノ開發、貿易ノ促進、治安ノ恢復安定ヲ計リ以テ支

那ノ更正ヲ北支ヨリ全支ニ及ホス如ク施策ス

要領

一、右方針達成ノ爲軍事行動ハ最小限左記ノ如ク進捗セシム

3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

- 1、韓復榘ノ態度ハ上海方面ノ作戰ノ進展ニヨリ漸次中央ヨリ離隔スルニ至ルモノト判斷セラル、モ然ラサル場合ニ於テハ少クモ濟南ヲ攻略シ山東工作ノ據點タラシム尙要スレハ一部ノ兵力ヲ以テ青島ヲ占領スルコトアルヘキヲ考慮ス
- 2、平漢線方面ニ於テハ主力ヲ以テ石家庄附近ニ集結シ平漢線沿線方面ヲ把握スルト共ニ山西工作ニ呼應セシム<sup>(付箋二)</sup>
- 3、山西方面ニ於テハ太原ヲ手中ニ收メ對山西工作ノ據點タラシム
- 4、察哈爾、綏遠、内蒙方面ハ軍ノ實力ト内蒙軍ノ利用、綏遠政權ノ招撫ニヨリ此等地方ヲ我權力下ニ置ク
- 5、上海方面ニ於テハ既定ノ方針ニヨリ速ニ上海周邊ノ支那軍ヲ擊攘シ南京トノ交通ヲ絶チ常熟、蘇州及嘉興ノ線ヲ占領ス
- 福建方面ニ在リテハ狀況之ヲ許セハ厦門ヲ占領シテ對福建工作ノ根據タラシム
- 6、海上交通ノ遮斷支那要地特ニ粵漢線ノ爆撃ハ依然執拗ニ之ヲ續行此際爲シ得レハ戰時封鎖ニ準スル方法ヲ

取ルコト、シ支那側戦力ト戦意ノ消耗ヲ期ス

- 7、北支五省ノ結成ヲ見ルニ到ラハ左記ノ如ク日本軍隊ヲ配置シ治安ノ維持ト人心ノ安定ニ任ス但シ其兵力ハ<sup>(付箋三)</sup>必要ノ最小限トスルモノトス

左記略ス

二、獨立政權ノ培養、指導

治安維持會聯合會ニヨル北支ノ統一の政務指導ハ日本軍勢力範圍内ニ於ケル後方治安維持ノ爲設定ヲ見タルモノナルモ支那側カ長期抵抗ヲ敢テスルニ於テハ北支ノ統一の政務指導ハ將來更生支那ノ中心トナルヘキ政權ノ基礎ヲ培養シ其發達ヲ助長ス

- 1、現北京、天津、冀東ヨリナル治安維持會聯合會ヲ擴大強化シ河北省内各地ノ治安維持會ヲ統合シ速ニ河北省ヲ代表シ得ル政權ヲ確立ス
- 2、察哈爾省ニ於テハ察南自治政府ヲシテ察哈爾省政府ニ發達セシム
- 3、山西省ニ於テハ政治工作ニヨリ成ル可ク速ニ全省統一政權ノ樹立ヲ計ルモ差當リ既設晋北自治政府竝太原

附近ニ設置セラルヘキ治安維持會ヲ指導シ山西省代表  
政治機關ヲ成立セシム

4、綏遠省ハ内蒙新政權ニ合流セシム此際特ニ漢蒙兩民  
族ノ融合ニ關シ特別ノ考慮ヲ拂フ

5、山東方面ニ對シテハ努メテ政治工作ニヨリ反南京ノ  
獨立政權ノ樹立ヲ企圖ス

6、右河北(冀東ヲ含ム)、山東、山西、察哈爾ノ各獨立  
政權ノ樹立ヲ見レハ此等北支五省ノ聯合ヲ策シ漸次連  
省自治ノ形態ニ進マシム

此際政府要人ノ選任ニハ特ニ意ヲ用ヒ地方的ニ偏セス  
有爲ノ士ハ廣ク之ヲ全支ニ求ム

(終局ニ於テハ軍事、外交、財政ヲ連省政府ニ於テ掌  
握ス)

7、爾後中、南支ニ呼ヒカケ聯省政府ニ對スル合流ヲ策  
スルト共ニ逐次支那中央政府ニ代ルヘキ政府ヲラシム  
ル如ク指導ス

8、中南支方面ニ對スル施策ニ關シテハ別途研究ス

### 三、治安維持

1、治安維持ノ爲警察並保安隊ヲ設置スルモ成ル可ク其

ノ數ヲ限定シ其ノ素質ヲ優良ナラシムルノ主義ヲトル  
2、右指導ノ爲要スレハ日本人顧問ヲ配スルモ力メテ其  
ノ數ヲ制限シ成ル可ク中央官衙ニ限ル

3、當政權ニハ當分ノ間正規軍ヲ設置セサルモノトス  
四、對滿蒙關係ノ調整

#### A、對滿關係

1、諸般ノ關係ニ於テ新政權ヲ援助スル如ク指導スルモ  
北支政權乃至民衆ヲシテ滿洲國ノ政治的又ハ領土の野  
心ト認メラル、如キ行動ハ嚴ニ之ヲ慎マシム

2、北支新政權ノ發達ニ伴ヒ其ノ權威ヲ高メ滿洲國ノ理  
解ヲ十分ナラシムル爲相互ノ間ヲ律スヘキ條約乃至取  
極メヲ結ハシムル如ク指導シ要スレハ代表ヲ交換ス

終局ニ於テ日、滿、北支、内蒙間ニ防共、軍事協定ヲ  
締結スル如ク指導スヘキモ其ノ時期ハ過早ナラサルヲ  
要ス

3、滿洲國ト北支トノ交通貿易關係ヲ密接ナラシムル如  
ク指導ス

#### B、對蒙關係

1、内蒙ニ於ケル自治政府ノ發達ニ伴ヒ南京政府ニ對シ



テハ常ニ北支政權ト其ノ態度ヲ共ニシ協同動作ニ出テシムル如ク指導ス

2、日本ノ實力北支、内蒙ニ伸暢セル機會ヲ利用シ帝國ノ伸介斡旋ニヨリ永年ノ問題タル漢蒙關係ノ根本的解決ヲ計ル殊ニ兩者勢力ノ錯雜セル綏遠省並綏東地區ノ公平妥當ナル解決ヲ期ス

右施策ノ著眼ハ蒙古民族ノ團結ト依日ノ氣運ヲ起サシムルト共ニ其經濟的獨立ノ道ヲ講シ以テ強固ナル防共地帯ノ設定ニ資ス、又漢民族ニ對シテハ蒙古民族ノ生存ヲ脅威セサル範圍ニ於テ其ノ發展ノ途ヲ開ク如ク協定セシム

3、内蒙政權ト北支政權トノ關係ハ北支政權發達ノ狀況ニヨリ差異アルヘキモ當初北支五省ノ範圍ニ於テハ友好關係ニアル對等ノ政權トシテ指導スルモ將來北支政權ノ發展ヲ豫期シ得ルニ到ラハ其ノ宗主權下ニ特別區トシテ發達セシムル如ク指導ス

4、滿洲國ハ内蒙政權ニ對シテ形而上下ニ於ケル熱烈ナル援助ニヨリ其ノ不可分關係ノ樹立ニ努メ要スレハ其ノ關係ヲ律スヘキ協定ヲ結ヒ代表ノ交換ヲ行ハシム

5、滿蒙、北支蒙古間ノ交通、貿易ノ發達ヲ計ルト共ニ蒙古民族ノ文化向上ニ協力ス

6、日、滿、内蒙、北支間ニ於ケル防共、軍事協定ノ締結ニ關シテハ對滿關係ニ述ヘタルト同様ナルモ内蒙ト日滿トハ要スレハ北支ニ先ンジ防共、軍事協定ヲ締結スルヲ妨ケス

五、經濟並ニ文化工作ニ就テ

北支ニ於テハ成ル可ク速ニ左記著意ノ下ニ經濟工作ヲ開始シ時日經過ト共ニ北支ノ獨立性ト日滿支依存關係ノ強化ヲ計ル

1、差當リ戰禍、水災ニヨル窮民救濟ノ資ニ供シ得ルカ如キ經濟工作ヲ行ヒ收攬ニ努ム

2、帝國ノ現況ニ即シ當初ハ成ル可ク資金ヲ要セスシテ民衆ノ利益トナルカ如キ工作、例ヘハ鹽田開發、棉花工作等ヲ行ヒ逐次鑛工業ニ及ホスカ如キ順序ヲ採ル

3、日、滿、北支ヲシテ眞ニ一經濟「プロツク」トシテノ依存關係ヲ絕對化シ三者ヲシテ分離シ得サルカ如キ状態ニ立到ラシム

4、北支ノ經濟工作ハ支那資本要スレハ外國資本ノ導入

(付箋四)

ヲ計リ日本獨占ノ思想ヲ排除ス

但シ日滿ノ産業トノ調和ヲ計リ相互撞着ナカラシムル如ク指導ス

5、北支金融ヲシテ日滿ニ依存セシメ且南京政府ト分離獨立シ得ル金融組織ヲ採ラシム之カ爲天津、青島、秦皇島、芝罘、龍口、威海衛ノ海關ハ之ヲ接收ス但シ外債擔保部分ハ之レヲ保留セシム

6、北支政權ヲシテ日本軍駐屯費ノ一部ヲ分擔セシムル如ク指導ス

7、北支ト中南支トノ貿易關係ヲ杜絶セシム但シ中南支ニ於ケル親日政權ニ屬スル區域ニ對シテハ此ノ限りニアラス

8、文化工作ニ當リテハ徒ラニ賣恩的工作ヲ警メ支那在來ノ風俗習慣ヲ尊重シ支那人ヲシテ自ラ充分活躍セシムル如ク指導ス

#### 六、引上ケ居留民ノ處理

事變長期ニ亘ル場合ニ於テハ引上ケ居留民ノ處理ヲ適當ナラシムルコト必要ニシテ海外發展ノ第一線ニ立チアリシ日本臣民ヲ虐待シ且無爲ニ終ラシムルカ如キコトナキ様

措置スルコト必要ナリ之カ爲採ルヘキ方策左ノ如シ

1、衣食ニ窮スル引上ケ居留民ノ救恤ニ關シ國家トシテ速ニ有效適切ナル手段ヲ講シ外務省内ニ此等ノ世話ヲナス一委員會ヲ設立ス

2、北支ニ在リシ居留民ヲシテ復歸セシムルト共ニ山東殊ニ青島ハ各種ノ手段ヲ盡シ狀況許スニ到ラハ速ニ復歸セシム

3、長江沿岸奧地引上者ニシテ當分復歸ノ望ナキ者ニ對シテハ上海及北支ニ各一機關ヲ設ケテ優先的ニ就職斡旋ノ道ヲ講セシム

4、南支方面ヨリ臺灣ニ引上ケアル者ハ各種ノ手段ヲ盡シ成ル可ク速ニ局地ニ復歸セシムル如ク指導スルモ要スレハ就職斡旋ノ機關ヲ臺北ニ設置ス

#### (付箋一)

大体異存無之

細部ハ別紙情勢判斷御參照被下度 晴氣

川本中佐殿

#### (付箋二)

黄河以北ノ肅清ヲ必要トス

(付箋三)

速カニ先ツ北支ヲ中心トスル中央政府ヲ設立シ次イテ其下ニ各  
地方政府(省政府)ヲ樹立セシムル如ク指導スルヲ要ス但治安維  
持會ハ其本來ノ性質上省政府等ニ發展セシムルコト困難ナルヘ  
シ

(付箋四)

經濟工作ハ南京ニ對シテハ凡有攪亂工作ヲ講シ以テ長期抵抗ヲ  
不可能ナラシムルノ方策ヲ探ルト共ニ北支、上海ニ對シテハ資  
源ノ開發竝經濟復興ニ努メ以テ我戰力保持ノ資ニ供スルヲ要ス

181

昭和12年11月24日

在張家口中根總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

蒙疆連合委員会成立について

付記 昭和十二年十一月二十二日

蒙疆連合委員会設立宣言

張家口 11月24日後発

本省 11月24日夜着

第二五四號

察南・<sup>(音カ)</sup>普北・蒙古三自治政府ノ指導統制ヲ計ル爲廿二日當  
地ニ於テ三政權代表(蒙古側察哈爾盟長卓。圖。巴。札。布。察南  
側最高委員于品卿。普北側最高委員夏恭)ノ間ニ蒙疆聯合  
委員會ニ關スル協定ノ調印ヲ了シ即日成立セルカ同委員會  
ハ總務委員會及產業、金融、交通ノ三専門委員會ヨリ成リ  
三政權ハ共通ノ重要政務ニ付其ノ權能ノ一部ヲ之ニ移讓ス  
ルモノニシテ蒙古側三名、<sup>(音カ)</sup>察普各二名、計七名ノ代表委員  
ヲ以テ構成スル總務委員會ノ委員長(當分缺員トシ最高顧  
問金井章治其ノ職務ヲ代行ス)聯合委員會ノ名ニ於テ命令  
ヲ發シ政治ヲ執行スルコトナリ居レリ(協定文其ノ他郵  
報)

尙同日三政權ノ連帶債務(各百萬元宛分擔)トシ滿洲中央銀  
行ヨリ三百萬元借款(期限五箇年、年利五分)ノ形ニテ「ク  
レジット」ヲ設定シ資本金一千二百萬元(四分ノ一拂込)ノ  
蒙疆銀行ヲ設定スルト共ニ察南銀行ハ之ト合併スルコトト  
ナレルカ總裁ハ當分缺員トシ副總裁ニハ察南副總裁山田シ  
ゲシ就任スル趣ナリ  
北平、天津、上海へ轉電セリ

(付記)

蒙疆聯合委員會設立宣言

一一、一、二二

暴戾なる南京政府竝に軍閥の羈絆を脱し、敢然起つて東亞永遠の平和確立の大旆を掲げ相次いで設立を見たる我か察南自治政府、晋北自治政府、蒙古聯盟自治政府は、相互の善隣關係を促進し各政府共同の目的たる防共、民族協和、竝に民生向上の實現に向つて邁進する爲、茲に相計りて本日を期し蒙疆聯合委員會を設立し以て相互に利害休戚を同ふし偕に相關聯する重要事項に關し緊密なる協議統制を加へ以て各自政府の協力に依り蒙疆方面七百萬人の人心安定を圖り本地方一帯をして明朗一點の曇りなき樂土たらしめんことを期す、聯合委員會の設立に當り右宣言す

成吉思汗紀元七百三十二年十一月二十二日

蒙疆聯合委員會

182

昭和12年12月7日

在本邦デイルクセン独国外務大臣宛  
廣田外務大臣宛

日本政府の和平条件に対する蔣介石回答を仲

介傳達した独国覚書

付記

昭和十二年十二月三日、海軍軍令部が傍受した十二月二日發孔祥熙行政院副院長より在米

国王正廷中国大使宛電報

在中国独国外務大臣が提出した日本の講和条件に

ついて

<sup>+</sup> 日支事變媾和斡旋ニ關シ駐日獨逸大使ヨリ廣田

外務大臣ニ手交セシ通牒

日本外務大臣ハ十一月二日駐日獨逸大使ニ對シ日支事變媾和交渉ノ爲ノ基本原則トシテ當時日本政府部内ニ於テ專ラ行ハレアリタル考案トシテ左ノ諸項ヲ示サレタリ  
一、内蒙古民族ハ自治政府ヲ樹立ス

其國際的地位ニ關シテハ外蒙ニ同シ

二、北支ニ於テハ滿洲國國境ヨリ南方天津北平ニ亘ル間ニ非

武装地帯ヲ設定シ支那警察隊之カ治安維持ニ當ル

直チニ平和成立ノ場合ニ於テハ北支全行政權ハ南京政府

ノ手ニ存スルモ此場合ニハ日本ハ行政長官トシテ親日的

人物ヲ希求ス

又若シ直チニ平和成立ヲ見サル時ハ新行政機構ヲ創設ス

3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

ルノ必要アリ

新機關ハ平和締結後ト雖其機能ヲ繼續ス

經濟問題ニ關シテハ事變勃發前交渉中ナリシ鑛產權利讓

二關シ日本ニ満足ナル結果ヲ生スヘシ

三、上海ハ非武装地帯ヲ擴大シ國際警察隊ヲ設ケテ之ヲ管理

ス

其他ニ關シテハ變更ヲ加フル企圖ヲ有セス

四、日本ハ抗日政策ノ廢止ヲ要求ス右ハ一九三五年ノ南京交

渉ニ同シ

五、共產主義ニ對シ協同シテ戰フ

但右ハ「ソ」支不侵略條約ヲ抵觸セス

六、日貨ニ對スル海關稅ヲ低減ス

七、外國ノ權利ヲ尊重ス

右ノ諸件ハ獨逸政府ニ通達セラルル同政府ハ駐支同國大使

「トラウトマン」ヲシテ十一月六日蔣介石ニ傳ヘシメタリ

蔣介石ハ之ニ對シテ左ノ如ク回答セリ

日本カ事變前ノ情態ニ復歸スルノ用意ヲ有スルニ非スン

ハ支那政府ハ如何ナル日本側ノ要求ヲモ受諾シ能ハス勿

論日本ノ要求事項ノ若干ニ就テ交渉スルコト必スシモ不

可能ニアラサルモ右ハ日本カ事變前ノ情態ニ復歸シタル  
後ノコトナリ

加之支那ハ目下「ブラッセル」ニ於テ列強ト協力中ナル

ヲ以テ支那トシテ是等ニ關スル公式攝受ハ困難ナリ

十一月二十日頃駐日獨逸大使ハ廣田外相其他トノ談話ニヨ

リ此際獨逸政府カ更ニ平和空氣ヲ打診スルコトハ日本ニ於

テ歡迎セラルルヘキコト

日本ノ平和條件ノ主要條項ハ前ノモノニ同シカルヘキコト

又北支ニハ未タ新機構發生シアラサルヲ以テ北支ノ自治ハ

要求セラレサルヘキコト等ニ關スル印象ヲ得之ヲ獨逸政府

ニ報告セリ

「トラウトマン」大使ハ十二月二日蔣介石ト會見ス蔣ハ

「ト」ニ對シ日本ノ要求ハ前ト同様ナリヤト尋ネタルニ對

シ「ト」ハ主要條項ハ變化ナキ旨答ヘタリ

蔣曰ク

一、支那ハ媾和交渉ノ一基礎トシテ日本ノ要求ヲ受諾ス

二、北支ノ宗主權、領土保全權、行政權ニ變更ヲ加フヘカ

ラサルコト

三、獨逸ハ當初ヨリ媾和交渉ノ調停者トシテ行動スヘキコ

ト

四、支那カ列國トノ間ニ締結セラレタル條約ハ媾和交渉ニ  
依リ影響ヲ受ケサルコト

終リニ於テ蔣ハ曰ク

支那ハ協調的精神ヲ以テ日本ノ要求ヲ討議シ諒觸<sup>(解)</sup>ニ達ス  
ル用意アリ日本ヨリモ同様ノモノヲ期待ス

ト述ヘ停戰ニ關シテハ

本宣言カ日本政府ニ傳達セラレタル後且日本政府ノ承認  
ヲ經タル後ニ於テ「ヒットラー」總統ヨリ東京竝南京ニ  
對シ敵對行爲ヲ終熄<sup>(根)</sup>スヘキ公式竝嚴肅ナル「アツピー  
ル」アリテ之ヲ行フヘキコトニ同意セリ

「トラウトマン」大使ハ前記蔣ノ申出ノ第三項ニ關シ獨逸  
カ媾和交渉ノ調停者タルカ如キハ以テノ外ニシテ獨逸ハ唯  
兩者接近ノ斡旋<sup>(ワカ)</sup>テナスニ止ル旨述ヘタルトコロ蔣ハ之ヲ諦  
メタリ

編注一 本文書の原文は見当たらない。

二 石射東亞局長の回想(昭和十九年五月十九日付覚書、外

務省外交史料館所蔵)によれば、十二月七日の独国外使

通牒に接した広田外相は、「右回答ニ基キ帝國政府ノ  
方針ヲ決定セントセル處當時ハ我國内ニ於テモ既ニ大  
本營政府聯絡會議開催セラレ居リ支那ニ於テモ南京陷  
落シ居リテ内外一般ノ形勢ニモ變化アリ、順序トシテ  
モ右方針ヲ一應大本營政府聯絡會議ノ承認ヲ求メサル  
ヘカラサルコトトナリ居リタルニ付石射東亞局長ヨリ  
町尻陸軍軍務局長<sup>(井上)</sup> 海軍軍務局長ニ相談シ前記ノ  
方針ヲ(マ)月(マ)日聯絡會議ニ於テ審議ノ爲提出セリ聯絡  
會議ニハ近衛首相杉山陸相米内海相末次内相廣田外相  
賀屋藏相出席アリ多田參謀次長古賀軍令部次長等モ出  
席シ石射東亞局長ヨリ詳細説明シ此ノ上條件ヲ附加ス  
ルコトアラハ到底國民政府ノ承諾スル見込ナキ旨力説  
セリ然ルニ新ニ加ハリタル末次内相ハ strongest 二反對シ  
沿岸ニ海軍根據地ヲ求ムルコト賠償ヲ求ムルコト北支  
ノ特殊地帶ヲ求メ上海方面ニ非武装地帶ヲ設定シ滿洲  
國ヲ承認スルコト等條件ハ頗ル強硬ナルモノトナリタ  
リ米内海相古賀次長等ハ之レニ反對シタルモ大勢ニ押  
サレテ廣田外相モ亦自カラ筆ヲ執リテ原案ニ加筆スル  
等ノコトアリテ遂ニ強硬説カ勝ヲ制シ之ヲ傳達スルコ

(付記)

トトナリ然モ日限ヲ二週間ニ限ルコトトセリ、獨逸大使ニ於テハ之レハ伯林ニ請訓シ更ニ在支トラウトマン大使ニ訓令ヲ要スル次第ナルニツキ到底二週間ニテハ回答ヲ期待シ得サルヘシトノ見込ナリシニ付年末迄回答ヲ期待スル旨附言シテ國民政府ニ傳達方ヲ依頼セリ」との経過をたどつたと言ふ。

軍令部第十一課

昭和十二年十二月三日

十二月三日〇九五五東京傍受

十二月二日二一四五 發信

發漢口孔祥熙

宛駐華盛頓支那大使

日本ヨリ獨大使ニ託シ提起セル構和條件

親展

先月五日獨國大使來訪左ノ日本ノ和議條件七ヶ條ヲ提セリ  
一、支那主權下ニアル内蒙自治ノ地位ヲ外蒙ト同等ニス  
二、滿〇ニ沿ヒ平津以南一帯ニ非戰區域ヲ設定シ一(五字不

明)―北支行政ハ支那全權ニヨリ之ヲ處理ス而シテ該區ノ最高長官ノ人選ハ對日理解者タルヲ要ス

目下ノ情勢ニ於テ〇セハ和議ノ成立ハ可能ナルモ北支ニハ必ス新政府ヲ設置シ該政府ハ其ノ成立後戰爭前ニ於ケル礦産ノ權利讓與等ノ交渉事件ニ關シ満足ナル結果ヲ具フル様繼續商議ヲ行フヘシ

三、上海ハ非戰區ヲ擴大シ國際警察ニヨリ之ヲ管理ス、其ノ變更ハナシ

四、排日政策ヲ停止シ一九三五年日本提出ノ條件ヲ接受スルコト

五、共同防共

六、日貨ノ輸入税ヲ低減ス

七、外人ノ權利ヲ尊重ス等

支那ハ當時九國會議ニ際シ日本ノ提議ハ之ヲ受理スル能ハストシテ婉曲ニ獨國ノ好意ヲ謝絶シタリ然ルニ「ブラツセル」會議失敗ニ歸シ軍事亦利アラス、國聯ハ切實ニ我ヲ援助スルノ辦法ヲ講セサル以上國手ト雖モ起死回生ノ道ナシ日本ハ昨日又獨國大使ニ託シテ重ねテ調停ヲ提起シ來レリ、而シテ停戰構和ノ條件ハ依然前案ニ根據セリ

貴兄ノ觀察ニヨリ近來歐米ノ日支問題ニ對スル趨勢如何、  
切實ニ我ヲ援助セントスル〇〇アリヤ否ヤ

停戰交渉提議ニ對シ我ハ之ヲ接受スヘキヤ否ヤ右詳細御電  
示相成度

以上ノ述フル所ハ極祕ニシテ國ノ内外人ヲ問ハス之ヲ知ル  
モノナシ

此ノ國家緊急關頭ニ際シ特ニ密電シ以テ參考ニ供ス祕密ヲ  
守ラレ度

御高見アラハ密報ヲ乞フ



183 昭和12年12月8日 大谷(尊由)拓務大臣より  
広田外務大臣宛

### 事變解決方針に関する拓務省意見の送付について

官文第九五九號 (12月9日接受)

昭和十二年十二月八日

拓務大臣 大谷 尊由(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

對支方策ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ意見書瀧企畫院總裁宛提出致置キタル處別

紙寫御參考迄及送付候也

(別紙)

對支方策

我對支軍事行動着々進捗シ首都南京ノ攻略既ニ目捷ノ間ニ  
迫ル從ツテ此際急速ニ對支根本方策ヲ決定シ之レヲ實施ス  
ルヲ要ス

一、對支根本方策

(1) 東洋永遠ノ平和確立ヲ目標トス

(2) 蔣政權ノ如何ニ關ラズ左ノ地域ニ駐兵ス

(イ) 北支方面ニ於テハ現占據地域(狀況ニヨリ之レヲ擴

大スルモ可ナリ)ニ駐兵ス

(ロ) 南京ヨリ大湖ヲ經テ嘉興(松江)ニ至ル線ト揚子江ト

ノ間ノ地域ヲ保證占領ス

但シ上海ニハ特別市制ヲ布ク

(3) 北京ヲ聯省自治政府ノ所在地タラシム

二、對支政治、行政ノ根本方針

(1) 支那民衆ノ經濟力ヲ復興シ其生活及文化ノ向上ヲ圖ル

(2) 支那新中央政權ニ帝國ヨリ最高指導機關ヲ特派ス(特



3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

派大使トスルモ可ナリ)

(3) 諸施設ハ支那ノ民情ニ即セシム

三、支那ノ政治、行政機構

(1) 支那中央政權竝ニ地方政權ノ樹立

(イ) 北京ニ聯省自治政府ヲ樹立セシメ各省自治政府ヲ統轄セシム

(ロ) 我占據地域ハ勿論其他ノ各地方ニ於テモ自治政府ヲ組織セシム

(ハ) 行政權運用ノ形式ハ從來ノ制度ヲ重ジ急激ナル改變

ヲ加ヘズ民情ニ即セシム

(2) 帝國ト支那中央政權トノ聯繫

(イ) 國防、外交及重要ナル經濟政策ニ關シテハ帝國ト協同處理ノ方途ヲ講ズ

(ロ) 聯省自治政府所在地ニ帝國ヨリ其最高指導機關ヲ派シ前號ノ處斷ニ當ラシム

(ハ) 最高指導機關ニハ文武ノ幕僚ヲ附屬セシム

(ニ) 各省自治政府ニ邦人顧問ヲ置ク

(ホ) 最高指導機關ハ各省自治政府顧問ヲ統轄ス

四、支那經濟開發

(1) 根本方針

(イ) 日、滿、支、經濟「ブロック」ノ強化ヲ期ス

(ロ) 北支、中支、南支ノ地區ニ大別シ各々其特殊事情ニ

應ジ方針ヲ定ム

(ハ) 軍事上及交通上特ニ必要ナルモノ竝ニ日滿支經濟「ブロック」構成ニ特ニ必要ナルモノ以外ノ經濟開發ニ就テハ門戸解放主義ヲ採ル

(ニ) 此際特ニ支那側資本及米國資本ノ導入ヲ企圖ス  
(註) 米國ニ對シテハ導匯借款事業ノ復活、水利事業

ノ開發等ニ當ラシム

(2) 具體的措施

(イ) 北支及中支經濟開發ノ綜合中樞機關トシテ一大國策會社ヲ新ニ設立ス

(ロ) 南支ニ對シテハ臺灣拓殖株式會社ヲシテ之レニ當ラシム

(ハ) 國策會社ハ日本政府ノ監督ヲ受クル特殊會社トシ投資竝ニ事業ノ統制及特殊事業ノ經營ニ當ルモノトス

(ニ) 聯省自治政府最高指導機關ハ右特殊會社ニ對シテモ指導ノ任ニ當ルモノトス

- (ホ)各種産業部門ニ於ケル具體的事業ニ關シテハ右國策會社トノ密接ナル聯絡ノ下ニ日本産業資本ノ進出ヲ勸奨シ各々其特殊技能ヲ充分利用セシムルト共ニ地元資本ノ活動ヲモ促進セシムル様措置スルモノトス
- (ヘ)國防産業及交通ニ對スル外國人ノ權益ハ漸ヲ逐フテ之レガ回收ヲ圖ルコトヲ要スルモ其他ノ一般産業ニ對シテハ友邦諸國ノ既得權益ハ充分之ヲ尊重スルト共ニ我國ノ指導權確保ニ支障ヲ生ゼザル限界ニ於テ之等諸國ノ新規投資ヲ認ムルモノトス
- (ト)金融機關ノ整備改善ヲ圖ル爲メ(一)發券銀行ヲ整理統一シ聯省中央銀行ノ速ナル實現ヲ圖リ(二)農村金融ノ確立ヲ期スル爲メ合作社ノ普及發達ヲ助成スル等ノ方策ヲ講ズルモノトス
- (チ)交通、運輸施設整備ノ爲メ、鐵道道路ノ建設、改修、港灣ノ修築、自働車、航空及沿岸、内水航路ノ諸施設ノ充實ヲ圖ルモノトス
- (之等ノ施設ハ各地域ノ特殊性ニ應ジ南滿洲鐵道株式會社、航空運輸株式會社、日清汽船株式會社等ノ既設ノ同種會社ヲシテ特ニ代行セシムルヲ適

當トスルコトアルベシ)

- (リ)農業(開拓事業ヲ含ム)、鑛業、鹽業、工業、水利、動力事業等ニ關シテハ支那民衆ノ經濟力復興ノ爲メ極力之レガ開發ヲ圖ルト共ニ我國重要資源確保ノ見地ヨリ適當ナル措置ヲ講ズルモノトス
- (ヌ)聯省自治政府ノ收入タルベキ關稅、鹽稅ニ關シテハ外國借款ノ擔保ヲ保證スルト共ニ聯省自治政府ノ收入ヲ確保スル爲メ之レヲ整理スルモノトス
- 特ニ關稅ニ關シテハ日、支貿易ノ調整ヲ圖ル爲メ適當ニ措置スルモノトス
- 五、文化事業
- (一)現在ノ支那各地方ニ於ケル小學校ヲ基礎トシ中等程度ノ教育指導ヲ目標トシ計畫實施ス
- (二)女子教育普及ノタメ充分ノ施設ヲ講ズルモノトス
- (三)醫學、實業、自然科學ヲ主トスル大學教育ヲ起ス
- (四)日支兩國民族ノ國民性ヲ相互ニ理解セシムル如キ文化運動、東洋文化復興運動ヲ起ス

(終)

184

昭和12年12月10日  
在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

南京城内の中国軍に対する松井司令官の投降

勸告を伝える中国紙報道振り報告

上海 12月10日後発  
本省 12月10日夜着

第二五八九號

十日漢字紙ハ南京城内ハ各所ニ火災起リ棲霞、湯山、大校飛行場ハ占據セラレ光華門突破セラレタルモ支那軍ハ尙之ヲ堅守ス等報シ松井軍司令官ヨリ唐生智ニ對シ本十日正午ヲ限り投降ヲ勸告セルコト又我方ヨリ南京在留ノ外國人ニ退去勸告ヲ通報セルコトモ載セ外交部發言人カ蔣介石ハ此ノ國家危急ノ秋ニ全國領導ノ責任ヲ拋棄セス難局擔當ノ決心ヲ有スト語り蔣ノ下野ヲ否認セルコト及孔祥熙モ同様蔣介石ノ外遊說ヲ否認セルコト等ヲ漢口國民社電報ニテ報シ又國民政府ハ軍政府組織トナリ朱、毛、彭等ハ政府部内重要分子トナルヘシトノ路透消息ヲ特報シ居レリ  
尙伊太利カ本週中ニハ聯盟ヲ脱退スヘシトノ外電ヲ大キク掲ケ大公報短評ハ右ハ滿洲國承認ト關係アリ聯盟脱退ノ日

獨伊各國ノ結成ハ注目ニ値スト述ヘタリ  
北平、天津へ轉電セリ

185 昭和12年12月14日

南京陥落に際しての近衛総理談話

南京陥落ノ際ニ於ケル首相談(十二月十四日)

サシモノ南京カカクノ如ク早く陥落シタコトハ、寧ろ意外ナ程テ是偏ヘニ 陛下ノ御稜威ノ然ラシムル所テアルカ又我陸海軍ノ忠勇ノ致ストコロ國民舉リテ感謝スル次第デア  
ル、殊ニ戰傷死者ニ對シテハ捧クヘキ言葉ヲ知ラナイ、本  
事變ノ當初ニオイテ、日本ハ出來ルタケ不擴大解決ノ方針  
ヲ執ツタノテ戰略的ニハソレタケ日本ニ不利テアツタ、ソ  
レニモ拘ラス僅カ數ヶ月ニシテ北ハ黃河以北ノ大地域ヲ席  
卷シ南ハ江南一帶ノ要塞地帯ヲ擊破シタ皇軍ノ實力ニツイ  
テハ、事實カ雄辯ニ語ツテ剩ストコロハナイト思フ、獨リ  
日本軍隊ノミナラス、總シテ今日ノ日本ノ實力ニ對スル測  
量違ヒカ、南京政府ノ致命的錯覺テアツタ、自分ハ支那カ  
コノ點ニ關スル從來ノ誤謬ヲ訂正シ、コノ上無用ナル抵抗

ヲ止ムヘキテアルト思フ、諸外國モ亦東亞ノ安定力タル日本ノ地位ヲ正シク認識スルニ相違ナイ、但シ支那ノ軍隊モ健カニ強クナツタ、アレタケノ軍隊ヲ本來ノ使命ノタメニ使ハス、見當外レノ方向ニ使用シタノハ吳々モ残念テアツテ、コレハ全ク支那指導者ノ責任トイハネハナラス、イハユル本正シウシテ末成ルテ、國民政府カ排日ヲ前提トシテ支那ノ民族主義ヲ動員シタコトカ九初ノ功ヲ一簣ニ缺クノ結果ヲ招イタノテアル。

ワレワレハ今日マテ一貫シテ支那カコノ點ニ猛反省ヲ加ヘ翻然トシテ日支提携ノ大道ニ還ランコトヲ求メタ、松井最高指揮官ノ最後ノ投降勸告モコノ已ムヲ得サル苦衷ニ出テタノテアル、コレニ對シ一顧モ與ヘナカツタノテ總攻撃ヲ敢行スル外ナカツタノテアル、南京陥落ノ報ニ接シテ、ワレワレハ當然ノ勝利ニ喜フ前ニ、同文同種五億民衆ノ立場ニ立ツテ彼等ノ救フヘカラサル迷妄ヲ悲シマサルヲ得ナイ。頻リニ南京死守ヲ豪語シタ蔣介石ハ逸早く脱出シ、今猶長期抵抗ヲ呼號シテキルカ、近代戰爭ハ軍事ノミナラス産業ソノ他ノ全般ニワタル國家總動員ノ體制ノ上ニ行ハレル、所謂「ゲリラ」戰術ノ效果ヲ期待スルナトイフノハ例ニ

ヨツテ共產黨ノ術中ニ陥ルハカリテアル。

國民政府ハ外交的ニモ實力行動ニオイテモ、排日ノ極限ヲ盡シタ、シカモノノ結果ニ對シテハ責任ヲトラス、首都ヲ棄テ、政府ヲ分散シ今ヤ一箇ノ地方軍閥ニ轉落シツツアル今日、猶毫末モ反省ノ色ナキコト明白ナルニ到リテハワレワレモ改メテ考ヘ直ス外ハナイ、蓋シ日本ハ抗日政權ト軍隊トニ對シテハ飽マテ膺懲ノ手ヲ緩メヌカ、支那一般民衆ノ生活ニ對シテハ關心ナキヲ得ナイ、凡ソ人民ノアルトコロ政府無キ能ハス、ソノ政府タルヤ實體アルモノテナケレハナラス、然ルニ北京、天津、南京、上海ノ四大都市ヲ放棄シタ國民政府ナルモノハ實體ナキ影ニ等シイ然ラハ國民政府崩壞ノ後ヲウケテ方向ノ正シイ新政權ノ發生スル場合ハ、日本ハコレト共ニ共存共榮具體の方策ヲ講スル外ナクナルテアラウ、今次事變ニオイテ不慮ノ戰禍カ友好的ナル第三國人ノ生命財産ニ及ンタコトハ同情ニ堪ヘナイ。

思フニ今ヤ世界ハ一箇ノ變革期ニアル、コノ世界ノ時運ヲ正解スルモノナラハ親日的基礎ノ上ニオイテノミ支那ノ國家組織ハ成功スルモノテアリ、マタカカル新支那ノ出現ニヨツテ、歐米諸國ノ東洋ニオケル利益ハ初メテ安全テアル

コトヲ疑ハナイテアラウ、支那事變ハ東亞ニオケル一箇ノ悲劇テアルカ、コノ種ノ悲劇ヲ繰リ返サヌタメニハ、コノ際日本ハ根本的手術ヲ回避シテハナラヌ、南京陥落ハコノ意味カライヘハ全般的ナ支那問題ノ序幕テアツテ、眞ノ持久戦ハコレカラ始マルト覺悟セネハナラヌ、コノ際内治外交百般ニ亘リ國民諸君ニ一層ノ御奮闘ヲ御願ヒシタイ。

編注 本文書は、昭和十二年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第二號)」から抜粋。

~~~~~

186 昭和12年12月14日

中華民國臨時政府の樹立宣言

中華民國臨時政府宣言

一二、一二、一四

國民黨政柄を竊據して民衆を瞞罔する事十有餘年災禍洊りに臻り税劍苛細、内に民生を剝奪して虐政相踵き時に大地震に崩れ反復して共黨を容納す、倒行逆施して、社稷の將に顛覆する事を顧みず、猶且恬として恥を知らず、共黨の

睡餘を拾ひて「黨權は一切の上」の邪説を唱へ國家を私す、遂に豊を隣邦に構へ同種相食む、口に焦土抗戦を呼號するも百戦百敗、數月を経ずして國都を喪ひ省市の半數を喪ふ、夫れ既に内容の朽腐を知らは何すれそ輕卒に干戈を動かす又既に戦備十年にして如何して斯くも脆きや、頻年國防を名に託して消耗せし金錢幾十億に達するや測り知るへからず、若し正途に用ふれば斯かる摧枯拉朽に至らざるへし、而かも其の大部分を着服せしは審核を俟たずして明かなり、彼等は廉潔を標榜すれと實は金を外國に運ひ名を化して貯金となしある事公然の祕密なり、又正義に廉恥を偶道するも魍魎魍魎白晝公然として出て要路を盤踞し網紀を蕩然せしめ加ふるに公論を撲滅し黑白を顛倒し廣く狂犬を飼ひ正人を狙殺せし事十有餘年來の事實たり、今や首都既に喪ひて惶惶として逃遁し自ら收拾すること能はず、同胞の生命何處にか託せんや

茲に同人相謀りて中華民國二十六年十二月二十六日北京に於て臨時政府を樹立す、志は民主國家を回復し汚穢なる黨治を洗滌するにあり、絶対に共產主義を排除するにあり、東亞の道義を發揚し世界友邦との敦睦を厚うするにあり、

産業を開發し民生を向上するにあり、權責を制定し中外相安んせしむるにあり、凡て従前政府の對外事務にして既に國民に公にしたるものは吾人之に代りて一切の義務を負ふ、萬惡の國民政府宜しく容共の非を悟り民衆を瞞せし罪を陳謝し又引咎下野して人民に政權を還すへし、若し頑として大言壯語なほ止めずして其の罪を掩はんか陸沈の禍は形容すへからざるものあり、以上の如く國民黨の政策悉く誤れるも國民黨中にも老成碩望の士に乏しからず、吾等と同じ心理を有する者あり、吾人は初めより區域分別の見解を有せず諸公光臨せられなは共に大局支持に當らんとす要するに東亞の同志なるか故に決して一率に排斥するの意なし、天下は公器なるを以て一黨一派の壟斷を許さず、區々たる心は天日に誓ふへし、同人は世變に飽經し垂暮の年にて何等の企圖なし、但し中國人として駟僮の手により祖國の斷せらるを見るに忍びず故に暫し立ち上りて大難を冒して其の所信を遂行するものなり、然し將來に於て國家の政治軌道に復歸すれば吾等は相携へて郷里に歸るへし

茲に宣言す

中華民國二十六年十二月十四日

編注 臨時政府の成立経緯については、第208文書付記参照。

187 昭和12年12月19日

戦果に対する国民の過大な期待に鑑み対ソ作戦等に備えるため急速撤兵が必要と対内宣伝を行うべきとの岡崎総領事意見書

上海方面ニ於ケル我軍兵力撤收ヲ促進スル爲ノ

對内宣傳振リニ關スル岡崎總領事意見

(昭和二二、一一、一九、中田記)

一、上海方面ニ於テハ或ル地點迄軍事行動ヲ進行セハ和平ノ能否如何ニ拘ラス一箇師乃至二箇師ノ必要ノ兵力ヲ殘シ他ハ之ヲ内地ニ引揚クルコト必要ナルカ之カ爲ニハ國民ノ戦果ニ對スル期待大ナルモノアルニモ鑑ミ今ヨリ對内の工作ヲ行ヒ一般輿論ヲ誘導シ置ク要アリ

二、其ノ方法トシテハ北支ハ別トシ上海方面ニ於ケル戦争ノ目的ハ大体左記諸點ニ在リ而モ既ニ其ノ目的ノ大半ヲ達

成セルヲ以テ我方兵力ハ來ルヘキ對蘇作戰等二具フル爲
急速撤兵ノ要アルコトヲ國民ニ宣傳ス

三、上海戦ノ目的ハ之ヲ對支那人問題及對外國問題二分チ考
フルヲ得ヘシ

(1) 對支那人問題

(イ) 抗日意識ヲ失ハシムルコト

(ロ) 戦闘能力ヲ破壊スルコト

(ハ) 支那側經濟力ヲ破壊スルコト

(イ) ノ支那民衆ノ排日意識ヲ失ハシムル工作ハ之ヲ戦後

ノ文化工作乃至宣撫工作等ニ俟タサルヘカラサルモ(ロ)

ノ支那側戦闘能力ハ既ニ大半之ヲ失ハシメ是カ恢復ニ

ハ尠クトモ今後約十年ヲ要スヘク經濟力モ上海近郊ニ

於ケル支那側ノ富力ヲ根抵^(根カ)ヨリ破壊シ去リ其ノ打撃ハ

三十億圓ニ達スト稱セラレ當分恢復ノ見込ナカルヘク

支那抗日民衆ヲ懲シメントスル我方目的ハ達成セリ

(2) 對外國問題

(イ) 外國ノ威信ヲ失墜セシメ支那人ノ歐米特ニ英國依存

ノ迷夢ヲ醒サシメ(英國國旗ノ頼ムヘカラサルコト

ヲ知ラシム)

(ロ) 實際的ニ英米人ノ利權特權人的優越地位ヲ我方ニ於
テ取テ代ルコト

以上ノ見地ヨリ租界ニ對スル干涉威嚇、我軍ノ租界内
自由行進、税關ノ接收、壓迫及日本人割込、郵政電政

ヘノ干渉及日本人割込等ハ出來ルタケ大膽ニ憚ル所ナ
ク之ヲ行ヒ之ニ依リ實際ノ利益ヲ收ムルト共ニ支那人

ニ及ホス反響ヲ大ナラシム

四、右ノ外我方ニ於テ特殊會社ヲ設定シ之ニ對シ「パブリッ

ク、ユートイリテイズ」ニ對スル「フランチャイズ」

ヲ賦與シ又ハ飛行場ノ接收、航空連絡權ノ獲得(支那全

土ノ航空事業ヲモ含ム)碼頭ノ接收及沿岸航行權ノ獲得、

支那領域内ノ漁業權ノ獲得、上海附近ニ於ケル我方土地

所有權又ハ永租權ノ承認、對邦人關係諸懸案ノ解決、一

箇師乃至二箇師ノ我軍ノ市政府地域内ニ於ケル常駐權ノ

確認(右ニ依リ日本人街ノ出現)等幾多ノ實益アルコトヲ

列舉シ我方ノ實際的收穫ノ尠ナカラサリシコトヲ宣傳ス

(駐兵權ニ付テハ一應上海附近ニ在ル全部ノ外國軍隊ヲ

撤退セシメ然ル後我方ノミハ防共協定等ニ依リ特殊ノ駐

兵權トナサシムルコト一層妙ナルヘシ)

188 昭和12年12月21日 閣議決定

わが方の和平条件に関する在本邦独国外使への
回答案

在京獨逸大使ニ對スル回答案

昭和十二、十三、十四、閣議決定
〃 〃 〃 十三、獨大使ニ回答

本月七日貴大使ヨリ本大臣ニ對スル口頭御説明竝ニ同日附
覺書ニ依ル日支事變ノ和平直接交渉ニ對スル貴國政府ノ好
意的御配慮及在支貴國大使ノ御努力ハ本大臣ノ感佩スル所
ナリ

然ルニ最近戦局急速ニ發展シ事態ニ大ナル變轉ヲ見タル情
勢ニ鑑ミ帝國政府ノ提示セントスル基礎條件ハ左記ノ如キ
モノニシテ支那側カ之ヲ媾和ノ原則トシテ總括的ニ承認シ
テ帝國政府ニ和ヲ乞フノ態度ヲ表示シ來ルニ於テハ帝國ト
シテモ之ニ應シ日支直接交渉ヲ開始スルノ用意アリ
若シ右原則ニシテ受諾セラレサル場合ニハ帝國トシテハ遣
憾乍ラ從來ト全ク新ナル見地ニ立チ事變ニ對處スルノ已ム
ナキニ至ルヘキコトヲ含ミ置カレ度

左 記

- 一、支那ハ容共抗日滿政策ヲ放棄シ日滿兩國ノ防共政策ニ協
力スルコト
- 二、所要地域ニ非武装地帯ヲ設ケ且該各地方ニ特殊ノ機構ヲ
設定スルコト
- 三、日滿支三國間ニ密接ナル經濟協定ヲ締結スルコト
- 四、支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト

口頭説明

- (一) 支那ハ防共ノ誠意ヲ實行ニ示スコト
- (二) 支那ハ一定ノ日限内ニ媾和使節ヲ日本ノ指定スル地點ニ
派遣スルコト
- (三) 我方トシテハ大體本年中ニ回答アルモノト考ヘ居ルコト
- (四) 蒋介石カ只今内示ノ原則承認ノ意ヲ表明シタル上ハ獨逸
側ニ於テ日支双方ニ對シ停戦ノ懲懣ニアラスシテ日支直
接交渉方ノ懲懣ヲ爲サルル様致度
- (五) 獨逸大使ノ質問ニ應シ只今内示ノ原則ヲ一層具體化セル
條件トシテ我方ニ於テ考慮シ居ル所ヲ御參考迄ニ申上ク
レハ別紙ノ通ナリ(極祕トシテ)

(別紙)

日支媾和交渉條件細目

- 一、支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト
- 二、支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト
- 三、北支及内蒙ニ非武装地帯ヲ設定スルコト
- 四、北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設定之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉クルコト
- 五、内蒙古ニハ防共自治政府ヲ設立スルコト其ノ國際的地位ハ現在ノ内蒙ニ同シ
- 六、支那ハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ同政策遂行ニ協力スルコト
- 七、中支占據地域ニ非武装地帯ヲ設定シ又大上海市區域ニ就テハ日支協力シテ之カ治安ノ維持及經濟發展ニ當ルコト
- 八、日滿支三國ハ資源ノ開發、關稅、交易、航空、交通、通信等ニ關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト
- 九、支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト

附記

(一)北支、内蒙及中支ノ一定地域ニ保障ノ目的ヲ以テ必要ナル

ル期間日本軍ノ駐屯ヲナスコト

(二)前諸項ニ關スル日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始ス支那政府カ前記各項ノ約定ヲ誠意ヲ以テ實行シ日支兩國提携共助ノ我方理想ニ眞ニ協力シ來ルニ於テハ帝國ハ單ニ右約定中ノ保障の條項ヲ解消スルノミナラス進ンテ支那ノ復興及其ノ國家的發展、國民的要望ニ衷心協力スルノ用意アルコトヲ茲ニ闡明ス

189 昭和12年12月22日

廣田外務大臣
在本邦デイルクセン独国外使 會談

わが方和平条件に関する廣田外相と在本邦独

国大使との會談

付記 昭和十二年十二月二十九日、陸軍省軍務局軍

務課作成

「廣田外相ト獨逸大使會談要旨」

十二月二十二日廣田外相ハ獨逸大使ニ面會ノ上前日ノ閣議ニテ決定シ其直後上奏シタル條項ヲ示シ、其上ニ口頭ヲ以テ

一、支那ガ防共ニ誠意ヲ示スコト

三、支那ガ之レヲ受諾スルニ於テハ講和使節ヲ派遣スルコト

三、本年内ニ右回答ヲナスベキコト

四、獨逸ハ單ニ日支間ノ斡旋者タルニ止ルベキコト

ヲ説明シ、コレヲ支那側ニ提示センコトヲ求メタ

コレニ對シ獨逸大使ノ質問アリ、大臣應答シタリ、其質問應答次ノ如シ

問、滿洲國ノ承認ヲ含ムヤ

答、云フ迄モ無キコトナリ

問、防共ノ協力トハ防共協定ヲ意味スルヤ

答、然ル様致シタシ

問、蘇支不可侵條約廢棄ヲ意味スルヤ

答、必ズシモ之レヲ要求セザルモ、支那ニ於テ之レヲナセ

バ最モ可ナリ

問、特殊機構トハ自治ナリヤ、南京ヨリ獨立スルモノナリ

ヤ

答、獨立セズ、支那主權ノ下ニ立ツモ、廣汎ナル權限ヲ有

スルコトヲ必要トス

問、所要地域トハ南京上海ヲ含ムヤ

答、之レヲ含ミ要スルニ日本ノ占領地域ナリ

問、經濟協定トハ經濟上ノ諸懸案解決ヲ意味スルヤ

答、ソレ以上ナリ

問、駐兵スルヤ

答、之レヲ必要トスト考フ

尙獨逸大使ハ條件ガ加重シタルニアラズヤト言ヒ、大臣ハ戰局ノ進展ニヨリ、既ニ事情ニ大ナル變化アル以上其加重亦當然ナリト答へ、獨逸大使ハコレニテハ蔣介石モ受諾ヲ困難トスルナラントノ感想ヲ述ブ

(付記)

廣田外相ト獨逸大使會談要旨^(編注)

昭和三、三、三 軍務課

大使 排日及反滿政策ノ放棄中ニハ滿洲國承認ヲ意味スル

モノナルヤ

外相 意味ス

大使 防共政策ノ確立云々ノ意ハ支那ヲシテ日獨伊ノ防共

協定ニ參加セシムルノ意ナルヤ

外相 參加シ得レハ結構ナルモ必スシモ參加スルヲ要セス

3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

大使 防共政策確立セハ蘇支不可侵條約ハ廢棄セサルモ可
ナルヤ

外相 廢棄セサルモ可ナリ

大使 所要地域ノ非武装地帯トハ如何ナル地方ヲ指スヤ

外相 北支、内蒙及中支ノ某一定地域ヲ指ス

大使 北支ニ於ケル特種ノ政治機構トハ如何ナル意ナルヤ

外相 北支ハ内蒙ノ如キ自治ヲ意味スルモノニアラス同地
ノ政權ハ支那主權ノ下ニ廣範ナル權限ヲ附與セラルヘキ

モノニシテ必スシモ蔣介石政權ニデペンドセス

大使 内蒙ノ自治ハ問題ナラサルヘキモ本件ハ蔣モ最初ヨ

リ重大視シアル處ナルヲ以テ斯ノ如キ政治機構ノ設定ニ
ハ難色アラシ

大使 經濟提携ハ從來ノ日支懸案ノ解決ヲ意味スルモノナ
ルヤ

外相 懸案ノ解決ノミナラス交通、交易、資源ノ開發、關

稅、航空等ニ關シ密接ナルコーペレーシヨシヲ設定スル

意ナリ

大使 支那ニ駐兵スルヤ否ヤ

外相 保障ノ爲主要ナル地點ニハ駐兵ス

大使 概括シテ條件ハ前ヨリモ非常ニ過重セラレタモノト
思ハル就中北支特種政權ノ設定及賠償ノ要求ノ如キ之テ
ハナカナカ話カ面倒ナルヘク自分ノ觀測テハ到底交渉ハ
纏マラヌタラウト思フ

外相 前ヨリモ條件カ過重サレタノハ全ク其後ノ狀況ノ變

化ニ基クモノテ已ムヲ得サルモノト思フ交渉ハ或ハ困難

カモ知レヌカ折角御盡力ヲ乞フ

時ニ本件ニ關シ伊太利ハ相當ナ關心ヲ有シアル模様ニシ
テ既ニ三國防共協定モ出來テ居ル今日故伊太利ニモ話シ

テ吳レヌカトノ申出モアルコト故伊太利ニモコノ際一役

買ツテヤラシテハ如何カト思フ尤モ伊太利カ今回ノ橋渡
シニ介入スルハ面白カラヌモ直接交渉カ出來サウニナツ

タラ日支兩國ニ對シ伊太利カ直接交渉勸告ヲナス様貴方
ノ了解ヲ得ルコトカ出來レハ誠ニ好都合ナリ

大使 伊太利ニ本件ヲ話スコトハ暫ク待ツテ戴キタイ未タ

本件ニ關シ伊太利ニハ何等話ヲシテ居ラン本國ノ都合モ

アルコト故本國政府カラノ通知ヲ待チ更ニ御話致スヘシ

其後(二十六日頃)外相ハ獨大使ヲ招キ次ノ如キ會談ヲナセ

リ

大使 先日ノ交渉條項ハ駐支大使「ドラウトマン」及本國政府へ電報セルモ翻譯其他ノ關係上之カ蔣政府ノ下二屆ク迄ニハ相當ノ時間ヲ要スルモノナルニ付本年中返答スル事ハ困難ナラント思ハルニ付ナシ得レハ若干期日ヲ延期シテ戴ク理ニハ行クマイカ

外相 ナルヘク期日ノ延期ハ避ケ度キモ四、五日頃迄ハ差支ナカラシ

大使 協定成立後ニアラサレハ休戦セストノ事ナルモ之ハ非常ニ難問題ナラン

外相 ソレハ斯様ニ嚴格ニ解セスモ可ナリ大体協定カ出來レハ其時ノ狀況ニヨリ全部ノ細目迄決定ヲ見ストモ休戦シテ可ナル場合モアルヘシ

大使 今回ノ獨逸ノ役目ハ傳書鳩ト同シ様ナ役目ナリ從テ二羽ノ傳書鳩ハ必要ナカラシ即チ本件ニ關シ伊太利ノ參加ハソノ必要ナカルヘシト思フ只日獨間ニ斯ノ如キ話合ノアル事ヲ伊太利ニ話ス事ニ關シテハ異議ナシ本件ニ關シテハ本國側ヨリ伊太利ニ話ス筈ナリ

外相 ハソノ翌日伊大使ヲ招キ日獨間ノ交渉ニ關スル話合アル旨ヲ語り四項目ノ大綱ヲ交付スソノ際伊大使トノ間二次ノ如キ談話ノ交換ヲナス

伊大使 獨ト話合ヲ初メタノハ何時頃ナルカ之迄ニ何故ニ伊太利ニ話ヲナササリシヤ其ノ理由判明セサルニ於テハ只今受領シタコノ四項目モ本國ニ電報シ得サル次第ナリ外相 色々ノ事情モアリ今日迄オ話シ得ナカツタ次第テコノ點ハ惡カラス御了承ヲ乞フ要スルニ橋渡シハ獨逸一國テ澤山ナリト思フ直接交渉ノアツピールハ獨伊間ノ話合トセラレタシ

伊大使 北支ノ將來ハトウスルツモリカ
外相 前日獨大使ニ答解セシト同様ノ事ヲ説明ス

編 注 本會談要旨の前段部分は十二月二十二日の會談内容と思われ。

~~~~~

190 昭和12年12月24日 閣議決定

「事變對處要綱(甲)」

事變對處要綱(甲)

昭和三、三、三 閣議決定

事變勃發以來帝國政府ハ南京政府ニ於テ速ニ其ノ抗日容共政策ヲ棄テ帝國ト提携シテ東亞ノ安定ニ寄與センコトヲ切望シ居ルヲ以テ同政府ニ於テ反省スルニ於テハ之ト共ニ時局ノ收拾ヲ計ルヘキモ、同政府ニシテ猶長期ノ抵抗ヲ標榜シ毫モ反省ノ色ヲ示ササル場合ニ對處スル爲ト他方我軍事行動ノ進展ニ伴ヒ帝國ノ占據區域廣汎トナリ至急之カ處理ヲ行フノ要アルニ至レルトニ鑑ミ今後ハ必スシモ南京政府トノ交渉成立ヲ期待セス之ト別個ニ時局ノ收拾ヲ計リツツ事態ノ進展ニ備ヘ軍事行動ト相俟チ南京政府ノ長期抵抗ニ對應スル爲北支及中支方面ニ於テハ左記方針ニ依リ措置スルコトトス

右趣旨ハ適當ノ機會ニ之ヲ中外ニ闡明ス

一、北支處理方針

北支ニ於テハ支那民衆ノ安寧福利ノ増進ヲ以テ政策ノ主眼

トシ政治的ニハ防共親日滿政權ノ成立、經濟的ニハ日滿支不可分關係ノ設定ヲ目途トシ之カ促進ヲ計リ漸次本政權ヲ擴大強化シ更生新支那ノ中心勢力タラシムル如ク指導ス然レトモ中央政府トノ交渉成立ノ場合ハ右新政權ハ和平條件ニ從ヒ之ヲ調整スルモノトス

甲、政治指導方針

- (一) 北支新政權ハ單ニ北支ノミナラス中南支方面ノ信望ヲ收メ得ルカ如キモノタラシムルコト肝要ニシテ之カ爲ニハ(イ)右政權ノ首腦者ハ支那全國ニ信望ヲ有スル人材ヲ網羅スルコト(ロ)右政權ハ新時代ニ適應スル組織ヲ備ヘ(ハ)全支ニ呼掛ケ得ルカ如キ主義綱領ヲ持シ(ニ)右政權ニ對スル我方ノ指導ハ大綱ニ關スル邦人顧問ノ内面指導ニ止メ日系官吏等ヲ配シ行政ノ細部ニ互ル指導干涉ヲ行ハサルコトヲ方針トシテ指導スルモノトス
- (二) 北支新政權ニ包含セラルヘキ地域ハ軍事行動進展ノ程度ニ依ルヘキモ略河北、山東、山西ノ三省及察哈爾省ノ一部トス冀東自治政府ハ之ヲ解消シ新政權ニ合流セシム尙察南及晋北兩自治政府ハ時期ヲ見テ右新政權ニ合流セシムルモノトス

又蒙古自治政權トハ密接ナル聯携ヲ保持セシム

- (三) 差當リ第三國トノ紛糾ヲ避クル爲租界ニハ手ヲ觸レサルコトトスヘキモ租界外ニ於テハ新政權樹立以前ト雖モ郵政、電政、稅制、路政等ノ行政組織ヲ完備セシムル如ク指導スルモノトス
- 海關ニ付テハ別ニ考慮ス

## 乙、經濟開發方針

- (一) 北支經濟開發ノ目標ハ日滿經濟ノ綜合的關係ヲ補強シ以テ日滿支提携共榮實現ノ基礎ヲ確立スルニ在リ
- 之カ爲支那現地資本竝我方ノ資本及技術ヲ緊密ニ結合セシメテ經濟各部門ヲ開發整備シ以テ秩序ヲ維持民衆生活ノ安定ヲ圖リ併セテ日滿兩國ニ互ル我廣義國防生産力ノ擴充ニ資スルモノトス
- 而シテ開發實施ニ際シテハ日滿及北支ノ國際收支ノ適合及物資需給ノ調節ヲ尊重シ緩急ヲ誤ラサル様措置スルト共ニ努メテ支那側ヲ表面ニ立テ經濟的壓迫ヲ與フルカ如キ感ヲ抱カシメサル如クシ且我全國民ノ期待ニ反セサル適切ナル國策の運營ニ重點ヲ置クモノトス
- (二) 北支經濟開發及統制ノ爲一國策會社ヲ設立スルモノトス

シ舉國一致ノ精神ト全國產業動員ノ趣旨ヲ具現スルカ如ク之ヲ組織スルモノトス

主要交通運輸事業(港灣及道路ヲ含ム)、主要通信事業、主要發送電事業、主要鑛産事業、鹽業及鹽利用工業等ニ關スル重要産業ハ右會社ヲシテ之カ開發經營又ハ調整ニ當ラシムルモノトス

右會社ノ運營ニ就テハ日滿兩國ノ重要産業計畫ニ即應スルト共ニ常ニ我國ノ實情ニ鑑ミ緩急宜シキヲ制スル事ニ意ヲ用フヘキモノトス

右重要産業以外ノ事業ハ特別ノ事由アル場合ノ外特別ナル統制ヲ加ヘサルモノトス

- (三) 北支經濟開發ニ當リテハ支那側資本ノ利用ニ努ムルト共ニ支那側企業トノ協議ヲ圖ルモノトス

(四) 北支經濟開發ニ對スル第三國ノ協調的投資ハ之ヲ認ムルモノトス

北支ニ於ケル列國ノ既存經濟權益ハ事情ノ許ス限り之ヲ尊重スルモノトス

- (五) 日滿北支貿易關係ノ緊密化ヲ圖ルト共ニ北支對第三國貿易ノ適切ナル調整ヲ行フモノトス

(六) 現地地政權ヲシテ農業ノ改善、治水及利水、植林、合作社等ニ關シ逐次所要ノ施設ヲ爲サシムルモノトス

(七) 北支ニ於ケル既存事業ニシテ重要産業ニ關スルモノハ本方針ニ從ヒ之ヲ整理又ハ調整スルモノトス

(八) 差當リ直チニ着手シ得ル事業ニ付テハ將來本方針ニ基ク整理又ハ調整ヲ條件トシテ速ニ之ヲ開始スル様措置スルモノトス

(九) 北支經濟開發ニ關スル交渉ノ相手方ハ差當リ中華民國臨時政府治安維持會若クハ其ノ聯合會又ハ局地政權トス

三、上海方面處理方針

(一) 軍ノ占據區域ニハ機ノ熟スルヲ俟チ北支新政權ト聯絡アル新政權ノ樹立ヲ考慮スルモ當分ノ間治安維持會及必要ニ應シ其ノ聯合會ヲ組織シテ治安ノ維持ニ當ラシム

(二) 租界及租界周邊ニ對スル方策ハ別ニ之ヲ定ム

租界周邊處理方針

甲、行政

租界周邊ニ就テハ將來ニ於ケル租界周邊ノ發展ニ協力シ

且ツ租界ノ安全保障組織ノ確立ヲモ考慮シ左記要領ニ依リ之ヲ處理ス

(一) 租界ノ周邊即チ租界及越界道路ヲ除ク大上海市管轄區域ヲ特別市トス

(二) 特別市ノ行政ハ支那人市長之ヲ管掌ス

但シ特別市ニハ市長ヲ輔佐シテ一般行政ヲ指導セシムヘキ日本人顧問ヲ置ク

顧問ノ權限ハ別ニ之ヲ定ム

(三) 特別市ノ警察行政ヲ行フ爲特別警察部ヲ設置ス 警察部長以下凡ソ長タル者ハ支那人トスルモ、長ト協力スル爲相當數ノ邦人顧問ノ權限ハ別ニ之ヲ定ム

尙必要ニ應シ外國人顧問ノ採用ヲモ考慮ス

支那人警察官ノ數及武裝ハ別ニ之ヲ定ム

特別市内ノ日本人ニ對スル警察權ハ總領事館警察ノ管轄トス

(四) 特別市ノ財政ハ舊上海市ニ於テ徵收ノ諸税ノ外特別市範圍内ニ於ケル税制、電政、郵政等舊南京政府直轄各機關ノ接收又ハ新設ニ依リ得ラルヘキ諸收入ヲ以テ之ヲ維持ス

(五) 將來(中支新政權樹立ノ場合ヲ豫想ス)特別市全部ヲ開港市トシ外國人ノ居住營業竝ニ土地ノ所有權若ハ永租權ヲ認メシム

(差當リハ邦人土地ニ關スル懸案解決ヲ期ス)

## 乙、帝國ノ經濟的權益設定策

上海ヲ據點トシ中支方面ニ對スル帝國ノ經濟的發展ノ基礎ヲ確立スルヲ目標トシ其ノ具體的方策ノ一トシテ左ノ通り措置スルモノトス

(一) 租界ノ周邊(租界及越界道路ヲ除ク大上海市管轄區域)

ヲ特別市トシ右特別市内ニ於ケル電話、電力、電燈、

水道、瓦斯、電車、バス等公共的性質ヲ有スル諸事業

ノ實權ヲ我方ニ把握シ之ヲ經營スルト共ニ下記各項ニ

關聯スル事業ノ經營又ハ調整ニ當ラシムル爲國策會社

ヲ設立ス

右國策會社ノ規模及事業着手ノ順序等ニ就テハ我國ノ

實情及現地情勢ヲ參酌シ別ニ之ヲ定ムルモノトス

右國策會社ノ資本ニ付テハ其ノ目的上支障ナキ限り現

地資本ノ利用ヲ圖ルモノトス

尙特別市及租界内邦人中小企業家ニ對スル資金融通及

邦人ノ租界内不動産取得ニ對スル資金融通等ニ付テハ可及的速ニ別途考慮スルモノトス

(二) 特別市内ニ於ケル舊支那側官有ノ機關及土地建物等ハ

全部我方ニ於テ接收シ適宜利用スルモノトス但シ特別

市當局ニ於テ行政上必要アルモノハ之ヲ使用セシム

(三) 上海附近ト本邦各地北支、滿洲國間等トノ通信運輸航

空ノ聯絡基地トシテ、出來得ル限り特別市地域ヲ利用

スルモノトシ差當リ左ノ各項ヲ實施スルモノトス

(イ) 適當ナル汽船會社等ヲシテ虬江碼頭招商局碼頭等ヲ

利用セシム

(ロ) 將來上海方面ニ於ケル有線無線(放送ヲ含ム)通信權

ノ實質的獲得ニ必要ナル諸施設ヲ管理運用ス

(ハ) 上海福岡連絡飛行基地トシテ龍華飛行場ヲ管理運用

ス尙虹橋及遠東飛行場ノ管理權ヲ獲得シ將來日支航

空連絡ニ對スル實質的權益ノ設定ニ資ス

(四) 特別市地域ニ大市場ヲ建設シ租界ニ對スル魚類、肉類、

野菜等ノ生活必需品ノ供給ヲ爲サシムルモノトス(差

當リ上海市魚市場等ノ利用ヲ考慮シ尙小型船舶ノ自由

出入港ヲ認メシム)



3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

(五) 差當り直ニ着手シ得ル事業ニ付テハ國策會社成立ノ際  
適宜整理又ハ調整スルヲ條件トシテ速ニ之ヲ開始スル  
様措置スルモノトス

(六) 本經濟的權益設定ニ關スル交渉ノ相手方ハ差當り治安  
維持會又ハ局地政權トス

北支處理方針乙、經濟開發方針ニ對スル  
閣議諒解事項(一)

一、主要交通運輸事業、主要通信事業ニ付テハ滿支ヲ通スル  
一會社ノ一元經營ハ之ヲ認メサルコト

二、北支政權ノ財政強化ニ努メ以テ北支ニ於ケル公共事業其  
他ノ開發諸事業ニ寄與セシムルコト

三、北支對第三國國際收支ノ維持改善ヲ圖ル爲有效適切ナル  
方策ヲ講スルコト

四、北支ニ於ケル產金事業ハ我國國際收支ノ觀點ヨリ特ニ速  
カニ着手セシムルコトトシ今後ニ於ケル調整ニ際シテモ  
此ノ事情ヲ考慮スルコト

五、北支ニ於ケル經濟開發殊ニ鑛工業開發ノ計畫ヲ樹ツルニ  
當リテハ内地産業ノ實情ニ考慮ヲ拂ヒ且事情ノ許ス限り

内地ニ於ケル當該企業ノ技術、經驗及資本ヲ利用スル様  
措置スルコト

同方針ニ對スル閣議諒解事項(二)

日滿支ノ交通、通信ノ圓滑ナル連絡ニ資スル爲北支ニ於ケ  
ル交通、通信事業ヲ經營スル機關ハ滿鐵並滿洲電々會社ト  
常ニ緊密ナル關係ヲ保持セシムル様措置シ尙滿鐵並電々社  
員ノ大陸ニ於ケル活動ノ適性竝今次事變ニ於ケル活動ノ實  
狀ニ鑑ミ交通、通信事業ノ經營ニ際シテハ之等ノ人員技術  
經驗等ヲ充分活用スルノ方針ヲ執ルコト

上海周邊處理方針乙、帝國ノ經濟的權益設定策ニ對ス  
ル閣議諒解事項

右國策會社ニ對シ特別市ニ於ケル軍ノ管理スル土地其他我  
方ノ管理下ニアル土地ニ關スル經營等ノ諸事業ヲモ必要ニ  
應シ之ヲ行ハシムルコトヲ得

191 昭和13年1月11日 御前會議決定

「支那事變處理根本方針」

昭和十三年一月十一日 御前會議ニ於テ

決定セラレ、一月十五日第二段ノ措置ヲ

執ルコトニ決定セラル

支那事變處理根本方針

帝國不動ノ國是ハ滿洲國及支那ト提携シテ東洋平和ノ樞軸ヲ形成シ之ヲ核心トシテ世界ノ平和ニ貢獻スルニアリ

右ノ國是ニ基キ今次ノ支那事變處理ニ關シテハ日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乘の基礎ノ上ニ再建シ互ニ主權及領土ヲ尊重シツツ渾然融和ノ實ヲ舉クルヲ以テ窮極ノ目途トシ先ツ事變ノ再起防遏ニ必要ナル保障ヲ確立スルト共ニ左記諸項ヲ兩國間ニ確約ス

(一)日滿支三國ハ相互ノ好誼ヲ破壞スルカ如キ政策、教育、交易、其他凡ユル手段ヲ全廢スルト共ニ右種ノ惡果ヲ招來スル虞アル行動ヲ禁絶スルコト

(二)日滿支三國ハ互ニ相共同シテ文化ノ提携防共政策ノ實現ヲ期スルコト

(三)日滿支三國ハ產業經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ共同互惠ヲ約定スルコト

右ノ方針ニ基キ帝國ハ特ニ政戰兩略ノ緊密ナル運用ニ依リ左記各項ノ適切ナル實行ヲ期ス

(一)支那現中央政府ニシテ此際反省懺意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ於テハ別紙(甲)日支媾和交渉條件ニ準據シテ交渉ス帝國ハ將來支那側ノ媾和條項實行ヲ確認スルニ至ラハ右條件中ノ保障條項別紙(乙)ヲ解除スルノミナラス更ニ進ンテ支那ノ復興發展ニ衷心協力スルモノトス

(二)支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ爾後之ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケス新興支那政權ノ成立ヲ助長シコレト兩國々交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力ス支那現中央政府ニ對シテハ帝國ハ之カ潰滅ヲ圖リ又ハ新興中央政權ノ傘下ニ收容セラルル如ク施策ス

(三)本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル爲メ國家總力就中國防力ノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

(四)第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ専ラ自由競争ニヨリ對支經濟發展ニ優位ヲ獲得スルコトヲ期ス

(五)國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル様國

論ヲ指導ス對外啓發ニツキテモ亦同シ

別紙 甲

日支媾和交渉條件細目

- 一、支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト
- 二、支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト
- 三、北支及内蒙ニ非武装地帯ヲ設定スルコト
- 四、北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設定シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ  
特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉クルコト
- 五、内蒙古ニハ防共自治政府ヲ設立スルコト其ノ國際的地位ハ現在ノ内蒙ニ同シ
- 六、支那ハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ同政策ニ協力スルコト
- 七、中支占據地域ニ非武装地帯ヲ設定シ又大上海市區域ニ就テハ日支協力シテ之カ治安ノ維持及經濟發展ニ當ルコト
- 八、日滿支三國ハ資源ノ開發、關稅、交易、航空、交通、通信等ニ關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト
- 九、支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト

附 紙

(一)北支内蒙及中支ノ一定地域ニ保障ノ目的ヲ以テ必要ナル期間日本軍ノ駐屯ヲナスコト

(二)前諸項ニ關スル日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始ス支那政府カ前記各項ノ約定ヲ誠意ヲ以テ實行シ日支兩國提携共助ノ我方理想ニ眞ニ協力シ來ルニ於テハ帝國ハ單ニ右約定中ノ保障的條項ヲ解消スルノミナラス進テ支那ノ復興及其ノ國家的發展、國民的要望ニ衷心協力スルノ用意アリ

別紙 乙

(一)別紙甲中保障條項タルモノ左ノ如シ

- 一、第三項ノ非武装地帯
- 二、第四項ノ折衝ニ當リ保障ノ目的ヲ以テ設定セラルヘキ特殊權益及之カ爲存置ヲ必要トスル機關
- 三、第七項ノ非武装地帯
- 四、附記(一)及之ニ伴フ軍事施設、主要交通ノ管理擴充ニ關スル權益
- (二)媾和ニ關聯シテ廢棄スヘキ約定
- 一、梅津何應欽協定、塘沽停戰協定、土肥原泰德純協定、

上海停戰協定

三、保障事項ノ解消ト同時ニ從來ヨリ有スル對支特殊權益  
(例ヘハ治外法權、租界、駐兵權等ノ如シ)ノ廢棄ヲ考  
慮ス

192 昭和13年1月11日

「支那事變處理根本方針」の決定経緯

支那事變處理根本方針(御前會議議題)ニ關スル件

(昭和一三、一、一一、東亞一)

一、陸軍側ヨリ別紙第一號支那事變解決處理方針案(一二、  
一二、一)ヲ三省間ニ於テ審議ノ上御前會議ニ於テ決定  
シ度キ旨提案アリタルカ外、海軍務當局ニ於テハ支那事  
變處理ニ關シテハ既ニ根本方針トシテ對處要綱アリ更ニ  
和戰兩様ノ備ヘトシテ事變對處要綱(甲)成立シ又蔣介石ト  
ノ和平解決ノ場合ノ條件ハ在京獨逸大使ニ對スル回答ノ  
際一切ノ審議ヲ完了シ居ル次第ニ付右ノ外ニ更ニ改メテ  
策案ノ必要ナルヘシトノ趣旨ニテ其ノ儘ニ放置シ置キ  
タリ

二、然ルニ參謀本部側ニ於テハ平和交渉ニ關スル對獨回答實  
行後媾和條件ハ甚タシク侵略的ニシテ日支國交ノ將來ヲ  
誤ラシムヘキモノナルニ付此ノ際御前會議ヲ開キ日支國  
交再建ノ根本方針ヲ確立シ置キ動モスレハ侵略的ニ傾カ  
ントスル國內趨勢ニ對シ豫メ豫防方策ヲ講シ置ク必要アリ  
トノ意向漸次強クナリ直接參謀本部側ヨリ陸、海、外  
三省事務當局會議ニ出席シ此ノ精神ヲ説明スル所アリタ  
リ仍テ外、海共陸軍側カ右ノ如キ大乗の考トナリタルハ  
洵ニ結構ニ付前項ノ如キ事情ハアルモ此ノ際右精神ヲ活  
カシ置ク爲參謀本部ノ提案通り御前會議議題ヲ練ルコト  
モ徒爾ニ非サルヘシトノ意見トナリ結局別紙第二號御前  
會議議題ヲ三省事務當局間ニ於テ作成シ各々三省上司ノ  
同意ヲ得タリ

三、仍テ一月九日午前十時ヨリ政府大本營連絡會議ヲ開催シ  
右議題ヲ提案シ東亞局長ヨリ趣旨ノ説明アリ審議ノ結果  
別紙第三號<sup>(案略)</sup>ノ通り修正セラレタルカ更ニ同日午後閣議ヲ  
開キ三省提案ノ議題中日支國交再建ニ關スル「イデオ  
ロギー」的部分ヲ削除シタル別紙第四號案<sup>(案略)</sup>ヲ作成シ更ニ  
之ヲ内閣參議會ニ提案同意ヲ得タル趣ナリ

四、然ルニ翌十日更ニ連絡會議及閣議ニ於テ陸軍側ヨリ別紙

第四號第三行目及四行目ヲ別紙第五號(編注)ノ通り修正シ原案

ノ趣旨復活方提議アリ右ノ通り決定セリ(別紙第五號)

尙陸軍側ハ右修正中「……日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ

一掃シ……」ノ一句ヲ原案通り「過去一切ノ相剋ノ因果

ヲ清算シ」ト修正方主張シタルモ結局兩者ノ間別ニ相異

ナシトノコトニテ前者ノ通り一應決定シタルニ依リ御前

會議ノ際陸軍側ハ「過去一切ノ相剋ヲ一掃シ」トハ「一

切ノ相剋ノ因果ヲ清算シ」ノ意味ト諒解スル旨述フルコ

トトセリ

五、御前會議ニハ平沼樞密院議長モ召サルルコトトナリタル

ニ依リ十日夕内閣書記官長及外務次官ニ於テ議題ヲ一應

説明シ更ニ十一日朝外務次官ハ東亞局長ヲ同伴樞相ヲ往

訪シ質問ニ應シ説明スル所アリタルカ同議長ニ於テハ特

ニ交渉條件細目四、北支問題ニ關聯シ日支和議成立ノ場合

現在成立セル北支政權ヲ如何ニスヘキヤ及細目末項輿論

ノ指導ニ付關心ト意見トヲ有シ居タリ(御前會議ニ先チ

宮中ニ於テ外相及内相ヨリ是等ノ點ニ付平沼議長ニ説明

スル所アリタルカ御前會議ニ於テ同議長ヨリ意見ノ陳述

アリタリ)

六、一月十一日豫定通り御前會議開催セラレ大本營ヨリ閑院

參謀總長宮、伏見軍令部長宮、參謀次長、軍令部次長、

内閣ヨリ近衛總理、外、陸、海、内、藏各大臣及特旨ニ

依リ平沼樞密院議長出席シ別紙第五號(編注)根本方針ヲ決定

シタルカ其ノ際參謀總長宮(別紙第五號丙)軍令部長宮

(別紙第五號丁)及樞密院議長(別紙第五號戊)ヨリ夫々別

紙ノ如キ意見ノ開陳アリタリ

(別紙第一號)

支那事變解決處理方針

(昭和三、三、一 軍務局)

注 意

一、本處理方針ハ我國トシテ忍フヘキ最下限ヲ示シタルモノ  
トス

二、本處理方針ヲ軍部外又ハ國外ニ出ス場合折衝上ノ戰術ト  
シテ開示スヘキ輪廓ハ別ニ慎重ナル考慮ニ基キ之ヲ定ム  
ヘキモノトス從ツテ本案ノ取扱ニハ特ニ周到ナル注意ヲ  
要ス

## 支那事變解決大綱

本次事變ノ解決ハ左記諸項ニ準據シテ之ヲ處理ス

### 其一、解決大綱

一、解決ハ日支間全般ノ問題ヲ一括シテ根本的ニ之ヲ行フモノトシ其交渉ハ日支直接ニ之ヲ行ヒ第三國ノ干渉ヲ許サス其過程ニ於テ第三國善意ノ內面的斡旋ハ之ヲ認ムルモ正式交渉ニハ關與セシムルコトナシ解決條項中滿洲國ニ關係アルモノハ同國ニ對シ別途承認セシムルノ處置ヲ執ル

二、解決ノ斡旋又ハ交渉中ト雖支那カ其一ノ第一、第二項及第二乃至其四ノ主要目承認ノ時期迄ハ休戦スルコトナク所要ノ作戰行動ヲ繼續ス

三、解決ノ氣運醞釀セハ事變ノ終結ヲ促進シ其成果ヲ有利ニシ且爾後ノ國交調整ヲ便ナラシムル如ク戰爭指導上百般ノ處置ヲ講ス特ニ作戰行動ヲシテ之ニ即應セシム

四、休戦ニ關スル議定事項ハ別ニ之ヲ定ム

五、休戦後解決條約批准迄ノ期間ニ於テハ適時再ヒ開戦シ得ルノ態勢ヲ緩ムルコトナシ

六、解決ニ方リテハ努メテ事變前ニ於ケル歐米列強ノ在支權益ニ觸ルルコトヲ避クルモ已ムヲ得サル第三國關係事項

ハ解決成立後處理スルヲ以テ本旨トナス

七、解決條約ノ爲ノ附帶事項ハ別ニ之ヲ研究ス同事項モ亦批准事項ニ包含セシメ講話成立後ノ平時外交ニ持越スコトナシ

### 其二、締結方針

日支兩國ハ協力シテ東洋ノ道義文化ヲ再建設シ亞細亞民族ノ復興ヲ期スヘキコトヲ誓約シ過去一切ノ相剋ヲ清算シ東洋平和ト互助共榮トヲ圖ル爲左記諸項ヲ約ス

### 左記

一、日滿支三國ハ渾然相提携シテ東洋ノ平和ヲ確保シ善隣友好ノ實ヲ擧クルコト之カ爲相互ノ好誼ヲ破壞スルカ如キ政策、教育、交易手段等ヲ全廢スルト共ニ右種ノ惡果ヲ招來スル虞アル行動ヲ禁絶スルコト

二、東洋道義ノ文化ニ對スル侵略破壞ハ其武力的思想的經濟的政治的ノ何レナルヲ問ハス日滿支協同シテ之カ防衛ヲ除ニ當ルコト

三、日滿支三國ハ互助共榮ノ實ヲ擧クル爲産業經濟等ニ關シ

### 3 トラウトマン工作と「對手トセズ」声明の發出

長短相補有無相通ノ主旨ニ基キ協同互意ヲ約定スルコト

#### 其二、締結條項

一、支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト

二、支那ハ北支及内蒙ニ夫々日滿支互助共榮及防共強化ノ具

現ヲ容易ナラシムヘキ政權ヲ樹立スルコト

三、支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト

四、支那ハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ同政策遂行ニ協同シ

尙滿洲國ト共ニ日獨伊防共協定ニ參加ヲ約スルコト

日滿支三國又ハ其何レカカ三國以外ノ國ヨリ受クル侵略

特ニ武力侵攻及共產赤化工作ニ對シテハ三國商議ノ上直

接若ハ間接ニ協同防衛ノ措置ヲ執ルコト

五、日本ハ支那ノ新上海建設ニ關シ協力スルコト

六、日滿支三國ハ資源開發物資交易航空連絡交通等ニ關シ所

要ノ互惠的協定ヲ設定スルコト

七、支那ハ本事變ノタメ日本居留民ノ受ケタル損害ニ對シ補

償ノ責ニ任スルコト

八、日本ハ本條約ノ成立ト同時ニ左ノ諸協定ヲ廢棄スルコト

梅津何應欽協定

河北停戰協定

土肥原秦德純協定

上海停戰協定(昭和七年)

#### 其四、保障事項

日支兩國ハ本條約ヲ誠意ヲ以テ履行スルノ保證トシテ左記事項ヲ約定ス

一、日本軍ノ進出セル地域ハ非武裝地域トナシ現在スル日本

軍ハ地方治安ノ恢復ト共ニ自主的ニ撤兵スルコト

北支ニ於ケル重要地域及上海附近ニ於テハ日支協同シテ

治安ノ維持竝防共ノ爲支那警察隊ニ依ルノ外最小限度ノ

日本軍ノ駐屯竝必要ノ軍事施設竝主要交通ノ管理擴充ヲ

容認スルコト

二、支那ハ日本ニ對シ北支五省ニ於ケル金融、關稅處理、資

源開發、交通通信管理等ニ關シ特殊權益ヲ與ヘ所要機關

ノ存置ヲ認ムルコト

日本ハ本條約及之ニ伴フ諸約定ノ實現ヲ確認スルニ於テハ

右保障ノ爲ノ約定ヲ解除シ之ニ伴フ權益中保證ノ目的ヲ以

テ保有セシ部分ヲ支那ニ返還ス之ト同時ニ日本ハ支那ノ國

權回復及其復興等ニ協力ノ目的ヲ以テ從來ヨリ有スル其在

支權益ハ當時ノ情勢ニ應シ之ヲ支那ニ返還スヘキ用意アル

コトヲ約ス

(別紙第五號丙)

御前會議ニ於テ大本營陸軍部トシテノ御報告(草案)

本日ノ議題タル支那事變處理根本方針ニ關シ大本營陸軍部ト致シマシテ内閣側ト意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ見解ニ就キ御報告申上ケマス

日支兩國ハ先ツ國防上大局ノ見地ニ基キマスルモ相互ニ衷心ヨリ道義的ノ親善提携ヲ必要トスル間柄テコサリマシテ更ニ我國是ニ基ク兩國國交ノ大道ニ關シマスルトキハ益々其必要ヲ感スルノテコサリマス

此見地ニ基キ内閣側ト種々意見ノ交換ヲ重ネマシタ結果只今外務大臣ヨリ御報告ニ及ヒマシタ方針案ニ關シ幕僚部トシテハ次ノ趣旨見解ニ基キ意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ次第テコサリマス

今次支那事變ノ解決ヲ契機トスル日支兩國ノ國交恢復ニ方リマシテハ從來ノ國交ニ一大轉換ヲ劃シマシテ東亞ニ於ケル兩國力過去一切ノ相剋ノ因果ヲ清算シ道義的基礎ノ上ニ衷心ヨリスル善隣友好互助共榮ノ實ヲ擧ケ協同シテ東洋ノ

平和ヲ確保シ其道義文化ノ擁護興隆ヲ圖リ延イテ世界ノ平和ニ貢獻スルコトヲ主眼トスヘキモノテアリマシテ本件ハ今次事變出兵目的ノ骨子ヲ成スモノト信セラレマス例ヘハ「日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大乘の基礎ノ上ニ再建シ」ト述ヘラレ又「文化提携」ノ語句ヲ用ヒラレマシタノハ此觀念ヲ意味スルモノト諒解致シテ居リマス

次ニ媾和ノ條件ハ勝敗及犠牲ノ程度等ニ依リ自ラ差異アルハ避ケ難イ所ト存セラレマスカ前述ノ主眼ニ基キマスレハ此際ノ解決ニ當リマシテモ戰勝國カ戰敗國ニ對シ過酷ナル條件ヲ強要スルカ如キ心境ハ毫末モ之ヲ有スヘキニアラストスル根本ノ觀念ニ立脚致シマシテ公明正大ニシテ支那民衆ヲシテ努メテ帝國ノ媾和條件ニ怨恨ヲ懷カシメス且公平ナル第三國ニ對シテモ我眞意ノ存スル所ヲ認識諒解セシムル爲努メテ寛大ナルヲ要スヘキモノト思惟致シテ居リマス唯々支那側爲政者ノ媾和ノ内意及其不信行爲ニ關スル從來ノ經驗等ニモ照シ駐兵權、非武装地帯ノ設定等必要ナル保障ハ確實ニ之ヲ把握致シマスト共ニ約諾ノ實行ニ伴ヒ之ヲ解除スルコトヲ約シマシテ爾他ノ媾和條件ト確然タル區別



### 3 トラウトマン工作と「對手トセズ」声明の發出

ヲ設ケ以テ將來ニ於ケル事端ノ再發ヲ防遏シ今次事變ノ尊  
キ犠牲ヲ意義アラシメマスルト共ニ爾他ノ媾和條件ヲ努メ  
テ寛大ナラシムルコトヲ容易ニシ且支那側ニ對シ將來ニ希  
望ト光明トヲ與ヘ併セテ今後成ルヘク速ニ而モ誠意アル約  
諾ノ實行ヲ促進スル等ノ目的ヲ併セ達成スルヲ得策トスル  
次第ト存シマス本案ハ基礎條件細目ノ内容カ適正穩健ニ規  
定サレマスナラハ正ニ此趣旨ニ合スルモノト見解致シテ居  
リマス

之ト併行シ事變解決後ノ國際情勢ノ變轉等ニ備フル爲國家  
總力就中國防カ力ノ充實整備ヲ必須ノ措置ト致シマス即チ今  
次事變解決ノ效果ヲ眞ニ根本的ノモノトシメ得ルヤ否ヤ  
ハ寧ロ我方今後ニ於ケル此等ノ措置如何ニ懸ルモノカ大テ  
アルト存シマス事變カ持久ノ態勢ニ移行致シマスル場合ニ  
ハ右ノ充實整備ハ一層促進セラルヘキモノテアリマシテ本  
案ハ此等ノ點ニ關シ十分ノ覺悟ヲ表示セラレアルモノト幕  
僚部ハ見解致シテ居リマス

尙大本營陸軍幕僚部ト致シマシテハ事變發生當時ヨリ長期  
ニ陥ル場合ヲ顧慮シ適時持久ノ態勢ニ轉移シ得ル爲諸般ノ  
準備ヲ整ヘツツアリマスルカ前述我國防上ノ大局の見地、

我國是ニ基ク日支國交ノ大道等以外ニ於テモ統帥ノ立場ト  
シテ支那ニ對スル兵力行使ノ持久戰爭の物資、列強ノ對支  
援助並帝國ノ對第三國軍備及建設途<sup>途</sup>中ニ在ル滿洲國ノ現狀  
等ニ稽ヘ又統帥部方面ヨリ見タル國際諸情勢、國內及國家  
總力ノ實情等ニ鑑ミマスレハ今次事態ハ其出兵目的ノ本旨  
達成ニ遺憾ナキ限り成ルヘク速ニ之ヲ終結ニ導クヘキモノ  
ト存セラルルノテコサリマス加之最近ノ如キ氣運ニ投シ若  
我出兵目的ニ適スル媾和解決ノ成立ヲ見ルコトヲ得マスレ  
ハ吾ニ帝國ノ爲ノミナラス日滿支三國ノ國力就中國防カ力ノ  
適度ノ減耗ヲ防キ防共ヲ容易ニシ帝國カ將來ニ處スヘキ此  
等ノ充實整備ノ餘力ヲ存セシメ東洋ノ平和ノ爲誠ニ喜フヘ  
キ所テコサリマス從テ帝國トシテハ目下ノ時期ニ於テハ尙  
先ツ此目的ノ爲政戰兩略上ニ於ケル諸般ノ措置ヲ統合シテ  
善處スヘキモノト考ヘ本案ヲ以テ此趣旨ニ合スルモノト解  
シ同意致シマシタ次第テコサリマス

(別紙第五號(丁))

軍令部總長宮殿下御口述覺(草案)

本方針ニ對シマシテハ異存アリマセヌ、又參謀總長ノ述

ヘラレマシタ所見ノ主旨ニハ同感テアリマス、尙本方針ニ  
基キ實行スヘキ條項ノ第三節

本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ  
期スル爲國家總力就中國防力ノ急速ナル培養整備ヲ促進  
シ第三國トノ友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

ハ支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ハ勿論和ヲ求ム  
ル場合ニ於キマシテモ今後ノ國際情勢カ益々機微ナラムト  
シマスルニ鑑ミ特ニ重要テアルト認メマスカラ各部協力一  
致シテ極力之カ實現ニ邁進スルノ要アルモノト認メテ居リ  
マス

(別紙第五號(戊))

御前會議ニ於ケル意見陳述ノ要旨(平沼樞府議長)

意見ヲ申上マス唯今當局大臣ノ説明ヲ聽キ尙ホ開會前疑  
問ノ存スル所ヲ當局大臣ニ質シ其ノ辨明ヲ聽キ本案ノ趣旨  
ヲ領承致シマシテ之ニ贊意ヲ表シマス又此ノ席ニ於テ參謀  
總長殿下竝ニ軍令部總長殿下ノ御示シニナリマシタル點ニ  
付キマシテハ全ク意見ヲ同ク致シマス此ノ案ニ付テハ異議  
ハ御座リマセヌガ此ノ案ノ本旨ヲ遂行スルニ付深く考慮ス

ヘキ點アリト信シマスルガ故ニ之ヲ述ヘテ責任アル當局者  
ノ注意ヲ喚起致シ度ク存シマス

支那事變起リテヨリ當局者カ是迄克ク聖旨ヲ奉シテ其ノ  
任務ヲ遂行セラレタコトハ深く感謝スル所テ御座リマスカ  
今後ニ於キマシテハ是レ迄ヨリ一層事ノ困難ナルコト從テ  
責任ノ益々重キヲ加ヘルコトヲ痛感致シマス殊ニ善後ノ處  
理宜シキヲ制スルコトニ深く留意スルコトヲ切望セサルヲ  
得マセヌ、善後ノ處理トシテハ上下心ヲ一ニシテ中正ナル  
途ヲ講シ國威ヲ宣揚スルト共ニ信ヲ中外ニ失ハス世界平和  
ノ基礎ヲ確立セネハナリマセヌ當局ノ立案ハ此ノ見地ニ立  
脚シテ居ルコトハ勿論テアルト考ヘマス乍去此ノ案ハ綱領  
ヲ示シタモノデ御座リマス實際ニ於テ其ノ目的ヲ達スルニ  
ハ尙細目ニ涉リテ事ヲ定ムルノ必要ガアリ又之ヲ遂行スル  
ニ當リ幾多考慮ヲ要スルコトガアルト存シマス、要スルニ  
寬嚴宜シキヲ制スルコトガ大切テ御座リマス、嚴ニ過クル  
コト寬ニ失スルコトハ何レモ再ヒ禍亂ヲ生スルノ因ヲ爲ス  
モノト思ヒマス

本文ニ依レハ支那現中央政府カ和ヲ求メ來リ和議成ルト  
キハ永ク其ノ地位ヲ認メネハナリマセヌ、現中央政府ヲ存

置スル場合ニ於テ別紙(甲)ニ記載スルガ如ク内蒙ニ自治政府ヲ成立セシメ北支ニ特種ノ政治機構ヲ設立スルナラハ現在内蒙竝ニ北支ニ事實上存在スル政治機構ハ如何ナル運命ニ立至ルヘキヤ此點ニ付當局大臣ノ辯明ヲ求メタルニ現存スル機構ハ其ノ儘新設セラルヘキ自治政府又ハ政治機構トシテ認ムルノ方針ナリトノ答ヲ得マシタ案スルニ内蒙竝ニ北支ニ現存スル機構ハ皆我方ノ指示ニ依リ其ノ組織ヲ見ルニ至リタルモノテ御座リマス、若シ和議(ワギ)成リタル場合ニ於テ支那中央政府カ之ヲ反逆視スルカ如キコトアラハ我ハ信ヲ中外ニ失スルコトハ必然テ御座リマス素ヨリ事體(事体)ノ推移ニ因リ多少ノ變動ハ免ルヘカラサルコトデアリマセウカ大體ニ於テ當局大臣ノ答フルカ如キ趣旨ニ於テ處理スルコトヲ以テ動かサル方針ト爲サネハナラヌコト考ヘマス

別紙(甲)ニ依レハ「北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設立シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉クルニアリ」ト記シテアリマス案スルニ此ノ機構ヲ設立スルノ目的ハ三國ノ經濟合作ノ實ヲ舉クルニ在ルモ其ノ機構ノ本體ハ一種ノ政治機構テアルコトハ明デ御座リマス而テ此ノ機構ハ内

蒙ニ設立セラルヘキ自治政府ト異ナリ中央政府ノ統制下ニ置カルヘキモノデ御座リマス若シ此ノ機構カ一般地方政廳ノ如ク各般ノ事項ニ付キ支那中央政府ノ指揮ヲ受クヘキモノデアレバ到底所期ノ目的ヲ達スルコトハ出來マセン獨立國家ノ如ク條約ヲ締結スルコトヲ許サザルハ勿論ナルモ少クトモ所定ノ目的ノ爲メニハ中央政府ノ指揮ヲ待タスシテ有效ナル協定ヲ爲シ得ルノ權限ヲ有セシムルコトヲ動かスヘカラサルノ條件トセネハナラヌコト考ヘマス此ノ如クナラハ永ク支那ノ内政ヲ拘束スルノ結果トナルモコレハ東洋平和ノ爲メニ已ムヲ得ザルコトトシテ忍ハネバナリヤセヌ

本文ノ末項ニ「國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル様國論ヲ指導ス、對外啓發ニ付亦同シ」トアリマス案スルニ大方針カ聖斷ニ依リ定マリタル以上ハ國民一人トシテ之ニ異議ヲ唱フルモノナキコトハ明デアリマス輔翼ノ國務大臣ハ國民全體ヲシテ徹底の二其ノ趣旨ヲ了解セシムルノ責任ヲ有スルコトハ勿論デ御座リマス若シ此ノ點ニ付萬一ノ失アルトキハ國民ノ間ニ疑惑ヲ生シ思ハサルノ結果ヲ生スルノ恐ナシト斷言スルコトハ出來マセヌ又人心ヲ

中正ニ導クコトハ最モ大切ナルコトデアリマスガ古來爲政者ノ最モ難ンジタル所テ御座リマス此點ニ付國務大臣ノ責任ノ輕カサルコトヲ痛感致シマス

以上當局者ニ望ム所ノ大要ヲ述ヘマシテ意見ノ開陳ヲ終リマス

### 附記

(左記ハ前記要旨手交ニ當リ平沼樞密院議長ヨリ堀内次官ニ述ヘタル趣旨ナリ)

御前會議議題ヲ受領シテヨリ會議マテノ間十分時間ノ餘裕ナカリシ爲メ御前會議ニ於テ自分ノ意見ヲ陳述スルニ當リテハ單ニ其ノ要旨ヲ「メモ」ニ留メ右ニ依リ意見ヲ申述ヘタル次第ニテ其ノ後前記要旨ヲ書上ケタルモノナルニ付キ本件書キ物ハ御前會議ニ於テ陳述セル所ト字句ニ於テ必スシモ一致シ居ラサル所アルノミナラズ簡略ニシタル箇所アルモ趣旨ニ於テハ何等變ル所ナシ

實ハ右以外ニモ意見申述ヘタキ點アリタルモ既ニ參謀總長及軍令部總長兩宮殿下ノ述ヘラレタル所ト重複スル部分モアリタルニ付キソレ等ノ點ハ自分ニ於テ全然同感ナリト述フルニ止メ繰返シ自分ノ意見ヲ開陳スルコトハ之ヲ差控

ヘタリ

編注一 第五号(甲)の誤りかと思われる。省略。なお、第五号(甲)

と第五号(乙)の違いは編注二を参照。

二 省略。本書第94文書として採録。

なお、第五号(甲)からの修正点は、冒頭に「昭和十三年

一月十一日 御前會議ニ於テ決定セラレ、一月十五日

第二段ノ措置ヲ執ルコトニ決定セラル」の一文を加え

たこと。

~~~~~

193 昭和13年1月12日

広田外務大臣より
在英国吉田(茂)大使、在米國齋藤(博)
大使他宛(電報)

「支那事變處理根本方針」の保秘につき訓令

本省 1月12日後3時50分発

合第一〇九號(大至急、極秘、館長符號扱)

入) 往電合第九八號御前會議決定ノ方針ニ付陸軍ハ之ヲ直チニ
出先ニ電報スルノ可否ニ付キ尙未研究中ノ趣ニ付當方ヨリ
何分ノ議申進スル迄ハ右内容ハ嚴ニ貴官限リノ御含ミトシ

特ニ陸海軍ヲモ含ム部外ニハ絶対極秘ニ取扱ハレ度シ
冒頭往電ノ通り轉電轉報アリ度シ

(欄外記入)

電信課長殿

「滿」宛ニハ冒頭ニ「澤田參事官へ」ト挿入願度(松村印)



194 昭和13年1月12日

広田外務大臣より
在上海岡本総領事、在北平森島大使館
參事官、在天津堀内総領事他宛(電報)

「支那事變處理根本方針」の軍側における伝達方法について

本省 1月12日後8時20分発

合第一一三號(部外極秘、至急、館長符號扱)

往電合第一〇九號ニ關シ

軍中央ヨリハ關東軍司令官、北支那及中支那方面軍司令官、
駐蒙兵團司令官及臺灣軍、朝鮮軍司令官宛本件處理根本方
針ノ極ク大要(條件細目等ニハ觸レ居ラス)ヲ電報シ本文ハ
近ク人ヲ派シテ傳達スルコトトセル趣ニ付右御含ミ置キア

り度シ

本電宛先上海、北平、天津、在滿澤田參事官

編注 在滿州国大使宛については「澤田參事官宛トスルコ

ト」との指示が付されている。



195 昭和13年1月15日 閣議決定

和平交渉打切りに関する在本邦独国大使への

通告案

付記 昭和十三年六月、東亜局第一課作成「日支事

變處理經過」より抜粹

「五、獨逸ノ和平交渉斡旋」

在京獨逸大使ニ對スル通告案編註

日支事變ノ和平直接交渉ニ對スル貴國政府ノ好意的斡旋及
貴大使ノ御盡力ハ本大臣ノ感佩スル所ナリ

然ルニ右交渉ニ關スル支那側ノ回答ハ數次之ヲ延期シテ一
月十日ニ至ルモ到着セス回答到着期日ヲ更ニ延期シ漸ク昨
日ノ回答ニ接セルカ右ハ單ニ更ニ我方條件ノ詳細ヲ承知シ

タキ旨ノ遷延的回答ニ過キス畢竟支那側ハ曩ニ本大臣ノ開示セル媾和ノ原則ヲ總括的ニ承認シテ帝國政府ニ和ヲ乞フノ態度ヲ表示セサルモノト認メラルルヲ以テ帝國政府ハ茲ニ遺憾乍ラ貴國ノ好意的御配慮ニ依ル日支兩國和平交渉ヲ打切り從來ト全ク新ナル見地ニ立チ事變ニ對處スヘキコトヲ決定セリ

終リニ貴國從來ノ本問題ニ對スル御配慮並御努力ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表ス

編注一 昭和十三年一月十六日午前、広田外相は在本邦独国大使を招致し、本通告案を手交した。

二 本文書は、昭和十三年六月、東亞局第一課作成「日支事變處理經過」より抜粋。

(付記)

五、獨逸ノ和平交渉斡旋

(甲)交渉條件提出迄ノ經緯

(イ)十月二入り武府二日支和平交渉斡旋ニ關スル九ヶ國條約會議開催ノ議アリ帝國ノ參加方要請シ來レルヲ以テ、

十月二十七日外務大臣ハ在京關係國大使ヲ招致シ右會議ニ對スル帝國不參加ノ次第ヲ回答セルカ、前記四、第三國ノ斡旋ニ對スル方針ノ次第モアリ其際外務大臣ヨリ主要各國大使ニ對シ、武府會議ニ對スル帝國ノ態度ハ右ノ通りナルカ、各國カ個々ニ事變解決ノ爲日支直接交渉開始方南京政府ヲ説得セラルルコトハ寧口希望スル所ナリト述ヘタル經緯アリ

(前記)、十月一日決定ノ對處要綱ニ於テ和平條件ノ大綱ヲ決定シ、爾後獨逸側ニ對シテハ陸軍側ヨリ在京獨逸武官ヲ通シ和平斡旋ヲ辭セストノ意嚮ヲ通シ置キタル趣ナリ)

(ロ)十一月八日在京獨逸大使外務大臣ヲ來訪在支獨逸大使ノ報告ニ依レハ支那側ノ和平條件ニ對スル意嚮左記ノ通りナル旨内報セリ

(1)支那ハ日本側ニ原狀回復ノ用意アルニアラサレハ交渉ニ應シ得ス。條件ノ一部ニ付話合ヲナスコトハ可能ナルモ右ハ原狀回復ノ後ニ於テナサルヘク、平和條約ノ締結ハ兩國ノ將來ニ亘リ友好關係ノ礎石タルカ如キモノナラサルヘカラス。

(2)支那ハ目下武府會議ニ於テ審議中ノ列國ト協調中ナルヲ以テ、日本側ノ條件ヲ公式ニ諒承スルコトハ不可ナリ

(附)確實ナル情報ニ依レハ支那側ノ和平解決條件大要左ノ通りト認メラル

(1)北支

北支ノ主權領土及行政ノ完整ヲ確保シ得レハ經濟開發、及資源ノ供給ニ關シ相當ノ讓歩ヲナス各國駐兵權ヲ全部放棄セシムレハ最モ可ナルモ、然ラサレハ日本ノ駐兵ハ義和團條約規定ノ地域トシ、兵力ハ列國トノ振合ニ應シ別ニ條約ヲ以テ定ム

(2)上海

(a)八月十三日以前ノ原狀ニ復ス

(b)上海停戰協定所定ノ地域内ニ於テ、武裝團體防禦施設禁止ニ關スルカ如キ事項ハ國際協定ヲ以テ規定ス。

日本及列國ノ上海ニ於ケル駐兵及軍事施設ハ租界守備區域ニ必要ナル最少限度ニ減シ、其ノ兵力ハ現共同委員會又ハ別ノ委員會ニ於テ研究決定ス。

右有效期限ヲ當分五年トス。

(c)前項區域ハ略現停戰協定區域トシ之ヲ著シク擴張スルハ不可ナリ

(乙)日支和平條件ノ決定

(イ)陸軍側原案別紙第一號(案別紙)ノ通り

(ロ)右原案ニ基キ陸海外三省間ニ於テ屢次會合研究シ且ツ閣議及政府大本營間連絡會議ニ於テモ再三討議ノ結果、

政府トシテ最後のニ決定セル回答別紙第二號(案別紙)ノ通り

(ハ)尙前記(イ)陸軍案ニ基キ陸海外三省事務當局ニ於テ最大限ノ條件トシテ此ノ際考慮シ得ル條件案トシテ一應纏

リタルモノ別紙第三號(案別紙)ノ通り

別紙第三號事務當局案ト別紙第二號閣議決定案末尾ノ「日支媾和交渉條件細目」トノ重要ナル相違點大要左ノ通り

(1)事務當局案ノ四、趣旨ハ北支政權ハ特殊ノ「行政形態」トスルモ中央政府ノ下ニ立ツモノナルコトヲ前提トシ、從テ行政統一ノ形式ヲ保持シ、中央政府ノ面目ヲ立テ遣ルコトヲ考慮セルモノナリ
閣議決定ノ「條件細目」四、ハ北支政權ヲ單ニ支那主

權ノ下ニ於ケル特殊「機構」トシ之ニ廣汎ナル權限ヲ附與スルコトトセリ。即チ支那主權ノ下ニ立ツニ於テハ中央政府ト分離セル獨立政權トスルモ差支ヘナキ趣旨トナリ居レリ

(2) 閣議決定「條件細目」中ノ附記(二)ハ日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始スル旨明記セリ

事務當局案ニ於テ右規定ヲ削除セル理由ハ、和平交渉開始スルモ事實上軍事行動ヲ進メ差支ナキ次第ナルト共ニ、適當ノ場合ニハ休戰協定ヲモ交渉シ得ル次第ニテ、右附記(二)ノ如キ規定ヲ明記セストモ明記スルト同様ノコトヲナシ得ヘク、從テ明記ナキ方萬事余裕アリテ可ナリトノ意嚮ニ出テタル次第ナリ。事實漢口側ハ本規定ニ依リ當初ヨリ著シク衝撃ヲ受ケタル模様ナリ

(丙) 條件提出ヨリ決裂迄

(イ) 十二月二十二日廣田外務大臣ハ獨逸大使「デイルクセン」ヲ招致シ別紙第二號對獨回答文ヲ示シ、數箇ノ點ニ付口頭説明ヲナシ、獨逸大使ヨリモ種々質疑アリ、結局獨逸大使ハ右ヲ在支獨逸大使ヲ通シ漢口政府ニ提

出スヘキ旨約シタリ

其ノ後本件ニ關シ在京獨逸大使ト廣田大臣トハ屢々會合シ獨逸大使ヨリハ再三支那側ノ態度ニ關シ中間の報告アリ、大臣ヨリハ又屢々支那側ノ最後の回答ヲ得ル様督促セリ

(ロ) 内閣ニ於テハ一月早々支那側ノ確答アルヘキヲ期待シ、大体一月五六日迄ニハ確答アルモノト豫定シ居リタルモ容易ニ確答ニ接セス

一月十三日閣僚會合ノ際ニハ何時迄モ便々トシテ支那側ノ回答ヲ待チ居ル譯ニモ行カサルニ付十五日中ニ支那側ヨリ確答ナキ場合ニハ直ニ國民政府トノ交渉二期待ヲ掛ケス事態ヲ處理シ行クノ第二段ヲ取ルヘキ旨聲明スルコト然ルヘク右ハ十四日ノ閣議ニ於テ決定スヘキ旨ノ話合ヒ成立セリ

(ハ) 一月十四日在京獨逸大使外務大臣ヲ來訪シ十三日支那外交部長ノ在支獨逸大使ニナサレタル聲明ヲ手交シタル上

支那側ハ日本ノ要求スル細目ヲ承知シ度シトノコトナルカ在支獨逸大使ハ曩ニ貴大臣ヨリ承リタル日本側條

件ノ大体ハ支那側ニ傳ヘタルモノト思考スルモ別ニ書物ヲ以テセサリシ次第ニ付此ノ際日本側ノ細目條件十一ヶ條ヲ書面ニ認メ支那側ニ手交スルニ於テハ此ノ二十日二十一日頃迄ニハ支那側ノ確答ヲ得ラルヘキ旨述ヘタリ。

右ニ對シ外務大臣ハ支那側ノ聲明ハ如何ニモ日本ヨリ和ヲ乞フカ如キ書キ振リヲナシ居ル處抑モ媾和ノ希望及條件等ハ進ンテ支那側ヨリ提示スヘキ筋合ナルニ日本側ノ條件ヲ大体承知シナカラ尙日本側條件ノ細目ニ付説明ヲ求メ、而モ支那側ノ意見ヲ示ササルカ如キハ、支那側ニ和平ノ誠意ナク、遷延策ヲ講シ居ルモノト見ル外ナシ。恰モ目下閣議開催中ニ付直ニ右支那側申出ノ次第ヲ閣僚ニ謀リ追テ何分ノ回答ヲナスヘキ旨答ヘ置キタリ

(二)右支那側ノ態度ニ基キ、直ニ漢口トノ和平交渉ヲ打切り、國民政府ヲ對手トセストノ聲明ヲ爲スヘキヤ否ヤニ付テハ政府及大本營間ニ於テ種々ノ意見生シ議ヲ纏ムル爲政府及大本營間ノ連絡會議ヲ重ネタル結果結局交渉ヲ打切り斷乎タル聲明ヲ爲スコトニ決定セリ

(ホ)仍テ外務大臣ハ十六日午前在京獨逸大使ヲ招致シ別紙〔編注三〕第四號交渉打切ニ關スル通告ヲ手交スルト共ニ獨逸側ノ從來ノ好意ヲ謝シタル後
同日正午別紙〔編注三〕第五號帝國政府ノ聲明ヲ發出セリ

編注一 省略。第188文書として採録。

二 省略。第195文書として採録。

三 省略。第196文書として採録。

196

昭和13年1月16日

〔爾後國民政府ヲ對手トセズ〕との日本政府声明

付記一 昭和十三年一月十四日、東亜局第一課作成

右声明發出後の処理方針

二 昭和十三年一月十七日、東亜局第一課作成

右声明發出に伴う諸問題に關する議会用擬問

擬答

帝國政府聲明

(昭和十三年一月十六日)

帝國政府ハ南京攻略後尙支那國民政府ノ反省ニ最後ノ機會ヲ與フル爲今日ニ及ベリ、然ルニ國民政府ハ帝國ノ眞意ヲ解セズ漫リニ抗戰ヲ策シ、内民人塗炭ノ苦ミヲ察セズ、外東亞全局ノ和平ヲ顧ミル所ナシ、仍テ帝國政府ハ爾後國民政府ヲ對手トセズ、帝國ト眞ニ提携スルニ足ル新興支那政權ノ成立發展ヲ期待シ、是ト兩國國交ヲ調整シテ更生新支那ノ建設ニ協力セントス、元ヨリ帝國カ支那ノ領土及主權竝ニ在支列國ノ權益ヲ尊重スルノ方針ニハ毫モカハル所ナシ、今ヤ東亞和平ニ對スル帝國ノ責任愈々重シ
政府ハ國民カ此ノ重大ナル任務遂行ノ爲一層ノ發奮ヲ冀望シテ止マズ

編注 本声明は一月十六日正午に發出された。

(付記一)

南京政府ヲ相手トセサル旨聲明シタル後ニ於ケル

處理方針

(昭和二三、一、一四、東亞一)

甲、方針

一、南京政府ヲ相手トセストノ今回ノ聲明ハ一方ニ於テ新政權ノ樹立及之カ承認ニ進ムコトヲ豫告スルト共他方南京政權ノ存在ヲ意識シツツ而モ之ヲ無視スルノ態度ヲ示シタルモノニシテ南京政府トノ國交斷絶ト云フカ如クハツキリ南京政府ヲ對等ノ相手方トシテ扱フコトハ之ヲ無視セントスル趣旨ニ合セス

從ツテ右ノ如キ態度ハ之ヲ國際法上ヨリ説明スルコト困難ナルカ日支間及支那ノ特殊事態ニ鑑ミ現實ノ大戦爭スラ國際法上ニ云フ戰爭ニ非ストシテ押通シ來レル程ナルニ付今回ノ事態モ亦事實上ノ行爲、事實上ノ關係トシテ之ヲ取扱ヒ總テハツキリ法律關係ヲ明確ニセス我方ニ有利ナル解釋ヲ取リツツ進ムコト然ルヘシ
二、在本邦支那大使館及領事館竝ニ在留民ニ對スル取扱モ亦必スシモ法的理論ニ捉ハレサルコトトス

但シ帝國ハ南京政權打倒ヲ目的トスルモ支那人ト闘フモノニ非ス根本ハ日支兩國人ノ諒解ヲ進メ日支間親善關係ヲ樹立スルニアルヲ以テ南京政權下ニアリタル支那人ト雖モ我方ニ於テ之ヲ遇スルニ道ヲ以テスルニ於テハ日支關係再建ノ役ニ立ツヘク徒ニ感情ニ走り敵ヲ

乙、要領

ラシムルコトヲ避クルコト肝要ナリ況ンヤ大國民ノ襟度トシテモ實力ナキ在本邦支那官民ニ對スル扱ヒヲ冷酷ニスルカ如キハ絶對ニ之ヲ避クルコトヲ方針トス

一、川越大使ニ歸朝ヲ命ス

(イ)但シ外部ニ對シテハ南京政府ヲ相手トセサル旨帝國政府ニ於テ聲明セルニ依リ右帝國ノ決意ヲ明ニスル爲大使ニ歸朝ヲ命シタルモノナル旨發表ス

(ロ)外國側(在支)ニ對シテハ單ニ川越大使歸朝シ爾後大使館ノ館務ハ上海ニ於テハ日高參事官、北平ニ於テハ森島參事官之ヲ管掌ス但シ兩參事官トモ代理大使ト稱セサル旨通知ス

(ハ)大使館參事官以下ノ館員及總領事以下ノ領事館員ハ現狀ノ儘トス

二、支那側ニ對シテハ川越大使ニ歸朝ヲ命シタル趣旨ヲ說明シ(東亞局長ヨリ楊參事官アタリニ話スコト然ルヘシ)在本邦支那大使以下ノ外交官及領事館員全部ノ本邦引揚ヲ勸告ス

(イ)引揚迄ハ外交官及領事官ノ特權ヲ認メ其ノ身體財產

ニ付テハ十分ノ保護ヲ爲スモノトス

(ロ)大使館及領事館ノ建物ハ支那新政權ニ於テ接收スル迄我方官憲ニ於テ立入ルコトナク之ヲ保護スルモノトス

(ハ)我方引揚ノ勸告ニ拘ラス引揚ヲ實行セサル場合ニ於テモ之ヲ保護スルコト從前ノ通りトシ大使館及領事館ニハ我方官憲ニ於テ無斷侵入シ若クハ館員ヲ逮捕スルカ如キコトナシ

但シ衣食住以外ノ問題即チ公用ニテ外部ト接觸スルコトヲ禁ス

帝國カ新政權ヲ承認シタル場合ニ於テハ南京政府ノ任命セル外交官及領事官ヲ一切退去セシムヘキコト勿論ナリ

(ニ)引揚勸告後一定期日ノ後ハ諜報防遏ノ目的上暗號電信ノ發受ヲ禁ス

(說明)

以上ノ措置ハ國際法上ヨリ説明スルコト困難ナルモサリトテ確然國交斷絶トスル時ハ在支帝國外交官ノ駐在ヲ否認スルコトナリ若シ外國側ニ於テ理窟ヲ言ヒ出セハ外

交團トノ關係モ一切非公式ノモノトナリ不便アルノミナ
ラス條約關係ニ於テモ不利アルヘシ

仍テ大規模ナル事實上ノ戰爭ヲ爲シツツ國際法上ノ戰爭
ニ非ストシテ押通シ來レルコトナルニ付今回モ支那新政
權承認迄ハ國際法上ニ於テハ未タ國民政府ノ存立ヲ認め
居リ法律上ノ國交斷絶ニモ非ス唯事實上國交斷絶ト同様
ノ狀態ニナリタルモノトノ建前ヲ採リ置クコトトシタル
次第ナリ

從ツテ大使ノ引揚モ法律上ヨリ云ヘハ單ナル歸朝ニシテ
代理大使ヲ置カサルコトモ單ニ帝國ノ決意ノ強キコトヲ
示ス爲ニ過キストノ説明トスルコトトシタシ

(付記二)

帝國政府ノ國民政府ニ對スル態度決定ニ伴フ諸問題ニ
關スル第七十三議會用擬問擬答

註 昭和十三年一月十四日作成當課關係

擬問擬答中本擬問擬答ト重複スルモ
ノハ削除相成度

東亞局第一課(昭和三、二十七)

問 帝國政府今後ノ對支方針如何

答 一月十六日政府聲明ノ通り今後ハ國民政府ヲ對手トセ
ス帝國ト眞ニ提携スルニ足ル新興支那政權ノ成立發展
ヲ期待シ是ト兩國國交ヲ調整シテ更生新支那ノ建設ニ
協力セントスル次第ナリ

問 若シ今後國民政府ヨリ媾和停戰等ノ申出アリタル場合
之ニ對スル帝國ノ方針如何

答 帝國政府トシテハ今後國民政府ヲ對手トセサル方針ヲ
堅持スルモノナルヲ以テ今后萬一國民政府ガ國民政府
ノ名ニ於テ媾和停戰等申出來ルコトアリトスルモ之ヲ
取り上ケ得サル次第ナリ。

尤モ國民政府カ新興支那中央政權ノ傘下ニ合流シ新政
權トシテ停戰媾和等ノ申出ヲナシ來ル場合ハ此ノ限り
ニ非サルコト勿論ナリ。

問 政府ニ於テ爾後國民政府ヲ對手トセストハ如何ナル意
味ナリヤ

答 帝國政府カ國民政府ヲ對手トセストハ事實上今後ハ日
支兩國間ノ問題ニ就テハ一切同政府ヲ對手トスル交渉
ヲナサス帝國ハ全然帝國獨自ノ立場ニ於テ事態ニ對處

セントスル趣旨ナリ

問 國民政府ヲ對手トセストハ同政府トノ國交斷絶ヲ意味スル次第ナリヤ

答 右ハ事實上今後同政府ヲ對手トセストノ趣旨ニテ兩國外交關係ノ斷絶ニ依ル國際法上ノ所謂國交斷絶トハ見ス

(註)「秘」

對手トセストハ帝國ノ決意乃至方針ヲ簡明直截ニ述べタルモノニシテ、飽ク迄事實關係ニ過キス從テ國際法上ノ國交斷絶ニハ非サルモ強ヒテ類似ノ用語ヲ用ヒントセハ事實上ノ國交斷絶ニ近シト云フヲ得ヘシ。要之日支間ノ問題ハ其ノ特殊事態ニ鑑ミ普通ノ國際法ヲ其儘適用シ得サル場合多ク、今回ノ例モ亦然ル次第ナリ。政府ハ何故此ノ際國民政府ニ宣戰ヲ布告シ若クハ同政府ヲ否認スルノ措置ニ出テサルヤ

答 此ノ際國民政府ニ宣戰スルコトハ却テ或ル意味ヨリ言ハハ之ヲ對等ノ對手トシテ認ムルコトトモナルノミナラス諸般ノ關係上ヨリ云フモ適當ナラスト認メ居ルカ故ナリ又此ノ際國民政府ヲ否認スルト云フコトハ法理

上ノ觀點ヨリ妥當ヲ缺クモノト認メラレ帝國政府ニ於テ將來新政權ヲ承認スル曉ニ於テハ當然國民政府ノ否認ノ結果ヲ招來スルコトトナル次第ナリ

問 帝國政府聲明中ノ新興支那政權ノ成立發展ヲ期待スルトハ結局中華民國臨時政府ヲ承認セントスル趣旨ナリヤ

答 特定政權ヲ指名スルコトハ未タ其ノ時期ニ非スト認メラルルモ帝國政府トシテハ帝國ト理想ヲ同シウスル新支那新政權ニシテ將來全支那ノ中央政府タルヘキモノノ成長發展ヲ期待シ之ヲ支那中央政府トシテ承認セントスル趣旨ナリ

問 帝國政府ハ在京支那大使ノ引揚ヲ要請スル意向ナリヤ

答 法理上外交關係ノ斷絶ニ非サルヲ以テ帝國政府ニ於テハ正式ニ在京支那大使ノ引揚ヲ要請スル等ノコトハ無之モ帝國政府トシテハ今後國民政府ヲ對手トセサル次第ナルニ付在京支那大使トノ公的交渉ハナクナル譯ニモアリ其ノ滯京ヲ必要トセサル事態トナリタルモノト認メ居ル次第ナルヲ以テ同大使ニ於テモ結局東京ヲ引揚ケラルルモノト考ヘ居ル次第ナリ

揚ケラルルモノト考ヘ居ル次第ナリ

問 川越大使召喚後日高參事官代理大使ニ任命セラレ居ル

處斯克テハ尙帝國政府カ國民政府ヲ對手トシ居ル形トナリ政府ノ方針ト矛盾シ居ルヤニ認メラルル處此ノ點如何

答 代理大使ハ特ニ任命スル次第ニハ非スシテ大使離任セハ館員中ノ先任者カ自働的ニ代理大使トナリ館務ヲ統轄スルコトトナリ居ル次第ナリ。從テ代理大使カ存在スルコトハ制度上ノ問題ニテ事實上帝國カ今後國民政府ヲ對手トセサル建前トハ何等矛盾セサルモノト解シ居レリ

197 昭和13年1月20日 閣議決定

【國策大綱】

國策大綱

國體ノ本義ニ基キ舉國一致内ニ國力ノ充實ヲ圖リ外ニ帝國ノ發展ヲ遂ケルヲ以テ施政ノ根本方針トシ向後數年ニ亘ル非常時ヲ目標トシ緩急輕重ヲ計ツテ左記諸政策ヲ遂行ス

一 帝國ノ對外國策ハ日滿支ノ鞏固ナル提携ヲ具現シ東洋

永遠ノ平和ヲ確立シ世界ノ平和ニ貢獻スルヲ以テ基本トス

二 日滿兩國不可分關係ヲ堅持シテ對滿重要策ノ完成ヲ期シ對支策ノ具現ニ積極的努力ヲ爲シ南方ニ對スル經濟發展ニ努ム

三 支那事變ニ對スル軍事目的達成ニ遺憾ナカラシメ且國防ノ必要ニ應スル爲國家總動員態勢ヲ完成スルト共ニ今後一層軍備ノ充實ヲ圖ル尙支那長期抵抗ニ對應スル一切ノ措置ヲ執ル

四 向後四年ヲ目標トシ重要産業ノ振興ヲ計リテ生産力ノ綜合的擴充ヲ爲シ日滿ノ外更ニ北支等ヲモ加ヘテ全體的計畫ノ下ニ國防上重要物資ノ供給ヲ確保シ且輸出貿易ヲ促進シテ國際收支ヲ改善シ以テ國防經濟ノ確立、帝國經濟力ノ充實ヲ期ス

五 今次事變ニ於ケル銃後ノ處理及戰死傷病者竝ニ其ノ遺族家族ニ對スル扶助援護ニ遺憾ナカラシメ且復員ノ措置ヲ適切ニシ更ニ在支居留民ノ復興ニ必要ナル措置ヲ講シ以テ將來ニ於ケル帝國發展ノ萬全ヲ期ス

六 國民思想ノ指導ヲ強化徹底シ學術文化ノ振興ヲ圖リ大

國民タルノ資質ヲ涵養スヘク文教ノ刷新ヲ期ス

七 非常時局ニ對スル國民ノ覺悟ヲ益々強調シ犠牲的精神ヲ發揮セシムルト共ニ國民生活ノ安定ニ必要ナル諸政策、就中農山漁村ノ振興、中小商工業者及勞務者ノ厚生竝ニ國民體力ノ向上ニ力ヲ致ス

八 軍備充實、産業振興及國民生活安定ノ爲物價、金融、事業、貿易、交通、動力、勞務等ニ對シ必要ナル國家的統制ヲ加フルト共ニ非常時財政計畫ヲ確立ス

九 共產主義其ノ他國體ト相容レサル思想行動ニ對シ之カ艾除^(要)克服ヲ期ス

十 以上ノ諸政策遂行ヲ迅速的確ナラシムル爲政治行政ヲ刷新シ國家諸般ノ機構ヲシテ之ニ適應セシムルコトヲ期ス

理由

蔣介石政権ハ國都ヲ始メ主要地域ヲ喪失セシト雖未タ抗日ノ迷濛醒メス反テ外國ノ援助ヲ期待シ日本ノ經濟的消耗ト財政的疲弊トヲ期待シ長期抵抗ニ專念セントシツツアリ他力本願ト名分固執ノ民族性ハ今後執拗ナル抵抗ヲ繼續スルモノト判斷セラルヘシ此間英、蘇兩國ハ巧ニ支那側ヲ煽動

シツツアリテ其ノ勢ノ嚮ク處形勢樂觀ヲ許ササルモノアリ此ノ如キ情勢ヲ達觀スルトキ帝國ハ一意今次事變ノ軍事目的達成ニ邁進シ支那ノ長期抵抗ヲ覆滅スルト共ニ一面帝國ノ飛躍的海外發展ヲ策シ將來國際情勢ノ如何ナル推移ニモ對應スル爲舉國一致牢乎タル覺悟ト萬全ノ準備トヲ整フルコトヲ必要トス之ガ爲ニハ向後數年ヲ目標トシテ國家ノ嚮フ處ヲ明確ニシ國家百般ノ事象ヲシテ擧ケテ此ノ目的達成ニ即應スルコトハ實ニ焦眉ノ急務タリ茲ニ國策大綱ヲ樹立シ施政ノ方針トシテ着々之力實現ヲ期セントスル所以ナリ

編注 本「國策大綱」は、企画院が起草し、昭和十二年十二月二十八日に各省へ送付。閣議の修正を経て、一月二十日に閣議決定し、翌二十一日に裁可された。



198 昭和13年1月21日

一月十六日声明後の中国外交機關の地位に関する情報部長談話

一月十六日帝國政府聲明後ニ於ケル支那外交機關ノ

地位ニ關スル情報部長談(一月二十一日)

南京政府ヲ相手トセストノ十六日帝國政府聲明ハ帝國ハ事實上南京政權ヲ無視スルノ態度ヲ示シタモノテ川越大使ニ對スル歸朝命令ハ右帝國ノ決意ヲ明ニスル爲テアル尙今回ノ事態ニ基ク支那外交機關ノ取扱ニ就テモ事實上ノ關係シテ大體左ノ通之ヲ行フ方針テアル

一、在本邦支那大使以下ノ外交官及領事館員ノ引揚ケル者ニ付テハ引揚迄ハ外交官及領事官ノ特權ヲ認メ其身體財產ニ付テモ十分ノ保護ヲ與ヘル

二、引揚ヲ爲サス本邦ニ居殘ル者ニ付テモ身體財產ニ對スル保護ニ付テハ従前ノ通ノ取扱ヲスル

三、在本邦支那大使館及領事館ノ建物ハ支那外交官領事官ノ本邦引揚後ト雖モ我方官憲ニ於テ立入ル事無ク之ヲ保護スル

編 注 本文書は、昭和十三年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第三號)から抜粋。

199 昭和13年1月22日

第七十三回帝國議會における広田外相演説

第七十三回帝國議會ニ於ケル廣田外務大臣演説

(一月二十一日)

支那事變ニ對スル帝國政府ノ方針ニ付キマシテハ、曩ニ七十二回帝國議會ニ於テ、陳述スル所アリマシタカ、本日茲ニ、其ノ後ノ情勢、及我方對外關係ノ全般ニ付イテ、所見ヲ開陳致シタイト存シマス。

今次事變ニ對スル帝國政府ノ態度ハ、屢次ニ互ル政府所信ノ披瀝ニ依テ明カテアリマシテ、帝國政府ハ、支那ニ對シ何等ノ領土の野心ヲ有セス、又北支ヲ支那ヨリ分離セシメントスルカ如キ意圖ヲモ有シテ居ナイノテアリマス。即チ帝國ノ求ムル所ハ、唯支那カ大局ニ目覺メ、日支提携共存共榮ノ理想ニ協力スルニ至ランコトニアルノテアリマス。

從テ事變勃發ノ後ニ於キマシテモ、國民政府ニシテ排日抗滿ノ政策ヲ捨テ、右帝國ノ理想ニ協力スルノ誠意ヲ披瀝シ來ルニ於テハ、帝國ハ之ト手ヲ携ヘ東亞和平ノ確立ニ邁進センコトヲ期シテ居タノテアリマス。然ルニ國民政府ハ帝

國ノ眞意ヲ解セス、多年自ラ鼓吹シ來レル排日抗日ノ主張ニヨリ自繩自縛ニ陥リ、冷靜ニ大局ヲ顧念シテ善處スルコトヲ得ス、或ハ第三國ニ頼リ、或ハ共產黨ト結ヒ、尙尙長期抵抗ヲ唱へ、四億ノ民衆ヲ塗炭ノ苦ミニ投シ敢テ顧ミナイノテアリマス。今ヤ帝國ノ忠勇ナル軍隊ハ、北二南二勇戰奮鬪シ、爲ニ國民政府ハ首府南京ヲ捨テテ速ク長江上流ニ逃竄セサルヲ得ナイコトニナリマシタカ、而カモ尙自ラ覺ルコトナク、自暴自棄的抵抗ヲ續ケテ居リマス。斯クノ如キハ支那民衆ノ爲ニモ、將又東亞ノ大局ノ爲ニモ、痛惜措ク能ハサル所テアリマス。帝國政府ハ、曩ニ獨逸政府ヨリ、日支兩國ノ間ニ立チ直接交渉ノ橋渡シヲナスヘキ旨ノ好意的申出ニ接シマシタノテ、國民政府ニ最後ノ反省ヲ與ヘンカ爲、事變解決ノ基礎條件トシテ次ノ四點ヲ提示シタノテアリマス。

- 一、支那ハ容共抗日滿政策ヲ放棄シ日滿兩國ノ防共政策ニ協力スルコト
- 二、所要地域ニ非武裝地帯ヲ設ケ且該地方ニ特殊ノ機構ヲ設定スルコト
- 三、日滿支三國間ニ密接ナル經濟協定ヲ締結スルコト

四、支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト

右ハ何レモ帝國政府ノ絶對必要ト認メル、最少限度ノ要求ヲ概括致シタモノテアリマシテ、私ハ國民政府力速ニ此ノ基礎條件ニヨリ、和ヲ求メ來ランコトヲ切望シテ居タノテアリマスカ、東亞ノ大局ニ目覺メサル同政府ハ我方ノ寛容ト獨逸政府ノ好意トヲ無視シ、虛心坦懷ニ和ヲ乞フノ態度ニ出テス、徒ラニ遷延ヲ事トシタル末遂ニ何等誠意ノ認ムヘキ回答ヲシナカツタノテアリマス。

右國民政府ノ態度ハ、帝國政府ノ與ヘタル最後ノ好機ヲ自ラ抛擲シタルモノト云フヘキテアリマシテ、事態此處ニ至ツテハ、此ノ上荏苒同政府ノ反省ヲ待ツモ、到底事變解決ノ見込ナキコト明カト相成ツタノデアリマス。之レ去ル十六日帝國政府カ今後國民政府ヲ對手トセサル旨ノ聲明ヲナスニ至レル所以テアリマス。尙該聲明中ニモ明示シテアリマスル通り、今後帝國政府ハ、帝國ト眞ニ提携スルニ足ル新興支那政權ノ成立發展ヲ期待致シマシテ、是ト兩國ノ國交ヲ調整シ、更生新支那ノ建設ニ協力スル決意テアリマシテ、私ハ此レカ、帝國ノ理想トスル日支提携ニヨル東亞ノ安定ヲ得ル唯一ノ途タルコトヲ信シテ疑ハナイノテアリマ

ス。

尙此ノ機會ニ一言致シ度イノハ、歐米諸國ニ於キマシテハ、動モスレハ、帝國カ支那ノ門戸ヲ閉鎖シ列國ノ權益ヲ驅逐センコトヲ企圖シテ居ルカノ如キ誤解ヲ有スル向カアルコトデアリマス。帝國政府ハ、帝國軍隊ノ占據區域内ニ在ル列國ノ權益ハ飽ク迄之ヲ尊重スヘキコトハ勿論、廣ク支那民衆ノ副利増進ノ爲、諸外國ニモ門戸ヲ開放シ、其ノ資本ノ進出ヲモ歡迎スルモノナルコトヲ茲ニ明ニシ度イト存シマス。私ハ關係列國カ、支那ニ於ケル新ナル事態ヲ直視シ、之ニ即應シテ帝國カ現ニ爲シツツアリ、又ハ今後爲スコトアルヘキ合理的調整ノ要求ヲ諒解シ、以テ東亞ノ新ナル秩序ノ建設ニ協力セラレンコトヲ希望スル次第デアリマス。次ニ日滿兩國關係ヲ見マスルニ、滿洲國ヲシテ帝國ト緊密不可分ノ關係ヲ持シツツ獨立國トシテ其ノ健全ナル發展ヲ遂ケシムルコトハ、帝國對滿國策ノ基調デアリマスカ、帝國カ多年滿洲ニ於テ享有セル治外法權、及日露戰爭ノ代償タル南滿洲鐵道附屬地行政權ニ付キマシテモ、政府ハ右國策ノ基調ニ遵據シ可成速ニ之カ撤廢乃至移讓ヲナスヘキ方針ヲ決定シ、右實現ノ爲昭和十一年六月ノ條約、竝昨年十

一月ノ條約ヲ締結シタノデアリマス。而シテ右兩條約ノ實施狀況ハ極メテ順調デアリマス。一方國際政局ニ於ケル滿洲國ノ地位ヲ見マスルニ、建國以來帝國ノ協力ノ下ニ庶政ノ改革ニ邁進致シマシタ結果、今ヤ列國モソノ對滿認識ヲ新ニスルニ至リ、昨年十一月末、先ツ伊國ノ正式承認ヲ得、次テ十二月初、西班牙「フランコ」將軍ノ政府トノ間ニ相互ニ、正式承認ヲ行ヒマシタコトハ、御同慶ノ至リデアリマス。

「ソヴィエト」聯邦トノ關係ニ付キマシテハ、帝國政府トシテハ、由來、兩國關係ヲ出來得ル限り正常ナル狀態ニ置クコトカ、東亞平和ノ爲喫緊ト信シ、此ノ方針ヲ以テ措置シ來ツタノデアリマス。即チ兩國間年來ノ懸案タル漁業條約ノ修正問題ヲ、昨年中ニ解決セント努力致シマシタコトモ、一二此ノ方針ニ基クモノデアリマスカ、「ソヴィエト」政府當局ノ態度ニヨリ、昨年末遂ニ一昨年ト同様ノ暫定取極ヲ結フノ已ムヲ得サルニ至リマシタコトハ、私ノ遺憾トスル所デアリマス。尤モ「ソヴィエト」政府ニ於テモ、現行條約ヲ修正スル協定ヲ締結スル爲、必要ナル國內的準備ヲ進メテ居リマスルカ故ニ、引續キ交渉ヲ行ヒ、以テ可成

速ニ、新協定ノ實現ヲ見ル様折角手配中テアリマス。尙政府ハ北樺太ニ於ケル利權事業ノ正常ナル進行ヲ極メテ重要視スルモノテアリマシテ、日「ソ」基本條約ニ由來スル此種ノ利權カ、不當ノ壓迫ニヨリ有名無實トナルカ如キコトハ、帝國政府トシテ黙過シ得ナイ所テアリマス。又「ソヴイエト」聯邦ト支那トノ關係ニ付テハ、我國一般ノ特ニ注意ヲ惹イテ居ル所テアリマシテ、支那ハ昨年八月「ソ」聯邦トノ間ニ不侵略條約ヲ結ヒ殊ニ國際共產黨員カ支那ノ各層ニ喰入ツテ同國ノ社會秩序ヲ破壊シ、延イテ東亞ノ安定ニ禍シテ居リマスルコトハ、東亞ノ文明ト諸民族ノ福祉ヲ念トスル帝國トシテ、多大ノ關心ヲ持タサルヲ得ナイ次第テアリマス。

帝國ハ對支軍事行動ヲ進ムルニ當リ、在支第三國人及第三國權益ニ不測ノ被害ノ及ハサル様、特ニ留意シ來ツタノテアリマスカ、不幸ニシテ英米トノ間ニ、昨年末米艦「パナイ」號、及英艦「レデイバード」號事件カ起リマシタコトハ、甚タ遺憾トスル所テアリマス。此等事件カ我方ノ故意ニ出テタルモノニ非サルハ申ス迄モナイ所テアリマスカ、右兩事件ハ、一時、我國ト右兩國ノ感情疎隔ノ因ヲ成スコ

トナキヤヲ氣遣ハシメタノテアリマス。幸ニシテ兩國政府ノ冷靜且公正ナル態度ト、我官民一致ノ誠意トニヨリマシテ、事件ノ圓滿ナル解決ヲ見マシタコトハ、邦家ノ爲欣快ニ堪ヘナイ所テアリマス。

今次事變勃發以來、米國政府ハ常ニ公正ノ態度ヲ持シ、ヨク日米關係ノ大局ヲ顧念シテ善處シ、前述「パナイ」號事件ノ如キ不祥事件ノ突發ニモ不拘、兩國友好關係ニ何等累ヲ及ホスコトナカリシコトハ、私ノ欣幸トスル所テアリマス。帝國ノ外交上米國ノ理解認識ノ必要ニ付テハ、今更茲ニ言フヲ要シナイ所テアリマシテ、此ノ上共日米親善ノ爲メ、出來得ル限りノ努力ヲ續ケテ行キ度イ所存テアリマス。英國トノ關係ニ付キマシテハ、帝國政府カ日英兩國ノ傳統の友好關係ヲ維持セントスル從來ノ方針ニハ、何等渝ル所カナインテアリマス。私ハ英國政府及國民ニ於テモ、日英關係ノ重大性ニ付充分ノ理解ヲ持チ、東亞ニ於ケル帝國ノ立場ヲ正解シ、我方ト協力シテ、兩國ノ親善増進ニ努力セントスル態度ニ出テ來ルヘキコトヲ期待スルト共ニ、我國民モ亦克ク時局ノ重大ナルニ鑑ミ、右政府ノ方針ニ協力スルノ態度ニ出テンコトヲ希望シテ已マナイ次第テアリマス。

獨逸トノ關係ニ付キマシテハ、昨年秩父宮殿下英國ヨリ御歸朝ノ途次、同國ヲ御訪問遊サレ、又帝國軍艦足柄ノ「キール」廻航等ノコトカアリマシテ、兩國ノ關係益々親善ヲ加ヘマシタルコトハ、御同慶ニ堪ヘナイ所テアリマス。殊ニ同國カ日獨防共協定ノ精神ヲ體シテ、我方ニ對シ極メテ理解アル態度ニ出テツツアルコトハ、帝國政府ノ大イニ多トスル所テアリマス。政府ハ今後益々兩國ノ提携強化ニ努力致シタイト考ヘテ居ルノテアリマス。

次ニ、伊國政府ハ今次事變ノ當初ヨリ帝國ノ眞意ヲ了解シ、各方面ニ亘リ協力ヲ咨マナカツタノテアリマスカ、殊ニ昨年十一月武府ニ於テ九國條約關係國會議ノ開催ニ當リマシテ、終始一貫極力我方支持ノ態度ヲ示サレタルコトハ御承知ノ通りテアリマスカ、前述ノ本事變解決方ニ付キマシテモ、伊國政府ハ同情アル關心ヲ示シテ居タノテアリマシテ、右伊國側段々ノ好意ハ帝國ノ深ク感謝スル所テアリマス。同國ハ豫テ反共ノ點ニ於テ、帝國ト事實上共通ノ立場ニ在リマシタカ、昨年十一月日獨防共協定ニ參加シ、茲ニ日獨伊三國カ防共ノ旗幟ノ下ニ提携スルニ至リマシタコトハ、世界平和確保ノ見地ヨリ慶賀ニ堪ヘナイ所テアリマス。政

府ハ獨伊兩國ト協力シテ今後益々本協定ノ效果ヲ發揮セシコトヲ期シテ居ル次第テアリマス。西班牙ニ於キマシテハ、一昨年七月内亂勃發以來、戰況ハ次第第二「フランコ」將軍ノ政府側ニ有利ニ展開シ、最近同政府ハ西班牙ノ大半ヲ其ノ勢力ノ下ニ收メ、政府ノ基礎モ大イニ鞏固ヲ加ヘタノテアリマス。他方、同政府カ防共ヲ以テ國策トスル點ハ、帝國政府ノ方針ト相通スル所カアルノテアリマシテ、帝國政府ハ此等諸般ノ事情ニ鑑ミ、同政府ヲ承認スルヲ適當ト認メ、昨年十二月初承認ノ手續ヲ執ツタノテアリマス。

次ニ、昨年ニ於ケル通商關係ヲ概觀致シマスルニ、一昨年ニ比シ、輸入金額ニ於テ、三割五分餘、又輸出金額ニ於テ一割八分餘ノ激増ヲ示シ、貿易總額實ニ七十二億七千餘萬圓ト云フ未曾有ノ巨額ニ達シタノテアリマス。

然シ乍ラ、諸外國ニ於ケル經濟的障害ハ、其ノ後依然トシテ存續シテ居リマスノテ、政府ト致シマシテハ、諸國ノ事情並其ノ措置ニ應シ、各個ニ外交手段等ニ依ル打開ヲ圖リツツアル一方、貿易促進ノ爲不斷ノ努力ヲ致シツツアル次第テアリマシテ、昨年中英領印度、「ビルマ」及土耳其トノ間ニハ通商協定ノ締結ヲ完了シ、又暹羅トノ間ノ通商條

約、及伊領植民地ニ關スル日伊間通商追加協定モ、舊臘關印ヲ了シタ次第テアリマシテ、更ニ尙新舊市場ニ亘リ諸國ト通商ニ關シ必要ナル取極ノ締結ヲ交渉中テアリマス。

諸國中ニハ事變ニ關スル支那側ノ虛構ノ宣傳ニ惑ハサレ、若ハ多數在住スル華僑ノ策動ノ結果、本邦品排斥ノ舉ニ出テタルモノモアリマシタルコトハ、誠ニ遺憾ニ堪ヘナイ所テアリマス。我カ官民一致ノ努力ト諸國民一般ノ公正ナル態度トニ依リマシテ、其ノ擴大ヲ見ルニ至ラナカッタコトハ誠ニ幸トスル所テアリマス。

日滿支三國ノ生産力ヲ合理的ニ擴充シ、其ノ經濟的連繋ヲ鞏固ニスルト共ニ、之ト諸外國トノ貿易關係ノ發展ヲ圖ルコトハ、日滿支三國、延イテハ東亞全體ノ繁榮ト世界協和トヲ齎ラスヘキ必須條件ノ一ト信スルモノデアリマシテ、之カ實現ノ爲、政府ハ目下内外ニ亘リ萬全ノ措置ヲ講シツツアルノデアリマス。

最後ニ附言致シタイト思ヒマスコトハ文化事業ニ付テテアリマス。國際間ノ親善ヲ増進シ人類ノ眞ノ平和ヲ招來セントセハ、各國民カ相互ニ文化的連繋ヲ緊密ニシ、相互ノ眞意ヲ充分ニ理解スルコトカ必要デアリマス。今次事變ノ如

キモ、一面ニ於テ、支那側カ此ノ點ニ於テ缺クル所アツタコトニ起因スル所カ尠クナイノデアリマス。故ニ、日支間恆久ノ親善關係ヲ樹立スル爲ニハ、日支兩國國民カ相互ニ其ノ國情ト國民性トヲ理解シ、東洋本然ノ精神ニ立脚シ文化の提携ノ實ヲ舉クルノ必要カアルノデアリマス。政府ハ此ノ見地ヨリ、對支文化事業ニ一層ノ努力ヲ爲シ、之ヲ以テ兩國間百年ノ計ノ基礎タラシメントスルコトヲ期シテ居ル次第デアリマス。尙右ト同時ニ我國文化ノ海外一般ニ對スル紹介ヲ行フコトニ依リ、正義ト平和トヲ愛好スル我が國民性ト我が固有ノ文化トヲ海外ニ宣揚スルコトハ、現下ノ國際情勢ニ鑑ミ、特ニ緊要ナルモノカアルト考ヘマス。政府ハ益々國際文化事業ニ努力セントスルモノデアリマス。以上縷述致シマシタ所ニヨリ、今次事變、竝對外問題ノ全般ニ關スル政府ノ所見ヲ大體御諒察願ヘルコトト存スルノデアリマス。之ヲ要スルニ、政府ノ對外政策ノ根柢ヲナスモノハ、一ニ東亞ノ禍根ヲ除キツツ、大義ヲ宇内ニ顯揚シ、以テ世界平和ノ基ヲ樹テントスルニアリマシテ、此ノ目的ノ爲政府ハ最善ヲ盡シテ居ルノデアリマス。何卒諸君ニ於カセラレテモ、政府ノ意ノアル所ヲ御了解ノ上、現下非常

重大ノ時局ニ處スル帝國外交ノ目的達成ノ爲、切ニ御協力
アランコトヲ希望スル次第デアリマス。

編注 本文書は、昭和十三年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第三號)から抜粋。

200 昭和13年1月23日 在上海岡本総領事より
広田外務大臣宛(電報)

長期抗戦に向けて中国側が四川省や雲南省な
どの開発に着手したとの中国紙報道報告

上海 1月23日後発
本省 1月23日夜着

第二五九號

廿三日新聞ハ近衛首相、廣田外相ノ議會ニ於ケル演說概要
ヲ路透及同盟ニテ掲載セルカ(生活日報及上海「タイムス」
全文ヲ載セタリ)論說ヲ掲ケタルモノナシ

尙漢字紙ハ漢口電報ニテ蒋介石ハ廿二日武昌ニ於テ各將領
ト會議セルカ右會議ノ結果武力抵抗ノ決心ヲ重ネテ表示ス
ヘシト報シ重慶電ニテ國民政府ハ廿二日正式ニ張群ヲ四川

省主席ニ任命セルコトヲ報シ漢口電報トシテ支那政府ハ長
期抗日ノ爲四川、貴州、雲南、甘肅ノ西南諸省ヲ開發シ人
力、物力ヲ同地方ニ仰クコトニ決定シ同地省政府ニ中央ノ
重要人物ヲ配シカヲ注キ居リ特ニ張群ノ四川省主席ハ意義
深シト傳ヘタリ尙北京臨時政府ノ新稅則宣布ハ差別的ノモ
ノトシテ特報サレタリ
北平、天津へ轉電セリ

201 昭和13年1月27日

「中支政務指導方案」

付記 昭和十三年一月二十七日付

「中支新政權樹立方案」

中支政務指導方案

(本案ハ新政權樹立當初若干期間ニ及フ)
(昭、十三、一、二十七、一應ノ確定案)

第一方 針

一、高度ノ聯日政權ヲ樹立セシメ漸次歐米依存ヨリ脱却シ日
本ニ親倚スル支那ノ一地域タル基礎ヲ確立セシム

3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

- 三、右政權ノ指導ハ其ノ發育ニ從ヒ將來北支政權ト圓滿相投合シ得ル如クシ大綱ニ關スル邦人顧問ノ内面指導ニ止メ日系官吏等ヲ配シ行政ノ細部ニ亘ル指導干涉ヲ行ハサルコトヲ方針トス
- 三、蔣政權ノ潰滅ヲ計ルト共ニ皇軍占領地帯ニ於テ至短期間ニ排共滅黨ノ實現ヲ期シ其ノ餘勢ヲ速ニ隣接地域ニ擴大ス
- 第三、指導要領
- 四、政務ノ指導ハ最高政治機構就中立法部門竝ニ實行機關タル行政部門内ノ内政(保安ヲ主トス)財政、實業及文政ノ各部ニ重點ヲ置ク上海周邊ニ特種施設ヲ行ヒ中支經濟發展ノ基礎ヲ確立ス
- 五、省政府以下ノ指導ハ出來得ル限り邦人顧問ニ依ル干與ヲ排シ上位政治機構ヨリスル指導ノ流通ヲ容易ナラシム
- 速カニ皇軍占領地域特ニ戰區ニ於ケル安民就業ノ實現ヲ圖ル
- 六、速カニ財政ノ基礎ヲ確立シ金融機關ヲ整備シ中支ニ於ケル日支經濟提携具顯ヲ期ス其ノ處理要領別冊要綱ノ如シ(見當ラズ)
- 七、軍備ハ治安維持ノ爲メ最少ノ兵力ヲ整備シ日本軍ノ指導

ノ下ニ速ニ治安回復ヲ圖ルヲ主旨トス但シ海空軍ハ擧テ日本ノ國防計畫内ニ包含セシム

- ハ、全域ヲ通シ行政系統ニ屬スル保安隊ノ組織ヲ強化ス、爲之若干ノ日本人警察指導官ヲ入レ警察行政ヲ確立セシム
- 九、優良官吏ノ養成、文化工作促進ノ爲メニスル特種學校ノ設立、政務ノ淨化促進ヲ目的トスル特種側面機關ノ設立
- ハ別ニ計畫ス

- 一〇、局地ニ於ケル自治會ハ行政組織ノ整備ニ伴ヒ逐次撤廢ス
- 二、當初ノ行政地域ハ差シ當リ皇軍ノ占領區域トシ逐次之ヲ擴大ス

(付記)

中支新政權樹立方案(政務指導方案ニ準據ス)

(昭、十三、一、二七、一應ノ確定案)

第一、要綱

- 一、新政權ノ名稱左ノ如シ
- 華中臨時政府
- 三、政府所在地左ノ如シ

臨時 上海
將來 南京

三、國旗 五色旗

四、政體

別二定ム

五、宣言竝政綱別冊〔見当ラズ〕ノ如シ

六、新政權ノ組織機構左ノ如シ〔要圖〕

七、新政權ハ速ニ之ヲ樹立シ之レカ培養ニ依リ有形無形ノ壓

力ヲ以テ反抗勢力ノ破摧ヲ期ス

爲之皇軍ノ駐防地ニ逐次發生スル地方自治會ヲ強化シ日

本ヲ背景トスル新政權ノ擁立ヲ企圖スルノ空氣ヲ激生セ

シメ又上海ヲ中心トスル地域ニ經濟ノ更生ヲ速カニ實現

シ以テ新行政機構ノ確立ヲ期ス

八、新政權樹立當初ニ於ケル一般經費中相當額ハ日本側ヨリ

援助ス

九、難民ノ救濟、産業復興ノ爲メ速カニ應急對策ヲ講シ特ニ

農産出廻リヲ圓滑ニスルト共ニ春耕ノ着手ニ不安ナカラ

シム

爲之地方ノ治安維持ハ新政府機關ノ現地確立迄日本軍ニ

ヨリ可及的完成ヲ期ス

十、新行政機構確立ノ順位左ノ如シ

1 中央政府機構

特ニ立法竝ニ行政部門

2 上海特別市政府機構

3 省政府機構

4 縣以下自治機關ノ組織

十一、右1、2ト併行シテ上海特有ノ青、紅幫等ノ勢力回收

ヲ企圖シ新政權ヲ直接、間接ニ後援セシム

十二、地方行政區劃ハ概ネ舊區劃ヲ尊重ス

十三、租界ニ於テハ新政權ノ強化ニ順ヒ漸次我方ノ勢力ヲ扶

植ス已ニ陸海軍ノ掌握下ニアル舊政府機關等ハ新政權樹

立後適時該政權ニ移管スルト共ニ未解決事項ヲ速カニ處

理セシム

十四、大道市政府、市民協會等上海市新生機關ハ新上海市政

府ノ機構内ニ統合ス

十五、省以下ノ純行政機構ハ概ネ舊制ニ依ルモ學制竝ニ教育

ノ内容ニハ一大刷新ヲ加フル如ク別ニ計劃ス



202

昭和13年1月29日

事変収拾をめぐる外務・陸軍・海軍三省次官

懇談記録(第一回)

一月二十九日外、陸、海三省次官懇談記録

(昭和一三、一、二九 東亞一)

一月二十九日午後零時半ヨリ食事ノ間及食後三時半迄自由
ニ意見ヲ交換セリ其大要左ノ通り

第一、先ツ梅津陸軍次官ヨリ北支出張ノ結果ニ付左ノ通り語
レリ

今回出張ノ主タル任務ハ御前會議ノ議題ニ付出先高級幹部ニ説明シ意思ノ疎通ヲ圖ルニアリタリ内地へ色々「デマ」モ傳ハリ居タルカ出先何レノ方面ニ於テモ大体中央ノ意向ヲ能ク納得セリ。尤モ十七日現地出發ノ前日帝國政府ノ國民政府ヲ對手ニセストノ發表アリ右ニテ出先ノ意見モ或ル程度迄實現シタル譯ニテ喜ヒ居レリ其ノ間問題トナリタル所ヲ述ヘンニ

(1) 對蔣交涉問題

出先ニテハ蔣トノ和平交渉ヲ不可ナリトスル意見強ク

寺内司令官ハ最モ強硬ナリシカ話シタル結果諒解セリ。土肥原ハ強ク蔣ヲ對手トスルコト不可ナルコトヲ主張シタルカ陸軍次官ヨリ蔣トノ交渉ニ依リ纏リタル場合ニ於テモ結局蔣ハ下野スヘク北支新政權ノ立場ヲ保持シ得ヘシト説キタル處強ヒテ反對セサリキ磯谷、板垣ハ進軍中ニテ會見ノ機會ナカリシカ大体土肥原ト同意見ナリシト思フ

(2) 和平條件

條件ニハ大体異議ナシ

堀内次官ヨリ支那軍備制限論ナカリシヤト問ヒタルニ對シ梅津次官ハ右様ノ論ハナカリシモ非武装地帯ハ其ノ一ナリトモ云ヒ得ヘシ今回特ニ感シタルハスル廣大ナル非武装地帯ヲ作ル場合ニハ相當多數ノ保安隊、警察隊等ヲ置ク必要アルコトナリト述ヘ堀内次官ヨリ如何ニシテ是等ノ部隊ヲ作ルカト問ヒタルニ急ニハ出來サルカ北支新政權ニハ少數ノ親衛隊ヲ作りツツアリ將來之ヲ擴張スルコトトナラント説明セリ

(3) 山東問題

出先ニテハ山東ヲ還付前ノ状態ニ復歸セシメヨトノ論

強カリシカ此ノ問題ハ研究ヲ要スル點アリト話シ置キ
タリ

(4) 占領地鐵道問題

占領地鐵道ヲ全部取得スヘシトノ論強ク梅津次官ハ之
ニ對シ鐵道ノ地位ニハ種々アリ。平綏線ノ如ク支那資
本ノモノ、膠濟線ノ如ク日本借款ノモノアリ外國借款
ノモノモアリ一概ニハ取扱ヒ得スト説明シ置ケリ

第三、今後ノ戰略如何

- (1) 陸軍次官曰ク、北部方面ハ現在山西省太原ノ少シ南方
ニ前線アル處其ノ南方ニハ支那側ノ強力ナル部隊(山
西軍及雜軍)ヲ集結シ居リ之ヲ擊退シ黃河ノ邊迄確保
セサレハ山西方面ハ不安ナルニ付結局右作戰ニ出ツル
筈ナリ但シ山西ノ大同太原間ハ尙共產軍殘リ居リ交通
モ短區間ハ鐵道ヲ用ヒ居ルモ大部分ハ自動車ヲ用ヒ居
リ又正太線ハ一米ノ狹軌ナレハ非常ニ輸送力少ク目下
軌道改築準備ニテ輸送力不足シ僅ニ軍隊ノ必需品輸送
ヲ充タス程度ニ過キス新作戰ニハ準備ヲ要シ二月末位
トナラン

- (2) 陸軍次官曰ク、廣東方面ニ付テハ曩ニ航空基地獲得計

畫アリ一時實行見合セトナレルカ對外關係竝ニ作戰上
ノ困難アリ將來絶對必要トナラサレハ廣東攻略ハ爲サ
サルヲ可ト考ヘ居リ參謀本部モ同様意見ナリ

海軍次官曰ク、實ハ軍令部及軍務局ノ係官ヨリ廣東攻
略計畫ヲ提出セルカ實行上種々困難アリト思ハル尠ク
トモ五箇師團位ナクハ不十分ナルヘク研究ヲ要スル故
自分モ又軍令部次長モ未タ右ノ案ニ同意ヲ與ヘ居ラス
結局航空基地ヲ作ル位ナラ實行可能ナランカ柴山軍務
課長ハ或ル地點ヲ取ラハ前方ニ進撃セントスルヲ差控
ヘシムルコト困難ナリ計畫以上深ク進ムコトアルヘシ
トノ話モアリ旁々必要アラハ航空基地ヲ作ルコト位ニ
止ムルコト適當ト思考シ居リ漢口方面モ海軍トシテハ
支那側ノ航空兵力ノ回復ヲ阻止スル爲ニハ漢口南昌方
面ヲ攻撃スル必要アリ現在ノ日本ノ飛行機ハ速力遅ク
漢口ニ至リ僅ニ二十五分位ヨリ爆撃シ得又困難アリ現在
ノ南京又ハ蕪湖ヲ基地トスルコトハ不利ニシテ安慶邊
迄占領シ基地ヲ前進セシムル要アリ但シ陸軍ノ大部隊
ヲ以テ漢口迄前進スルハ海軍トシテハ飛行機ニ依ル以
外軍艦ニ依ル共同作戰ハ不可能ト思フ旨述ヘタリ

陸軍次官ハ更ニ此ノ際漢口迄進軍スルコトトナラハ相當強大ナル兵力ヲ要シ兵站線ノ維持モ困難ニシテ實行容易ナラスト思フ旨述ヘタリ海軍次官ハ兎モ角本日參謀本部及軍令部ノ各第一部長ノ間ニ廣東、漢口方面作戰ニ付協議スル筈ナルカ海軍トシテハ先ツ航空基地ノ問題ヲ中心トシテ研究シ度シト思フ旨述ヘタリ

尙海軍次官ヨリ陸軍次官ニ向ヒ陸軍側ニテハ日蘇衝突ノ可能性ヲ考ヘ居ル次第ナリヤ若シ然リトセハ此際支那ノ爲人的及物的資源ヲ極度ニ使用スルコトハ危險ナラスヤト問ヒタル處陸軍次官ハ日蘇ハ早晚衝突アリ得ルモノト考ヘ置カサルヘカラス故ニ此際國防力ニ余裕ヲ殘スコトハ必要ナリト述ヘタリ

次ニ陸軍次官ヨリ今朝閣議ニテ内務大臣ハ此ノ際積極的ニ新作戰行動ヲ起ス要アリト述ヘ拓相又同様ナル意見ヲ述ヘタルカ陸軍大臣ハ實行困難ナルヲ述ヘ結局未解決ニ終レリ尙ホ其ノ際内相ハ必要アラバ兵員ヲ召集シ大軍ヲ編成シテ送レト言ハレシモ陸軍大臣ハ兵ハ召集シテ二三箇月訓練スレハ可ナランモ士官ノ養成ハ急ノ間ニ合ハス裝備モ充分ヲ期シ難シト思フ旨説明セル

趣ナルカ此ノ種問題ヲ閣議ニテ論議スルハ適當ナラス
四相間ニテ先ツ話合フヘキモノト思考シ居レル旨述ヘ
タリ

第三、今後ノ外交工作

堀内次官ヨリ今日ノ事態トナリテハ時局收拾ノ爲ノ外交工作ハ頗ル困難ナリ殊ニ政府ニ於テ去ル十六日爾今國民政府ヲ相手ニセストノ聲明ヲ發シタル關係モアリ同政府トノ和平交渉ハ爲シ得サルコトトナレル故一層困難トナリタルカ今後英米ヲ利用シテ何等カ國民政府ニ「インフルーエンス」ヲ及ホサシメ得ルニ於テハ或ハ時局收拾ニ付何等カノ端緒ヲ見出シ得ルヤモ圖ラレス此ノ點ニ付過日松方幸次郎氏カ米國務次官「ウエルズ」ニ會見ノ際米國側カ日支和平問題ニ斡旋ノ意向ナキヤヲ質シタル處日本側カラ正式申出ナキ限りハ自發的ニ發動シ得サルコト九國條約關係ノ問題ヲ先ツ處理スルノ要アルコト日本側ノ和平條件カ極メテ茫漠タルコト等ヲ述ヘタル趣ナルカ齋藤大使ヨリハ日支兩國ノ和平ニ付相當ノ見込付カサル限り米國ハ斡旋ニ乗出ササルヘシト觀測シ居レル旨申越シ又英國ニ於テハ「チェンバレン」首相ノ側近者タル

「ロード・ティレル」及「サー・ホレス・ウイルソン」等ニ於テ日英關係ノ改善ニ付吉田大使ニ種々意見ヲ述ヘ居レルカ門戸開放、領土の野心ノ否認、歐米資本ノ歡迎等ノ外務大臣議會演說中ノ諸點ヲ大臣ヨリ更ニ英國首相ニ「メッセーヂ」トシテ申出方ヲ「サヂェスト」シ來レル經緯モアリ多少日英關係ニ付英國側ニ於テモ展開ノ空氣ナキニ非サルヲ以テ今後英米ヲ利用スルヤウ工夫スルノ必要アリト考ヘ居レリ但シ一方國內ニ英米等ノ干與ヲ欲セサル空氣アルニ付ヤリ惡キ點アル旨述ヘタル處陸海軍兩次官ハ大局上此ノ時局ヲ成ヘク速ニ收拾スルコト得策ナルニ付英米ヲ利用シ得ル場合ニハ之ヲ利用スルコト可ナルヘシトノ意見ヲ述ヘ居レリ

第四、北支及中支兩政權關係

陸軍次官ヨリ王克敏トノ會談ノ模様ニ付説明(內容北京來電アリ)アリタルカ右ニ關シ堀内次官ヨリ過日在上海陸海軍兩武官上京ノ際現地案ノ説明ヲ聽取シ三省主務官ノ間ニ於テ協議セルカ其ノ際ハ兩政權ノ將來ニ付キ尙ホ意見ノ不一致アリタルモ其ノ後係官ノ間ノ協議ニ依リ妥協案ノ成立ヲ見タリ自分ノ傳聞スル所ニ依レハ松井司令

官ハ北支政權ニ對立スルカ如キ政權ヲ中支ニ於テモ設立シ度キ考ノ模様ナルカ軍ノ幕僚及特務機關ハ必スシモ同様ノ考ニ非サルヤウニ見受ケラルル旨述ヘタル處陸軍次官ヨリ外務省側ニ於テハ大体北支政權ヲ主トスルコトニ反對ナキヤト質問アリタルヲ以テ外務省側トシテモ別ニ反對ナキ旨答ヘ置ケリ要スルニ三次官トモ中支方面ニ相當有力ナル政權ヲ樹立スルコトハ容易ナラサルヘシトノ觀測ニ一致セリ

因ニ堀内次官ヨリ二十九日朝新聞ニ見エタル北支ニ於ケル顧問設置ノ問題ニ付キ質問シタル處陸軍次官ヨリ右ハ先般現地ニ於テ新政權ニ對シテハ滿洲國ニ對スル如ク日系官吏ヤ多數顧問ヲ入ルル遣方ハ不可ナリトシ方面軍ノ顧問ヲ設ケル方針(特務部ノ顧問ニ非ス)ヲ立テ人選中ナリシカ過日陸軍大臣ヨリ外務大臣ノ諒解ヲ求メ既ニ現地ニ在ル大達、阪谷兩氏ノ外前內務次官湯澤氏モ内諾シ平生前文相ニモ交渉中ナルカ昨日陸軍大臣ヨリ總理及外務大臣ニ對シ右ニ內定ノコトヲ話シタル處圖ラスモ新聞ニ出テタル次第ナリトノ説明アリタルヲ以テ堀内次官ヨリ外務省側ニ於テモ在北京參事官及天津總領事ハ大体同格

ノ地位ニ在ルヲ以テ之ヲ總括スル爲何等カノ形ニ於テ高級者ヲ配置スルノ必要ヲ認メ居リ直接新政權トノ交渉ニ當ラシムルノ趣旨ニハ非サルモ軍側トノ連絡ニ便宜ト考ヘ居レル旨話セル處陸軍次官ヨリ右ノ場合ニハ軍ノ顧問ヲ兼ネシムルコトモ一案ナルヘシト答ヘタリ尙外務次官ヨリ上海方面ニモ外務省側ノ高級者派遣ヲ必要ト考ヘ居ル旨述ヘ置ケリ

第五、青島ニ於ケル三省關係機關

陸軍次官ヨリ青島ニ於テハ陸海軍間ニ不一致アルヤウニ聞キ居レルカ右ハ何トカ圓滿ニ取纏メ度キ旨述ヘタル處海軍次官ヨリ現地ニ於テハ在留民間ニ海軍カ將來青島ニ鎮守府又ハ要港部ヲ設置スルノ考アルヤノ風評等アリ陸軍ノ出先ニ何等誤解ヲ生シタルヤウナルカ海軍トシテハ斯様ナ考ハナク結局略々現在數ノ陸戰隊ヲ駐屯セシムルコトトナルヘシト述ヘタル處陸軍次官ハソレハ可ナラン要スルニ青島モ亦北支政權ノ領域ノ一部ナレハ其ノ趣旨ニ於テ經營スレハ宜シカラント述ヘタリ更ニ陸軍次官ヨリ神輦氏ヲ青島方面ノ顧問トスル案ヲ聞キ居レルカ右ハ在留民ノ復興事業ニ關スル顧問トノコトナレハ外務省ノ

囑託トスルコト穩當ナルヘシトノ意見ヲ述ヘタルヲ以テ堀内次官ヨリ陸海外三省ノ囑託トスルコト可ナラント述ヘ置ケリ右ニ關聯シ海軍次官ヨリ上海ニ赴任セル川越顧問モ外務省顧問トスル方宜シカルヘシト述ヘタリ尙堀内次官ヨリ青島入域營業許可權ニ付陸軍特務機關ニ於テ作戰上ノ理由ヨリ別箇ノ許可權ヲ主張シ居ル模様ナルモ總領事カ陸海軍側ト充分聯絡シテ取扱ハ可ナラント述ヘタルニ陸海軍次官トモ別ニ不同意ヲ言ハス

第六、占領地内支那人救恤問題

堀内次官ヨリ上海、南京方面視察者ノ感想ヲ聞クニ各地トモ荒廢甚タシク恰モ關東大震災ノ跡ノ如シトノコトナル處夫等地域ニ復歸スルハ多クハ貧民ニシテ彼等ノ救恤竝復業助成ヲ行フコト緊急ト思ハルルモ現在ノ宣撫班ノ工作ニテハ不十分ト思ハルル旨述ヘタルニ對シ陸軍次官ヨリ北支新政權ニ於テハ災區救濟部ヲ設置シ支那人ヲシテ之ヲ行ハシメ居レルカ右方法適當ト思ハレ尙日本側援助ニ付テモ研究ノ要アリト述ヘ居タリ

尙今後重要問題アル場合ニハ隨時會合スルコトニ申合セタリ

203 昭和13年2月16日

中国での作戦行動の可否をめぐる大本営御前
会議の討議状況について

大本営御前會議ノ件

(昭和一三、二、一八 東亞一)

十六日大本營御前會議開催セラレ

海軍側ヨリ今後空襲ヲ容易ナラシムル爲ニハ尠クトモ揚子江方面ニ於テハ安慶、南支ニ於テハ香港附近ニ飛行基地ヲ獲得スル必要アル旨ヲ述フ

右ニ對シ陸軍側ハ其ノ軍事行動ヲ隴海線方面ニ迄進出セシムル豫定ナルカ(鄭州占領ノ豫定ナルモ徐州ハ直接攻撃セズ作戰ニ依リ支那軍ヲ撤退セシムル考ナル由)安慶占領ハ目下ノ所考慮シ得ス

香港廣東方面ニ陸兵ヲ派遣スルコトモ實行スル考ナシ
陸軍トシテハ對蘇關係ヲ考慮シ餘裕ヲ殘シ置ク必要アル旨ヲ述フ

海軍側ハ之ニ對シ海軍トシテモ英米ニ備フル爲海軍兵力ノ擴張ヲ必要トスル旨述フ

右ニ對シ 陛下ヨリ陸相ニ對シ對蘇及英米ニ對スル備ヘヨ同時ニ實行シ得ルヤトノ御下問アリ

陸軍大臣ハ其ノ點ニ關シテハ閣僚トモ十分相談ノ上奉答申上クヘキ旨言上セリ

右ニテ一應閉會トナリタリ(以上海軍側ノ内話)



204 昭和13年2月28日

事変收拾をめぐる外務・陸軍・海軍三省次官

懇談記録(第二回)

二月二十八日外、陸、海三省次官會談録

(昭和一三、三、二 亞一)

二月二十八日外務次官官邸ニ於テ外陸海三省次官會合シ第二回ノ懇談會ヲ開催セリ主ナル事項ニ關スル會談要領左ノ通り

一、日英關係調整問題

○堀内次官 過日總理、外、陸、海四相ノ會議ニ於テ時局收拾ニ關スル意見交換アリタル際外務大臣ヨリ此ノ際若シ日英關係ノ好轉ヲ圖リ英國ヲ利用スルコト得策ナリト

ノコトナラハ其ノ方法ナキニシモ非スト思考ス又一方蘇聯トノ衝突ヲ避クルコト得策トノコトナラハ日蘇關係調整ノ途モナキニ非スト思考ス要スルニ軍事當局ニ於テモ右様ノ方針ニ出ツルコト適當ナリトノ意見ヲ纏メラルルコトヲ希望スト述ヘタル結果陸軍大臣ニ於テ陸軍部内ノ意見ヲ纏メ其ノ結果ニ付更ニ話合フコトトナリタルヤニ承知シ居レリ

○梅津次官 陸軍大臣ヨリ大体右様ノ話ヲ聽キタルカ其ノ後未タ十分協議ヲ行フ迄ニ至ラス

○堀内次官 此ノ際直ニ武力ヲ以テ國民政府ヲ潰滅セシムルコト困難ニシテ且中支政權樹立問題モ餘リ多クノ期待ヲ繋キ得ストスレハ結局支那側カ最モ頼ミトシ居レル英國トノ關係ヲ能フ限り好轉セシメ以テ之ヲ日本ノ味方トシ國民政府ニ對シ背後ヨリノ壓迫ヲ感セシムルコトノ外當面ノ方策ナシト考フ

○梅津次官 蘇聯ニ對シ我方ヨリ仕懸クル考ナキコトハ勿論ナルカ英國ニ就テモ大体同感ナリ最初英國ハ支那側ノ背後ニ在テ相當援助ヲ與ヘ武器ノ供給ヲナシ又財政的援助ヲ與ヘ居レル様想像セラレ日本側ニ對スル好意ヲ期待

シ得スト考ヘラレタルヲ以テ之ヲ日支間ノ媾和ニ利用スルハ面白カラスト思ヒ獨逸ノ斡旋ヲ希望シタル次第ナルカ其ノ後獨逸ノ斡旋モ不成功ニ終リ再ヒ之ヲ利用スルコト困難ト思ハルルノミナラス英國側ノ對支援助モ想像サレタル程ニ非サルコト明カトナレルヲ以テ今日トナリテハ陸軍部内ニ於テモ英國利用ニハ格別反對モナカルヘシト思フ此ノ點海軍側ノ意向ハ如何

○山本次官 海軍側ニテハ日英關係ヲ好轉セシメ之ヲ利用スル方策ニハ勿論異議ナシ

○堀内次官 過日參謀本部第二部長本間少將及影佐支那課長其ノ他數人谷公使ト懇談ノ際英國利用ノ必要ヲ説キ上海赴任ノ同公使ニ盡力方ヲ希望セル由聞及ヘリ又過日自分カ貴族院研究會ニ於テ時局對策調査委員會ニ出席シ外交方針ノ説明ヲナセル際座長兒玉伯其ノ他一二ノ人々ヨリ時局收拾ノ爲英國利用ノ必要ヲ力説セリ

○梅津次官 最近英國側トノ間ニ何等話合アリタルヤ

○堀内次官 二月二十五日石井子爵「カドーガン」次官ト會談シタル際日支媾和問題ニ言及シタルカ「カ」ハ日支兩國ヨリ依頼ナクンハ斡旋ノ勞ヲ取ル譯ニ行カス又英國

單獨ニテハ他國ノ疑惑ヲ受クル惧アル故米國ト共同ニ非サレハ斡旋シ得スト述ヘタルヲ以テ石井子爵ハ日本ハ曩ニ獨逸ニ斡旋ニ依リ媾和條件ヲ提示シタルニ拘ラス支那側ノ拒絕ニ逢ヒタル行懸リモアリ今更他國ニ斡旋ヲ依頼シ得ス故ニ先ツ英國側ヨリ支那側ヲ説得スルコトヲ希望ス夫ニハ自分トシテ英米兩國共同ニテモ差支ナシト思フ旨述ヘタルニ「カ」ハ英國トシテハ進テ支那ヲ説得スルコトヲ得ス若シ日本側カ曩ニ聲明シタル平和條件ヲ幾ラカニテモ緩和スルト云フ内意ヲ支那ニ通セシメントノコトナラハ英國政府ハ其ノ取次ヲナシ得ルト思考スト述ヘタルヲ以テ石井子爵ヨリ夫ニハ未タ時機ニ非サル次第説明セル由報告アリタリ

日英關係調整ノ爲ニハ

第一ニ不祥事件ノ發生ヲ避クルコト必要ナルハ勿論ナルカ

第二ニハ支那ノ海關問題其ノ他英國ノ重大關心ヲ有スル懸案ヲ能フ限リ公正ニ解決スルコト必要ナリ海關問題ニ付テハ上海ニ於ケル交渉餘リ進捗セサルヲ以テ過日東京ニ於テ自分ト「クレイギー」大使トノ間ニ懇談シ多少意

見一致ノ見込付キツツアリ更ニ英國側ヨリ一九三一年ノ稅率ヲ此ノ際支那全國ニ適用スヘキコトニ付申出ノ次第アリタリ(英國申出ニ付説明セリ)

第三ニハ北支及中支ノ經濟開發ニ英國側ノ資本ヲ誘導シ且或ル程度ノ企業參加ヲ認ムルコト必要ナリ最近平生氏カ開灑炭鑛代表「ネーサン」氏ニ對シ三百萬噸増産ノ爲約八百萬圓ノ増資ヲ勸告シ目下話合ヲ行ヒツツアル旨平生氏ヨリ内聞セリ若シ英資誘致ニ付此ノ種具體的事例カ出來レハ今後英國ノミナラス米國ノ資本ヲモ誘致スル氣運トナルヘシ併シ其ノ爲ニハ出先ニ於テモ右ノ方針ニテ進ム要アリ然ルニモ拘ラス往々張家口ニ於ケル羊毛買付等ノ場合ニ於ケル如ク邦人企業獨占ノ傾向見ユルニ付先ヲ適當ニ指導スル必要アリ

第四ニハ極力國內輿論指導ノ必要アリ最近中央ニ於テハ反英運動下火トナレルカ地方ニ於テハ今尙相當強烈ナリ過日加藤總領事カ大阪ニ於テ講演ヲ行ヒタル際日英親善ノ要ニ言及シタル處講演後大阪府知事及府警察部長ヨリ右ハ個人ノ意見ナリヤ又ハ外務省ノ方針ナリヤト質問シ實ハ内務省ヨリハ反英運動ノ取締ニ付暴行ニ涉ラサル限

リ之ヲ放任シ然ルヘシトノ訓令アル旨述ヘタル趣ナリ對
 内宣傳方針モ此ノ際適當指導ヲナスノ必要アリ又日英關
 係調整ノ趣旨ハ出先ニ徹底セシムルノ必要アリ就テハ此
 ノ際先ツ三省主任官ノ間ニ方針ノ要綱ヲ作成シ四大臣ノ
 決裁ヲ仰キ出先ニ之ヲ徹底セシムルコトトシ度
 (右ニ對シ梅津、山本兩次官ヨリ贊意ヲ表セリ)
 三、新政府指導問題

○梅津次官 軍務課長ヨリ自分ノ手許ヘ提出アリタルモノ
 ニシテ公式ノモノニハ非サルカ北支新政府指導ハ北支方
 面軍司令官之ニ當ルトノ趣旨ノ覺書アリ(右案ニ付説明
 ス)右趣旨ニ御異存アリヤ

○山本次官 海軍トシテハ未タ右ニ同意シ得ス新政府ノ指
 導ハ中央ニ於テ三省間ニ協議決定ノ上出先ヲ指導スヘキ
 モノト考ヘ居レリ

○梅津次官 (覺書ヲ引込ム)實ハ青島ニ於テハ今尙陸海軍
 雙方相對立シ困リタル事態ナリ要スルニ山東方面モ新政
 府ノ支配下ニアルモノトノ見方ニハ外海兩省ニ於テ別ニ
 異議ナカルヘシ軍司令官カ新政府ヲ通シテ青島其ノ他ノ
 地方政權ニ必要ナル指導ヲ與フルコトトスレハ宜シカル

ヘシ

○堀内次官 總領事ハ從前通り職務ヲ行ヘハ可ナリト思フ
 ○山本次官 要スルニ中央ニ於テ決定シタル方針ニ從ヒ出
 先カ夫々ノ職權ヲ行フコトトスレハ宜シ今尙對立アルハ
 甚タ遺憾ナリ實ハ出先ノ海軍ニ於テハ青島ヲ軍港又ハ少
 クトモ要港ニシ度キ考ニテ種々措置ヲ採リタル模様ナル
 カ右ハ海軍中央ノ考ニハ非ス海軍ニ於テ市政府ノ建物ヲ
 占據シ居レルハ不可ナレハ之ハ支那側ニ返還スヘキモノ
 ト考フ郵便局ノ問題ハ既ニ解決シタル筈ナリ

○梅津次官 現在ハ陸海軍警備區域重複スル爲問題生シ居
 レリ元來陸海軍トモ兵力多キニ過ク海軍側ハ港務局ニ二
 三十人モ置クコトトスレハ宜シク陸軍モ一箇中隊乃至一
 箇大隊位トシ殘餘ハ他方面ニ移駐スル方然ルヘシ

○山本次官 出先ニ於テ親補官カ數名モ居リ乍ラ斯カル問
 題ヲ解決シ得ス一々中央ニ請訓スルハ面白カラス必要ナ
 ラハ人ヲ更ヘテモ差支ナシト思フ

三、北支顧問制ノ問題

○堀内次官 平生氏カ愈々最高經濟顧問ヲ引受ケタル模様
 ナルカ寧ロ經濟協議會ノ委員ヲ本務トシ方面軍顧問ヲ兼

ネシムルヤウ方法立タサルヤ

- 梅津次官 實ハ平生氏ノ希望モアリ政府派遣ノ形ナキヤト種々研究シ見タルカ名案ナク結局親任官待遇ノ陸軍省囑託(北支方面軍顧問)トシ經濟協議會ノ副會長トスルコトトナレリ日本側ノ意見ヲ纏ムル爲メ別ニ經濟委員會ヲ設ケ現地ノ各省關係各機關ヲ凡テ網羅シ成ヘク批判的立場ニ立ツモノナキ様シ度シトノ平生顧問ノ希望モアリ右様取計フコトトセルニ付外務省ヨリハ參事官、海軍ヨリハ須賀補佐官ヲ參加セシメラレ度シ

- 堀内次官 外務省ヨリ參事官ヲ參加セシムルコト差支ナキモ方面軍ニ專任顧問ヲ置ク方然ルヘシト考慮中ナリ

- 梅津次官 ソレニテモ結構ナリ現地ニ於テハ寧ロソレヲ希望シ居レリト思フ尙平生氏ハ此ノ際北支經濟問題ニ付中央ニ機關ナキ方敢テ宜シカルヘシト述ヘ居レリ

205 昭和13年3月1日

在上海田尻(愛義)大使館一等書記官より
上村東亜局第一課長宛

華中新政府樹立工作の進捗状況について

拜啓愈々御清榮奉賀陳者當方面新政府樹立ノ件ニ關シテハ小生過般上京ノ際迄ノ經緯ニ付テハ大体報告致置キタル筈ニテ上京ニ際シ清水書記官ニ傳言シ松室少將ト共ニ地均工作ヲ爲ス様軍部ノ諒解ヲ得サシメタルカ小生上京後ノ工作ハ大体右「ライン」ニテ進メラレ結局唐紹儀ハ出馬セサルモ唐ノ乾分タル溫宗堯一派、梁鴻志一派及陳群一派ニ於テ夫々新政權樹立ニ參劃シ度希望ヲ表示シ來リ小生歸滬シタル當時ハ之等三派カ相提携スルモノナリヤ否ヤカ殘サレタル問題ナリシ處右ノ點ハ主トシテ李擇一二於テ擔當斡旋シタル結果夫モ可能ナルコト判明シタルヲ以テ松井將軍離滬ニ先チ右三名打揃ヒテ將軍ニ挨拶ヲ爲ス迄ニ進展シ爾來十七日ヨリ白田機關ニ於テ右三名ヲ中心トシテ協議ヲ重ネ別紙政府組織大綱、政府成立宣言及外交部談話、竝ニ職員ノ振當一應決定ヲ見明ニ日ニハ政綱ヲ審議スル所迄漕キツケタル次第ニ候

右ノ中政府組織大綱ハ左シテ問題ナカルヘキモ宣言ハ「トーン」低ク尙修正ヲ欲スル個所ナキニ非ス談話ハ當方ノ起案セルモノ政綱ハ支那側ヨリ持チ出シタルママニテ之亦訂正ヲ要スルモノト考ヘ居リ其等ノ點ハ陸海軍係官五日本省

ニ出頭シ詳細ノ經緯ト共ニ説明スル筈ナルカ尙當方ヨリモ重要ナル點ハ電報シ度考居リ右御含ミ相煩シ度別紙中日本語ノ政。綱ハ本年一月頃王子惠力主トナリ起案シタルモノニシテ支那ノ分ハ之ヲ參考トシツクリタル筈ニ候

此際新政府ヲ樹立スルコトニ付テハ本省ニ於テモ御異存ナキコトト存シ當方ヨリハ係官トシテ何人モ上京セサル譯ナルカ別電ニテ御承知ノ如ク參事官ノ上京許可アラハ四日頃ノ飛行機ニテ楠本等ノ後ヲ追カケ參加スル形式トスルモ可然カト存居候

政治工作ノ裏面ニハ最近又々白田、長、ノ活動アリ殊ニ白田ハ熱情漢ニテ松井將軍ヲ送ル際將軍在滬中ニ政府ヲ出カササリシハ自分ノ不徳ナリトテ涙ヲボロボロ出シテ居タ程ナルカ其ノ後モ右様私的感情モアリテ將軍參内ノ日迄ニ一切ノ準備ヲ整ヘ發表スヘシトイキマキ之カ爲ニ亦又王子惠ヲ利用シタルコト從來ノ腐レ縁トニ依リ王ヲ部長ニ据エルニ至レルハ遺憾至極ナルカ右對策ハ楠本ヨリ話スヘキカ大體ハ東京ノ意向トシテ王反對ヲ表明シ更ニ陳情ノ爲白田カ上京シタ上愈々駄目タカラ時期ヲ俟ツヘシトイフコトニシテ王ヲ引込マシメル話合ツキ居リ白田ハ右手續ヲフルナラ

ハ王ヲ引込マス自信アリト申居ル由ニ付其ノ御含ミニテ三省協調シ工作ヲ爲サレル様致度尙王ニ關シテハ沖野ヨリ説明スル筈ナリ

政府ノ所在地ハ支那人ハ南京ヲ欲スルモ白田等ヲ除キテハ何レノ方面モ上海ヲ主張シ南京行ハ時期ヲ見タ上ノコトトシ度意向ナリ場所ハ不取敢「シヴィック、センター」市圖書館ヲ修理シ十五日頃ニハ使用出來ルニ至ル見込ナリ尙話カ前後シタルモ王ハ「テロ」ニ關係アリ支那要人ハ之ヲ虞レ王ノ出馬ヲ嫌ヒ乍ラモ口ニシ得又狀況ト認メラレ候

政府成立ヲ急ク事情ハ大体電ニ依リ御賢察相成居ル通ナルカ四圍ノ情勢ヨリ判斷スルニ英國ハ今ヤ蔣介石ト心中スル意向ナキモ上海ニ於テ日本ト一所ニナル譯ニモ參ラス當方面ニ新政府ノ出現ヲ俟チ居ルニアラスヤ少クトモ新政權出來レハ轉向スル可能性ヲ與ヘラルルモノト觀測シ居ル譯ニテ尙英國ヲ今後如何ニ利用スヘキヤニ付テハ伊藤公使ヨリ既ニ意見ノ上申アリシコトト存居リ小生等モ同感ニ御座候右電報補足旁々走り書シタ譯ナレト未タ意ヲツクササル點モアルヘク大体之ヲ基礎トセラレ陸海軍係官ヨリ適當ニ話ヲ引出サル様致度 亂筆多謝

三月一日

上村課長殿

田尻 愛義

206 昭和13年3月23日

在上海日高総領事より
広田外務大臣宛(電報)

和平条件に関する蔣政権の意向を伊国大使内
報について

上海 3月23日発

本省 着

第九六四號

谷公使ヨリ

伊国大使トハ本使着任以來屢々會談ノ機會アリタルカ其ノ
都度同大使ハ過般我方ヨリ獨逸側ヲ介シ提示ノ諸條件ニ對
スル漢口側ノ意嚮(同地駐在伊參事官ヨリ汪兆銘、孔祥熙
等ト接觸シテ得タル情報)ヲ報告シ廿二日右參事官ト更ニ
往復ノ結果確報トシテ本使ニ語ル所左ノ通り

(右ハ第一回ノ報告(九日)ノ際漢口側ニ賠償金支拂及北支
ノ特殊制度ニ異議アリシニ比シ急激ノ讓歩ヲ示シ居レリ)

即チ漢口側ハ左ニ異議ナシ

一、滿洲國ノ無條件承認

二、内蒙ヲ内蒙類似ノ自治地域トスルコト

三、北支ハ支那文化發祥ノ地ナルヲ以テ之カ主權ノ拋棄ハ絶

對ニ承服シ得サルモ支那主權ノ下ニ行政的自治ヲ與フル

形式ニ付協議シ度シ

四、防共協定

五、中支ニ非武装地帶等ノ特殊制度

六、經濟提携

七、賠償但シ額ハ協議シ度シ

トノ意嚮ニテ過日本使ヨリ聞キタル現在ノ漢口政府其ノ儘
ニテハ交渉不可能ノ點ハ日本側トノ交渉纏マレハ直ニ共產
分子ヲ排撃ノ用意アリト述ヘタルニ付

本使ハ過日來屢次ノ情報ヲ感謝スルト共ニ其ノ間大使ヨリ
時々調停云々ノ言葉アリタルニ言及シ此ノ際率直ニ御尋ネ
スル次第ナルカ過日來ノ情報ハ全ク貴大使ノ御好意ニ基ク
モノニシテ本件斡旋方帝國政府ヨリ御願ヒシタル譯ニアラ
スト了解ス

尙調停ノ如キハ獨逸ニモ依頼シタルコトナク又仄聞スル所

ニ依レハ支那側モ直接交渉ヲ欲シ居ル趣ナリト告ケタルニ
 大使ハ自分等ハ自發的ニ行動シ居ル次第ナリト答ヘタリ依
 テ本使ヨリ一月十六日帝國政府ノ聲明以後ハ今次ノ時局收
 拾ニ當リ漢口政府ノ根本的改組ノ必要以外新政權トノ關係
 ヲ如何ニスヘキヤノ問題アリ政府ノ改組ニ付テハ苟モ我條
 件中防共協定ニ應スル以上共產分子トノ決裂ハ事理ノ當然
 ニシテ寧口先決問題ナリ又斯ル際蔣カ責任ヲ取ツテ下野ス
 ヘキハ支那ノ慣習ニモ副フ所以ナリ新政權トノ妥協問題ニ
 至ツテハ汪兆銘ト王克敏トハ親友ノ間柄ニモアリ支那人同
 志ノ妥協ハ屢我々外國人ノ意表ニ出ツルモノアリト述ヘタ
 ルニ大使ハ右帝國政府ノ聲明ニ鑑ミ漢口政府ニ何等カノ變
 化ナカルヘカラストハ自分モ豫テ考ヘ居タル所ナリト語レ
 リ
 尙右會談中大使ハ漢口政府カ頗ル動搖シ居ル旨ヲ語り平和
 克復ノ曉伊國カ支那ニ於ケル經濟活動ヨリ疎外サルコト
 ナキヤヲ憂フルカ如キ口吻アリタルヲ以テ本使ヨリ其ノ憂
 ナキコト竝ニ北支ニ於テハ既ニ伊國ノ參加ニ付種々考慮セ
 ラレ居ル旨ヲ告ケ置キタリ

207

昭和13年3月24日 閣議決定

「北支及中支政權關係調整要領」

附記一 昭和十三年三月二十二日、東亜局第一課作成

「中支政權成立問題経緯」

二 昭和十三年三月二十二日、東亜局第一課作成

「中、北支政權問題及稅率問題等ニ關シ喜多
 少將ノ談話要領」

北支及中支政權關係調整要領

昭和二三、三二四 閣議決定

第一方 針

中支新政權ハ一地方政權トシテ之ヲ成立セシメ中華民國臨
 時政府ヲ中央政府トシテ成ルヘク速カニ之ニ合併統一セシ
 ム

第二要 領

一、中支新政權ハ其成立宣言ニ所要ノ修正(北支及中支兩政
 權當事者ノ協議セルモノニ據ル)ヲ行ヒ之ヲ成立セシム
 二、中支新政權ハ成ルヘク速カニ之ヲ中華民國臨時政府ニ合
 併統一セシム

是力爲中支新政權機構組織ハ前項ノ合併統一ニ支障ヲ來ササル様具現セシメ又中支ニ於ケル海關、統稅局、鹽務局(共ニ主要人事ヲ含ム)等ニ對スル措置ハ合併前ニ於テモ地方的情勢ヲ考慮ノ上中華民國臨時政府ノ統制ノ下ニ之ヲ行ハシム

三、兩政權合併ノ爲速カニ双方ノ支那側代表ヲ集メ協議會ヲ開カシム

四、軍事、外交、財政、金融、經濟、交通、通信、郵務、文化及思想對策等ニ關シテハ北支、中支間ニ矛盾ナカラシムル様指導ス

北支及中支政權關係調整要領ニ關スル諒解事項

- 一、第一方針中ニ所謂中華民國臨時政府ヲ中央政府トストノ趣旨ハ支那ニ於ケル各地政權指導上ノ原則トシテ規定セルモノニシテ帝國力之ヲ支那ノ中央政府トシテ承認スル問題ニ關シテハ別個ノ考慮ニ依リ決定スヘキモノトス
- 二、第一要領ノ三、前段北支臨時政府ニ合併統一ノ場合ニ於ケル首都ノ選定ハ專ラ支那側ノ考慮ニ委スルモノトス
- 三、中支ノ通貨及金融ニ付テハ北支ト統一ノ二處置スヘキコ

トヲ根本方針トスルモ之ヲ直チニ實行スルコトハ中支金融ノ複雜性ニ顧ミ今後充分ニ實情ヲ見究メタル上適當ノ時期ニ於テ行フモノトス

從ツテ例ヘハ中國聯合準備銀行券ヲ中支ニ流通セシムヘキヤ或ハ先以テ中支ニ於ケル通貨ヲ整理シ然後北支及中支ノ通貨政策ノ調整ヲ圖ルヤ等ノ問題ハ今後充分考究ノ上之ヲ決定スルモノトス

(付記一)

中支政權成立問題經緯

(昭和三、三、三 東亞一)

- 一、中支政權成立ニ關聯シ北支政權側ニ重大異論ノ生シタルコトハ外務來電ノ通りナルカ三月十八日別紙第一號ノ通リ北支政權側ヨリ妥協案ノ提示アリ(斡旋調停ノ爲曩ニ北京特務部根本大佐赴滬シ更ニ上海特務部楠本大佐中支政權代表任援道同伴北京ニ飛行シ他方上海特務部長原田少將及上海海軍特務部藤田大佐田尻中佐中央ト打合セノ爲十八日來京シ十九日ニハ北京特務部長喜多少將亦來京シ越エテ二十日北京特務部吉野中佐其ノ後ノ情勢報告ノ

爲來京セリ東京ニ於テハ十九日夜外務次官々邸ニ於テ陸海外三省間ニ意見交換アリタル外二十日ニハ午前十時ヨリ午后二時半迄、又二十一日ニハ午后三時ヨリ六時半迄夫々東亞局長室ニ於テ三省協議會ヲ行ヒタリ)

二、前記、未段妥協案ニ對スル現地ノ意嚮ハ別紙第二號ノ通りニテ東京ニ於テハ主トシテ上海ヨリ來京ノ陸海武官協議ノ上中支政權ノ聲明中ニ記載スヘキ「中華民國臨時政府ニ合流スヘシ」トアルヲ「臨時政府ト合流スヘシ」ト訂正ノ上妥協方可然トノ意見ヲ原田少將ヨリ北京特務部宛電報シ大體右ラインニテ解決シ得ヘシト考ヘ居タリ

三、然ルニ喜多少將來京シ北支側ノ意嚮及北支中支間話合ノ事情ヲ述ヘ結局現状ニ於テ中支政權カ北支政權ヲ凌キ中央政府タルノ内容實質ヲ具備スルニ至ルヘシトハ考ヘラレス北支政權カ必然中央政權トナルヘキモノナルニヨリ此ノ際明カニ北支政權ヲ中央政權トスルノ原則ヲ立テ置キ今後共今回ノ如キ紛爭ヲ避クルコトトシ度ク現ニ中支政權ノ首腦者タル梁鴻志ノ如キモ初メヨリ北支政權ニ對立スル考ヘナク政權成立スルモ自らハ行政院長代理ニ就任シ何時ニテモ大物カ行政院長ノ職ニ就キ得ル様考慮シ

居ル次第ナルニモ鑑ミ此ノ際ハツキリ「臨時政府ニ合流スル」ノ趣旨ヲ明確ニシ置ク要アリトノ意見ヲ開陳シ陸軍中央ニ於テモ右意見ヲ是認シ外海側ノ諒解取付ケノ態度ニ出テ來レリ

四、前記趣旨ニ則リ二十日早朝原田、喜多、兩特務部長間ニ於テ別紙第六號ノ覺ヲ協定スルコトトナリタル趣ニテ二十日ノ三省協議會ノ席上陸軍側ヨリ右覺ハ固ヨリ陸軍以外ニ披露スヘキ種類ノモノニ非サルカ外海側ニ隱シ立テスルモ面白カラスト存シ御見セスル次第ナリトテ披露アリ右ニ付討議シタルカ結局斯ノ如キ紛爭生シタル原因ハ日本側カ北支中支双方ニ連絡ナク働キカケ若クハ別々ニ強キ指導ノ態度ヲ取りタル爲ニシテ北支中支兩政權ノ支那人間タケニ委七置ケハ必スヤ總テノ話合ハ圓滿ニ進行スヘキモノナルニ依リ今後ハ日本側カ餘リ出過キタル干渉ノ態度ニ出ツルコトヲ避クルコト最モ肝要ナリトノ趣旨ニ大體意見ノ一致ヲ見其ノ結果三省係官文ノ申合せトシテ別紙第七號ノ通りノ覺ヲ作成セリ(陸軍側ハ右覺ヲ正式ニ確認スルノ態度ヲ避ケ居タリ)

五、二十一日三省會議ノ席上陸軍ヨリ別紙第八號電報ノ披露

アリ大體北支政權側ト中支代表トノ間ニ話合成立シ右話合ノ趣旨ニ依リ速ニ中支側ニ於テ聲明案ヲ作成シ右聲明案ヲ北支側ニ内示シ其ノ承諾ヲ得タル上ハ直ニ中支政權ノ成立式ヲ舉行シ右聲明ヲ發表スヘク成立後直チニ梁鴻志以下北京ニ急行ノ上必要ナル協議ヲ行フコトトナレル旨披露アリ

事情右ノ通りトナリタルニ依リ此ノ際我方ノ指導ニ關スル腹案ヲモ確立シ置ク必要アリ三省間ニ取極メ置キタキ旨提案シ討議ノ結果別紙第九號ノ通り一應話合ヲ纏メタリ尙兩特務部長間ニ於テハ二十日披露ノ覺ヲ別紙第十號ノ通り修正スルコトトナリタル旨説明アリ外海兩省側ハ兩特務部長間ノ覺ハ公式ニハ取上ケサルモ第九號ノ通り三省間ノ話合纏リタル上ハ兩特務部長間ノ覺モ右修正ノ趣旨ニ依リ再修正方可然旨述ヘ陸軍側之ニ同意セリ

六、右別紙第九號作成ノ際ハ海軍軍務局第一課長病氣缺席ノ爲メ軍務局藤井中佐出席シタルモノナルカ二十二日朝ニ至リ海軍側ニ於テハ別紙第九號北支政權ヲ中央政府トスルコトヲ明確ニ此ノ際決定スルコト自身ニ異議アリ從ツテ右第九號ノ申合セハ其儘承認スルヲ得ストノ態度ヲ表

明シ來レルニ依リ中支政權成立問題ト本件三省間指導方針取極問題トヲ切離シ中支政權ハ別紙第八號中北支支那人間ノ話合ノ趣旨ニ依リ速カニ成立セシムルト共ニ他方此等政權指導ニ關スル三省側ノ意見取纏メハ別ニ出來ル丈ケ速カニ實現スル様努力スル方針ニ大體ノ話合ヲ付ケタリ

(別紙第一號)

甲方特電第七一六號(三一、一八后六、四〇發)

次官、次長宛

甲集團特務部長

一、昨夜王克敏ノ語リタル所ニ依レハ議政委員會ニ於テ研究ノ結果左記三方法ノ何レカニ依リ上海新政權ト妥協致シ度希望ナリト

1、臨時政府ヲ改組シテ正式政府トナシ總統ヲ推舉シ役員ヲ發表スルコト(註、本方法ハ恰モ英國ニ於ケル「アイランド」ノ方法ニ依ルモノナリト)

2、臨時政府行政委員會ノ蘇皖浙行政分會ヲ設立シ其中ノ重要人物ハ臨時政府委員ニ加入セシムルコト

3、政府宣言中ニ全國ハ二個ノ政府ヲ有スル能ハス現在ノ

時勢上已ムヲ得ス〇〇政府ヲ設立セルモ將來必ス臨時政府ニ合流スヘキコト及將來中央政府カ當然處理スヘキ政務ハ即チ臨時政府便宜ニ議スヘキコトヲ確實ニ聲明スルコト(但シ該宣言ハ折衝妥協ノ後ニ發表スルコト)

二、因テ當方ヨリハ右第一ノ方法ハ現在ノ事態ヲ直ニ解決スヘキ方法ニアラサルヲ以テ論議ノ餘地ナシ

第二ノ方法ハ其ノ名稱ニ於テ上海方面ノ立場上到底實現困難ナルヘキ事ニテ結局第三ノ方法ニ依リ妥協ノ道ヲ發見スルヨリ外ナカルヘキヲ説明シ置ケリ

三、而シテ王克敏ハ第三ノ方法中二個ノ政府云々ノ文句ヲモ採用セラレサル場合ハ事態力之カ超惡化セサル以前ニ潔ク地位ヲ讓ルヘキ決心ナリト語り此點決シテ何等ノ對立の意志ナキヲ以テ誤解ナキ様願ヒ度旨附言シ置ケリ、尙詳細ハ喜多少將上京ノ上説明スヘキモ右取敢ヘス(終)

(別紙第二號)

至急親展 昭和一三、三、二〇

祕電報 三、一九後四、五五發七、〇五著

甲方特電第七二八號

次官、次長宛

甲集團特務部長

原田少將へ 楠本大佐ヨリ

軍務電第三二九號敬承

當方ニ於テモ昨十八日夕北京著後直ニ王克敏提案(喜多少將携行)ノ第三案ニ據リ妥協セシムルニ如カスト考ヘ任援道ニ意圖ヲ含メテ臨時政府王以下要人ト商議セシメタル結果(全然日本側ヨリ參加セス)

相互ニ良ク了解シ宣言中ニ兩政府對立スルモノニアラサル趣旨ノ一文ヲ挿入スルコトニ大体一致セリ

詳細甲方特電ニ依ラレ度

尙一、二事ノコトニテ兩者間ニ意見ノ相違ナキニアラサルカ細事ニ拘泥スルコトナク之ニテ手ヲ打タシメル方大局上必要ト認ム速ニ任ヲ歸滬セシメタル上原案通り宣言ニ挿入セシムル心算ナリ又本日ノ會議ニ於テ王ヨリ金融財政、軍事等全般ニ關シ原則的取極メヲ要望シアル所右ハ文書ヲ交換スルカ如キモノニアラス

單ニ將來個々ニ勝手ニ實行セサル趣旨ヲ口頭ニテ明ニシ置ク程度ニテ何等問題トナラス

事實上ハ將來日本側ノ仲介ニ依リ兩者協定セシムルコトヲ

然ルヘシト考ヘアリ

伊集スミ

(終)

(別紙第六號)

覺

一、兩政權ノ合併統一ハ北支臨時政府ヲ中心トシテ至短期間

内(津浦線ノ開通ヲ日途トス)ニ實現ヲ期スルコト

是カ爲中支新政權機構組織ノ具現ハ必要ノ最小限度ニ止

メ勉メテ之ヲ簡素ナラシメ置クコト

二、兩政權合併ノ爲速カニ双方ノ代表ヲ北京ニ集メ協議會ヲ

開カシムルコト

右協議會ニ對シテハ軍部ハ斡旋スル程度ニ止メ之ニ參加

セサルヲ原則トス

三、合併後當然豫想セララル中支新政府ノ名稱及組織等ノ變

更ハ前項協議會ノ決定ニ委スルコト

四、合併前中支新政府カ諸法規ヲ決定スルニ當リテハ勉メテ

範ヲ臨時政府既定ノモノニ採ラシムルコト

五、中支ニ於ケル海關、統稅局(共ニ主要人事ヲ含ム)ニ關シ

テハ合併前ヨリ直ニ臨時政府ノ統制下ニ置クコト

六、軍事、外交、金融、經濟、交通、通信、郵務及思想對策

等ニ關シテハ兩特務部協議ノ上一貫セル方針ニ基キ各々

支那側ヲ指導スルコト

昭和十三年三月 日

寺内部隊特務部長
畑 部隊特務部長

(別紙第七號)

覺

一、兩政權(支那人)間ノ話合ニ委シ速ニ中支政權ノ成立ヲ期

ス

二、兩特務部長間覺書ハ我方ノ腹トシテ取纏メタルモノニシ

テ前記^(一)ノ原則ニ障害ヲ與フルコトナシ但シ前記^(二)ノ原

則ニシテ實行シ得サル事態ニ立チ至リタル場合ニハ右覺

書^(ニ字ヲモ)ノ 旨ニ依リ事態拾收ニ努ムルモノトス

(別紙第八號)

至急親展 一三、三、二一

祕電報 一三、三、二〇、後、五、三〇發七、二五着

方特務電第七四三號

3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

次官、次長宛

甲集團特務部長

喜多少將ニ傳ヘラレ度

上海代表任援道來京シ十八日王克敏以下臨時政府各部長ト任意會見日本側ハ立會セスシ左記事項ヲ協議決定セリ

一、上海方面ノ政府成立ノ際宣言文中ニ左記事項ヲ押入スル

コト「中國ハ二個ノ政府ヲ有スルコトヲ欲セス新機構ノ成質ハ素ヨリ暫定的組織ニシテ蘇、皖、浙三省ヲ以テ範圍トシ臨時政府ト始ヨリ對立的ノ意見ナシ、將來中央ノ所管ニ屬スヘキ一切ノ事項ハ臨時政府ニ協議シテ辦理ス、津浦、隴海兩鐵道ノ交通回復スルヲ待チ臨時政府ニ合流ス

三、臨時政府ト維新政府トノ合流ヲ容易ナラシメ且其繫爭ヲ除去スル爲左記事項ヲ協議決定ス

(一) 國家トシテ統制スヘキ一切ノ事項トハ外交、軍事、財政、幣制、法律、交通、人事トス

(二) 外交軍事ニ關シテハ追テ協議ス

三、財政關係事項ハ左ノ如クス
(イ) 關稅、鹽稅、統稅ノ稅率及徵稅方法ヲ劃一ナラシム
(ロ) 國家ノ收入支出ハ皆國家ノ銀行ヲシテ取扱ハシム即チ

國庫業務ハ中國聯合準備銀行^(備考)ヲシテ行ハシムルヲ本則トシテ逐次指導ス

(ハ) 國稅ノ收入ハ臨時、維新兩政府相互ニ通報シ其ノ業務ニ關シテハ臨時政府ニ於テ定ムル處ヲ通要ス、又國稅ノ分配使用ニ關シテハ追テ協議ス

(ニ) 幣制ノ統一ノ國家銀行ハ唯一トシテ中國聯合準備銀行ヲ以テ之ニ當ツ

(ホ) 法令ハ重複ヲ避クル爲臨時政府ト商議決定ノ上之ヲ發布シ且臨時政府ノ既ニ發令セシモノト牴觸セサルモノトス

右ニ關シ楠本大佐ハ原則トシテ異議ナシ詳細ハ本二十日出發上京セシ吉野中佐ヨリ聞カレ度(終)

(別紙第九號)

北支及中支政權關係調整要領

昭和二三、三三省事務當局內定

第一方針

中支新政權ハ一地方政權トシテ成立スルコトトナリタルニ依リ中華民國臨時政府ヲ中央政府トシテ成ルヘク速カニ之

二合併統一セシム

第二要領

- 一、中支新政權ハ其成立宣言ニ所要ノ修正(北支及中支兩政權當事者ノ協議セルモノニ據ル)ヲ行ヒ之ヲ成立セシム
 - 二、中支新政權ハ成ルヘク速カニ之ヲ北支臨時政府ニ合併統一セシム
 - 一セシム
- 是カ爲中支新政權機構組織ハ前項ノ合併統一ニ支障ヲ來ササル様具現セシメ又中支ニ於ケル海關、統稅局、鹽務局(共ニ主要人事ヲ含ム)等ニ對スル措置ハ合併前ニ於テモ臨時政府統制ノ下ニ之ヲ行ハシム
- 三、兩政權合併ノ爲速カニ双方ノ支那側代表ヲ集メ協議會ヲ開カシム
 - 四、軍事、外交、財政、金融、經濟、交通、通信、郵務及思想對策等ニ關シテハ北支、中支間ニ矛盾ナカラシムル様指導ス

北支及中支政權關係調整要領ニ關スル諒解事項

(三三、三三、三三)

- 一、第一、方針中ニ所謂中華民國臨時政府ヲ中央政府トスト

ノ趣旨ハ支那ニ於ケル各地政權指導上ノ原則トシテ規定セルモノニシテ帝國カ之ヲ支那ノ中央政府トシテ承認スルコトハ本規定中ニ豫想セス承認問題ハ此レト別個ノ考慮ニ依リ決定スヘキモノトス

- 二、第二、要領ノ三、前段北支臨時政府ニ合併統一ノ場合ニ於ケル首都ノ選定ハ專ラ支那側ノ考慮ニ委スルモノトス

(別紙第十號)

覺(案)

- 一、兩政權ノ合併統一ハ北支臨時政府ヲ中心トシテ至短期間内ニ實現ヲ期スルコト

是カ爲中支新政權機構組織ノ具現ハ必要ノ最小限度ニ止メ勉メテ之ヲ簡素ナラシメ置ケコト

- 二、兩政權合併ノ爲速カニ双方ノ代表ヲ北京ニ集メ協議會ヲ開カシムルコト

右協議會ニ對シテハ日本軍部ハ之ヲ斡旋シ合併實現ヲ容易ナラシム

- 三、合併後當然豫想セラルル中支新政權ノ名稱及組織等ノ變更ハ前項協議會ノ決定ニ委スルコト

四、合併前中支新政権カ諸法規ヲ決定スルニ當リテハ勉メテ

範ヲ臨時政府既定ノモノニ採ラシメ要スレハ之ト商議決定ノ上發布セシメ以テ重複抵觸ヲ避ケシムルコト

五、中支ニ於ケル關稅、鹽稅、統稅(共ニ主要人事ヲ含ム)ニ關シテハ畫一ヲ期スル爲合併前ヨリ直ニ臨時政府ノ統制
下ニ置クコト

六、金融ニ關シテハ幣制ノ統一、國庫業務ノ確立ヲ圖ル爲中
支新政権ハ北支臨時政府ノ主張ヲ尊重シ逐次之ヲ實現ス
ル如ク指導スルコト

七、軍事、外交、財政、金融、經濟、交通、通信、郵務及思
想對策等ニ關シテハ兩軍協議ノ上要スレハ中央ノ指示ニ
依リ一貫セル方針ニ基キ各々支那側ヲ指導スルコト

昭和十三年三月 日

寺内部隊特務部長
畑 部隊特務部長

編注 別紙第三号、第五号は省略。

(付記二)

中、北支政權問題及稅率問題等ニ關シ喜多少將ノ

談話要領

(昭和二三、三三、三二、東亞二)

二十二日喜多特務部長ノ上村ニ對スル談左ノ通り

一、北支中支兩政權合併ニ關聯シ中央政府ヲ南京ニ定メント
ノ考ヘ中央ニ於テ議論セラレ居ル由ナルカ假令津浦線開
通シ北支中支ノ連絡着キタル上モ南京方面ハ常ニ漢口方
面ヨリノ攻撃ニ曝サレ安心シテ政務ヲ執リ得サルノミナ
ラス現狀ニ於テ中央政權ヲ南京ニ樹ツルカ如キコトトナ
ラハ右政權ハ結局日本側ヨリ離レ日本側ノ希望セサル方
向ニ進ム惧アリ故ニ北京ニ置キ日本ノ力ヲ以テ餘程確ツ
カリ押サヘ置クニ非ラサレハ思フ通りノ方向ニハ進マサ
ル可ク結局此處二三年ハ中央政府ヲ北京以外ニ移スコト
ハ考ヘラレス

二、一九三一年ノ稅率問題ハ實ハ北支政權成立ノ際自分ハ右
稅率ヲ其儘實施シ度キ考ヘヲ有シ居タルカ滿洲方面ヨリ
來レル専門家カ色々研究ノ上過般施行シタル新稅率ヲ作
リ上ケタル譯ナレハ一九三一年ノ稅率ヲ實施スルコトニ
就イテハ自分等トシテハ何等異存ナシ但シ北支政權側ニ
於テハ目下ノ處新ニ稅率改正ノ考ヘモナキ次第ナルニ付

新稅率ヲ實施スルヤ否ヤハ專ラ中央ニ於テ各般ノ情勢ヲ考慮ノ上御決定アリ度シ

三、北支稅關ノ外債支拂問題ニ關聯シ新法幣ニ依ル稅收ヲ外貨トシ得サルニ於テハ事實上外債支拂不可能トナル次第ナルカ此ノ點如何ニ考ヘ居ルヤト尋ネタル處喜多少將及同行ノ吉野中佐ハ共ニ外債支拂ノ爲ニハ必ス外貨ニ替ヘ得ヘキ旨確言シ居リタリ

208 昭和13年3月28日

中華民國維新政府の成立宣言

付記 外務省作成、作成年月日不明

中華民國臨時政府・維新政府の成立経緯概要

中華民國維新政府の成立宣言

一三、三、二八

近年百政腐敗し群小朝に滿ち外交を諂んせすして只豪語を誇る、民を導かずして戦を作さしめ軍備無くして空言を恃む、奮に民命を犠牲となし國家を賭物と爲すに止まらず、遂に神州を塗炭に陥れ京邑を廢墟と化し萬竈に煙無く四民

業を失ふに至る、國に當る者師を喪ふこと益々多くして敗報愈々頻なり、失地益々多くして搾取愈々甚し然も未た一事を擧げて以て過を省み、一言出して以て己を罪せるものあるを聞かす、焦土政策は自殺に等しく容共政策は寇を招くに同し、是れ中國有史以來唯一の惡政府にしてその居心行事は蓋し桀紂も爲すを肯んせず闖獻も及はざる所なり、現に四川に一時の安逸を求め湖北、湖南に潛伏すると雖も只徒らに呼號するを以て自ら娛むのみ既に統御の力を失へり、吾人等義憤措く能はず急に起ちて亡を救ひ舊を除きて新を布き民と共に更始せんとす、爰に三月廿八日南京首都に中華民國新政府を重建す其唯一の使命は即ち領土主權を戰前狀態に復現し、隣邦と樽俎折衝して敦睦に歸し、勉めて國人をして戰禍の苦を免れしめ、同種をして兄弟相爭ふ事なからしめ、吾國舊有の道德に基き東亞の平和を確立し、更に歐米列國と聯絡を保持するにあり、維新政府の成立は江蘇、浙江等の省の事實に根據しその性質は暫定的のものにして臨時政府とは始めより對立の心なし、將來中央所管の事項と不可分ものは臨時政府により商約辦理す、且つ津浦隴海兩路の交通恢復せる後は臨時政府と合併すへし、

3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

(欄外記入)

蓋し同人等は常に國內に對立的兩政府あるを願はざるものなり、秩序を恢復し流民を慰撫し農村を安定し商業を復興せしむことは目下最緊の急務なり、謹んで常に群力を集合し逐一進行し以て老父母子弟をして各常業に安んせしめ漸次に生計を復せしむへし、人民のために兵災を減少せしむるは即ち國家のために元氣を培養する所以なり、これを醫療に譬ふれば先づ治療を先とし病既に除かるるを待ちて後徐に養生を圖るへし敢て治理を空談し富強を豪語し以て困苦九死一生の民衆を欺かんとするものに非ざるなり、荆棘地に遍く烽火天に滿つ、祖國を灰燼と化し窮民を傷殘せしめたる後においては功を表はすこと易からず、又着手最も難きこと明かなり、唯各知能を盡し、我使命を全うし初志を貫徹すへきことを天民と共に誓ふものなり茲に敢て民衆に告ぐ。

(付記)

一、中華民國臨時政府

昭和十二年北支地方ニテハ德州、綏遠、彰德、太原等ノ要地相次デ陥落シ又中支方面ニ於テハ十一月下旬國民

政府ハ漢口、重慶、長沙各地ニ分散移轉ヲ行ヒ十二月十三日首都南京モ遂ニ陥落スル等戦局ノ大勢決スルニ至レリ茲ニ於テ豫テ北支要人間ニ於テ考慮中ナリシ新政權樹立ノ氣運次第ニ熟セリ

北支政權ノ首班ニ王克敏ノ出馬シタル經緯ニ付テ述ブレバ王ハ事變ノ當初香港ニ遁レ居タルガ北平特務機關長喜多少將ハ熱心ニ王ヲ北支ニ出馬セシメントシ上海ノ山本榮治ヲシテ専ラ右工作ヲ擔當セシメ北平ヨリ直接又臺灣軍ヨリ特ニ軍參謀ヲ香港ニ派シ勸誘ニ努メタル結果王ハ十一月二十四日上海着、十二月六日飛行機ニテ福岡ニ飛ビ出迎ノ山本、余晋穌ト共ニ北支ニ向ヘリ王ハ上海出發ノ際ハ未ダ北支政權ノ主腦者タルコトニ完全ニ同意シタルニ非ズ單ニ狀況視察ヲ條件トシテ承諾シタルモノト言ハル

北支軍當局ハ北支新政權ハ結局將來ノ支那中央政權トシテ守リ立ツル方針ニシテ陣容ノ整備ニ意ヲ用ヒ王ノミナラズ南方有力者ヲ漸次北方ニ誘致セントシ吉野及今井(當時武官)等上海ニ在リテ熱心ニ之ガ工作ヲ進メタリ右北支中心主義ハ軍中央部及北支寺内大將等モ略贊成ナリ

シモ上海武官室側ニ於テハ反對ニシテ殊ニ楠本大佐ハ政權樹立工作上初メヨリ北支中心ト定メテ掛ル必要ナク南北ヲ問ハズ善キ政權ガ出來タル所ヲ中央トナサバ可ナルベク此ノ意味ニテ上海ヨリ多數要人ヲ引抜クコトハ反對ナリトノ意向ヲ有シ居リタルモノノ如シ

王克敏北京到着後王ヲ中心ニ協議ノ結果王毛出馬ヲ決意スルニ至レリ斯クテ新政府ノ組織大綱宣言等ヲ決定シ昭和十二年十二月十四日北京ニ中華民國臨時政府ノ成立ヲ見ルコトナレリ

本政府ノ組織大綱及宣言要旨左ノ通り

(一) 政府ハ政府主席(當分空席)ノ下ニ三權分立トシ獨立

セル左記三委員會ヲ以テ組織ス

(イ) 議政委員會(重要國策及其他政治一般ノ審議機關)

委員長 湯爾和

常務委員 王克敏、朱深、董康、王揖唐、齊燮元

委員 江朝宗、高凌霨

(ロ) 行政委員會(行政全般ノ實施機關ニシテ祕書局及行政、治安、文教、法制、災區救濟ノ五部ヲ置

ク)

委員長

王克敏

行政部長

王克敏(兼任)

治安部長

齊燮元

文教部長

湯爾和

法制部長

朱深

災區救濟部長

王揖唐

河北省長兼天津特別市長

高凌霨

北京特別市長

江朝宗

(ハ) 司法委員會

委員長

董康

(二) 國旗ハ五色旗トス

(三) 宣言要旨

(イ) 民主々義ヲ復活シ汚穢ナル黨治ヲ芟除ス

(ロ) 共產主義ヲ絕對ニ排除ス

(ハ) 東亞ノ道義ヲ發揚シ世界友邦トノ敦睦ヲ厚フス

(ニ) 産業ヲ開發シテ民生ヲ向上ス

(ホ) 従前政府ガ公表セル對外義務ハ一切責ヲ負フ

臨時政府成立ノ結果北京地方維持會、天津治安維持會、(治安)

平津治安維持聯合會ハ何レモ之ニ合流スルコトトナリ又

冀東政府モ十二月十四日池宗墨以下官民全体ノ名ヲ以テ新政府ニ對シ同政府ニ合流シ冀東政府ハ自然解消スベキ旨電報セルガ昭和十三年一月三十日臨時政府ニ合流セリ

臨時政府成立直後昭和十二年十二月閣議ヲ以テ決定セル「事變對處要綱(甲)」ニ依レバ南京政府ガ反省スルニ於テハ之ト時局ノ收拾ヲ圖ルベキモ同政府ニシテ長期抵抗ヲ標榜シ反省セザル場合ニ對處スル爲ト他方帝國ノ占據區域廣汎トナリ至急之ガ處理ヲ行フノ要アル爲今後ハ必ズシモ南京政府トノ交渉成立ヲ期待セザルコトトシ別個ニ時局ノ收拾ヲ計ルコトトスル方針ヲ決定シ北支ニ於テハ支那民衆ノ安寧福利ノ増進ヲ以テ政策ノ主眼トシ政治的ニハ防共親日滿政權ノ成立、經濟的ニハ日滿支不可分關係ノ設定ヲ目標トシ漸次本政權ヲ擴大強化シ更生新支那ノ中心勢力タラシムル中央方針ヲ決定セリ尤モ舊南京政府トノ交渉成立ノ場合ハ本政權ハ和平條件ニ從ヒ調整セラルルコトトナリ居リタリ

更ニ昭和十三年一月十一日御前會議ニ於テ決定セラレタル「支那事變處理根本方針」ニ依レバ中央政府ニ對シテハ依然トシテ舊南京政府ガ反省齟齬シ誠意和ヲ求メ來

ルニ於テハ別ニ決定ノ講和交渉條件ニ準據シ交渉スルノ方針ヲ留保スルト共ニ同政府ガ和ヲ求メ來ラザル場合ハ帝國ハ爾後之ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケズ新興支那政權ノ成立ヲ助長シ之ト兩國々交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力スルコトトナリ舊南京政府ニ對シテハ帝國ハ之ガ潰滅ヲ圖リ又ハ新興中央政權ノ傘下ニ收容セラルル如ク施策スル方針ヲ決定セリ

而シテ獨逸政府ヲ仲介トスル和平交渉ハ舊南京政府ヨリ帝國ノ要求條件ハ範圍廣汎ニ過グルヲ以テ支那側ニ於テ最後の決定ニ達センガ爲更ニ詳細ナル内容ヲ承知シタキ旨一月十四日在京獨大使ノ傳達アリ帝國ノ講和基礎條件ハ獨逸ヲ通ジ充分承知シ居ルモノト認メラルルヲ以テ本支那側回答ハ講和ニ誠意ナク單ニ遷延策ヲ講ゼントスル趣旨ト認メラレタルヲ以テ帝國政府ハ一月十五日今後ハ國民政府ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ懸ケズ新興支那政權ノ成立發展ヲ助長スル一月十一日御前會議決定方針ノ第二段ノ措置ヲ執ルコトニ廟議決定シ十六日右趣旨ヲ中外ニ聲明スルト共ニ獨ヲ通ジ日支和平交渉打切ヲ通告セリ

二、中支ニ於ケル政權樹立運動

日本軍上海附近ニ於テ支那軍ヲ擊破シ昭和十二年十二月十三日南京ヲ攻略スルヤ中支ニ於ケル政權樹立運動開始セラレ先ヅ上海二十二月五日上海市大道政府ノ成立ヲ見タリ上海以外ニ於テハ治安維持會ノ成立ヲ見タルガ主タルモノハ昭和十三年一月一日成立セル南京自治委員會及杭州治安維持會ナリ然ルニ上海方面ニ於テハ蔣政權及國民黨ノ勢力ハ南京陷落ノ頃ニ於テモ猶意外ニ強ク親日分子モ共同租界内ニ於テスラ公然トハ日本側ニ接近スルコト不可能ノ状態ナリシモノニシテ北支ニ於ケル如ク有力ナル新政權ノ樹立ハ永ク困難ノ事情ニ在リタリ

南京陷落ノ前後維新政府樹立迄ニ中支方面ニ於テ起リタル政權樹立運動概略左ノ如シ

(一)上海市大道政府(大道市政府)

本政府ハ陸軍武官室楠本大佐ガ參謀本部影佐大佐ト協議シ成立ニ斡旋シタル由ニ傳ヘラレ現地海軍及外務官憲ニ於テハ成立迄之ヲ承知シ居ラザリシモノニシテ當時一般ニ甚ダ不評判ナリシモノナリ(市長

蘇錫文ハ福建人、早大出身、天津ニテ鹽務ノ官吏タリシコトアリ)

本市政府ハ浦東、南京、滬西、閘北、眞茹、市中心、吳淞、北橋、嘉定、寶山、奉賢、南匯、川沙、崇明、各區ノ管轄區域ヲ有シ祕書處、特區辦事處、社會、警察、財政、教育、衛生、土地、交通、工務各局、肅檢處、地方政總署ノ組織ヲ以テ成立セリ

(二)上海市戰區善後整理會

張嘯林ノ青幫ノ勢力ヲ背景トシ虞洽卿等ノ商人團體ガ主トナリ上海市ノ治安維持、商工業ノ復興及戰區一切ノ善後措置ヲ行ハントスルモノニシテ名ハ整理會ト言フモ政治團體ナリ委員制ヲ採用シ委員長ヲ互選シ合議制ヲ行ハントセリ本運動ハ上海ニ於ケル實力者ノ企圖セルモノナルモ結局政權樹立迄ニ發展セズシテ止ミタリ

(三)西山派ノ唐紹儀擁立運動

松井司令官ハ事變ノ當初萱野長智ヲ上海ニ連行セ^(知カ)ルガ萱野ハ山田純三郎等ト共ニ陳中孚ト連絡シ唐紹儀、許宗智、居正等西山派ヲシテ新政權ヲ樹立セシ

メントシタルモ涉々シキ展開ヲ見ズ又一方唐紹儀一派モ日本側ガ將來蔣政權ト妥協スルガ如キコトナキヤ又純然タル傀儡政府ヲ樹立セシメントスルニ非ズヤトノ危惧ノ念ヲ抱キ當時猶其ノ態度ハ消極的ナリシナリ(其後唐、吳(佩孚)ノ連絡成リ相當ノ進展ヲ示シタルモ十三年八月唐ノ暗殺事件アリ唐吳聯立出馬ハ挫折セリ)

(四)孔祥熙一派ノ和平運動

孔祥熙一派ノ内孔ノ息孔令侃(輔佐役樊光)ハ上海ニ於テ密(二)字本明□□本側ノ態度打診ニ當リ居タルガ同人ガ香港ニ去リテヨリハ孔ノ秘書喬輔三及薛學海等ガ日本側ト連絡ニ當リツツアリタルモ遂ニ發展セズ

(五)上海財界人ノ運動

上海財界人中周作民、徐新六、林康侯、李銘等モ運動スル所アリタリ之等ハ前記青幫ノ運動ト略々同一系統ナリ殊ニ周作民ハ十二月頃漢口ニ赴キ當時衡山ニ在リト稱セラレタル蔣介石ニ面會シ其ノ對日態度ヲ打診シタリトモ傳ヘラレ周トシテハ和平ノ望アレバ日本側ト折衝スル心組ノ如クナリシモ遂ニ不成

功ニ終レリ

(六)熊斌一派ノ運動

熊斌モ上海ニ在リテ種々運動シ居リタルガ彼ハ江蘇治安維持會ナルモノヲ作り將來何應欽ト連絡セントスル計畫ナリシモノノ如シ

以上(二)ヨリ(六)ニ至ル運動ニ對シテハ軍特務部トシテハ既成勢力ノ政權獲得運動ニ類スルモノハ排撃スル方針ナリシ由ニシテ結局上海市大道政府ノ外ハ政權トシテ成立ヲ見ルニ至ラザリシ實情ナリ

更ニ汪精衛系トシテハ神戸華僑陳伯藩初メ李聖五、王延松等ガ上海ニ於テ日本側ト連絡ヲ試ミツツアリシ時期アリ(尙中支ニ於ケル中心政權ハ當初ヨリ北支政權ト圓滿相投合セシムルモノタルベシトノ考ヘ方アリ中央ニ於テ「中支政務指導方案」(昭和十三年一月二十七日)ナルモノ一應確定ヲ見タル經緯アリ當時ノ我方新政權指導方針ヲ知ルニ足ルベシ)

三、中華民國維新政府

中支ニ於ケル中心政權樹立運動ハ梁鴻志、任援道、陳

群、溫宗堯ト出馬セントスルニ及ンデ漸ク熱セリ之等各派ノ連携運動ニ對シテハ現地ニ於テハ上海陸軍特務部原田少將、楠本大佐、上海海軍特務部之ヲ援助推進スル所アリタルモノナリト傳ヘラルル然ルニ本政府成立ニ關聯シ北支側ニ重大異論生ジタリ

三月二十八日成立セル當時ノ維新政府組織大綱及政綱要旨ハ左ノ通り

(一) 政府ハ三權鼎立ノ民主立憲政体トシ三院七部制ヲ採ル

(イ) 行政院

行政院長(代理)	梁鴻志
外交部長	陳 籙
內政部長	陳 群
綏靖部長 <small>兼之</small>	任援道
財政部長	陳錦濤
教育部長	陳則民
交通部長(兼)	梁鴻志
實業部長	王子惠
行政院祕書長	吳用威

(ロ) 法制院

法制院長 溫宗堯

(ハ) 立法院

立法院長(未定)

(ニ) 國旗ハ五色旗トス

(三) 政綱要旨

(イ) 三權鼎立憲政制トシ一黨專制ヲ取消ス

(ロ) 極力防共ヲ旨トス

(ハ) 外交ハ平等、主權維持、中立敦睦、東亞和平、各國親睦ヲ圖ル

國親睦ヲ圖ル

(ニ) 難民復業保安清郷ヲ圖ル

(ホ) 資源開發農工振興、國外資本吸收、友邦トノ經濟提携ヲ圖ル

提携ヲ圖ル

(ハ) 商工金融ヲ發達セシメ國富ヲ増進ス

(ト) 固有文化ヲ本トシ科學知識ヲ吸收シ矯激ナル教育ヲ廓清ス

ヲ廓清ス

(チ) 財政ノ適合ヲ圖リ人民ノ負擔ヲ輕減ス

(リ) 人材登備、言論公開ヲ行ヒ政治ヲ批判セシム

(ヌ) 變則機關撤廢、官吏肅正ヲ行フ

右維新政府成立ノ結果其ノ下ニ地方政府ヲ組織スルコトトナリ各地治安維持會ハ何レモ解消スルコトトナレリ
斯クテ五月二十三日江蘇省政府六月二十日浙江省政府七月二十三日安徽省政府四月二十四日督辦南京市政公署夫々成立セリ上海ニ於テハ上海市大道政府ノ組織ヲ其ノ儘用ヒ特ニ行政院直轄ノ下ニ大道ノ二字ヲ取消シ形式ノ改組ヲ斷行シタル督辦上海市政公署四月二十八日成立セリ

(欄外記入)

中華民國臨時政府及維新政府ニ關スル本記錄ハ當時ノ現地報告及關係文書ニ依據シテ正確ニ作成セラレタルモノナルコトヲ證明ス

昭和二十一年五月二十四日

外務省總務局總務課長 大野勝己(印)

編注 本付記は、「極東國際軍事裁判關係文書」より採録。

209

昭和13年4月5日

在北京森島大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

「北支及中支政權關係調整要領」に関する外

務・陸軍・海軍三省關係者の協議狀況報告

北京 4月5日後發

本省 4月5日夜着

第四八二號(極祕、館長符號扱)

貴電第二二四號ニ關シ

三日維持政府代表梁鴻志一行來京セルニ付北支及中支政權

關係調整要綱^(前々)ニ關シ四日特務部ニ陸、海、外(上海原田、

本田兩少將及幕僚參加)關係官參集ノ上要領第二ノ細目ニ

付話合ヲ遂ケタル處上海側ニテハ其ノ準備ナシト言ヘルモ

一應左ノ通り申合乃至話合アリタリ

一、ニ付テハ問題ナク

二、ハ津浦、隴海兩線開通ヲ期シテ合併スルモ夫レ迄相當ノ

時日ヲ要スルニ付出來得ル限り臨時政府ニ相談ノ上措置

スルコト尙合併前ニ於ケル海關、統稅局、鹽務局ニ關ス

ル措置ニ付テハ海關ハ且下外務側ノ交渉ニ委ネアルモ英

國側ト了解ヲ遂ケタル後實施ノ形式ヲ如何ニスルヤハ外

務側ニ於テ研究サレ度キコト、關稅率ニ付テハ臨時政府ハ全支ニ對シ又維新政府ハ三省ニ對シ同一内容ノ命令ヲ發出スルコト、統稅ハ積出地主義ニ依リ課シ北方ヨリ來レルモノハ維新政府ニ送金ヲ請求スルコト、鹽務ハ稅警^{ナキ}ナキ爲末手ニ着カサルコト、維新政府ニ於ケル稅收ハ其ノ剩餘金ハ北方ニ送ルコト總稅務司ハ一應現在ノ鶴的存在ヲ續ケルコト

三、⁽²⁾ニ付ニハ兩政權合併ノ爲兩政府間ニ籌備委員會ヲ設ケ正式政府樹立ノ準備ヲ進メシメ次テ正式政府成立後ハ兩政府ヲ解消スルコト又日本側ニ於テモ南北ノ協議會ヲ開催シ兩政府指導ノ任ニ當ルコト、梁鴻志一行ノ北上ニ對スル答禮ノ爲北方ヨリ代表(代表一、隨員二)ヲ派シ籌備會開催等ニ關シ合議セシムルコト

四、ノ軍事ニ關シテハ北支、中支共何等問題ナキモ唯中支ハ軍官學校ハ之ヲ設立セス北方ノ軍官學校ヲ利用スルコト、出來得ルナラハ北支警官學校モ利用スルコト、三、ノ如ク對外關係多キ外交及財政ニ對應スル爲維新政府ノ外交、財政兩總長ヲ北方政府ニ兼任セシムルコト、郵務ノ郵便切手ハ郵便貯金ノ關係モアリ民衆ニ及ホス影響大ナルニ

依リ現状ヲ維持スルコト、南方法幣ノ下落ニ對シテハ充分慎重ニ考慮ヲ爲スコト、鐵道ハ各別ノ會社トスルモ南北連絡ノ時ハ會議ヲ開クコト、文化及思想對策ニ關シテハ學校教科書ハ中支側ハ北支ニ於テ既ニ改停セルモノヲ使用スルコト、新國會ヲ中支ニ設置スルコトハ尙研究ノ要アルコト(席上其ノ指導要領ニハ各方面共反對ナキモ張燕卿ニ對スル非難相當強キモノアリタリ)、漁業ニ付テハ其ノ統制ハ支那民衆ヲ壓迫スル惧アルニ付充分考慮ヲ要スルコト

上海、天津へ轉電セリ

210

昭和13年4月5日 在北京森島大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

王克敏・梁鴻志会见による臨時・維新兩政府
の合流協議について

別電 昭和十三年四月五日發在北京森島大使館參事

官より広田外務大臣宛第四八五号

王克敏が提出した合流試案

3 トラウトマン工作と「対手トセズ」声明の發出

北京 4月5日後發
本省 4月5日夜着

第四八四號(極秘)

往電第四七八號二關シ

梁鴻志一行ト臨時政府側トノ折衝ハ五日迄ハ大體儀禮的ニ止マリ居リタル處五日午前王克敏、梁鴻志ノ會見ニ於テ(喜多、原田、本田各少將竝ニ本官同席)王ハ貴電第二二四號中北支調整要領ヲ基礎トシ將來兩政府合流ニ對シ支障ナカラシムル趣旨ヲ以テ二日間ニ亘リ熟考セル試案ナリトテ要領別電第四八五號ノ趣旨ノ希望ヲ述ヘタル處梁ハ閣議決定ナルモノハ昨夜始メテ承知セル所ニシテ同僚ニモ何等話合ヲシ居ラス王委員長ノ意見ハ充分理由アリト思考スルモ合流後ノコトニ係ルヤニ思ハル自分トシテハ専門的知識ニ缺クルヲ以テ歸滬ノ上所管官廳竝ニ特務部トモ話合ノ上回答スヘキ旨ヲ述ヘ意見ノ陳述ヲ保留セリ

梁一行ノ北上ハ兩政府間ニ合流ノ基礎的の了解ヲ進ムルニ效果アリ北方側ニ對シ多大ノ好感ヲ與ヘタルモノト認メラルルモ具體的問題ニ關シ何等進展ヲ見サリシハ南方代表ハ政府成立早々ニシテ何等具體問題ニ關シ準備ナカリシト共ニ

今回ノ北上カ儀禮ヲ主トセルニ依ルモノニシテ事情已ムヲ得サルモノト思考セラル

本電別電ト共ニ天津、上海、青島、濟南、張家口ヘ轉電セリ

(別電)

北京 4月5日後發
本省 4月5日夜着

第四八五號(極秘)

一、維新政府ヨリ速ニ責任アル代表者ヲ北京ニ派遣シ兩政府合流ノ爲ノ協議ヲ爲サシム

二、維新政府ハ今日迄臨時政府ニ於テ發布セル法令ヲ尊重ス
維新政府ニ於テ今後法令ヲ發布スル場合ニハ臨時政府ノ法令ノ範圍内ニ於テ右ニ牴觸セサル様措置セラレ度ク臨時政府ニ於テ今後全國的ニ法令ヲ發布スル場合ニハ豫メ維新政府ニ協議スヘシ

三、維新政府ニ於テハ新銀行ヲ設立セス
四、關稅ハ日本政府ニ於テ諸外國ト折衝ヲ願ヒ其ノ結果ニ基キ決定スルノ外ナキ處右ニ付テハ日本側ヨリ臨時政府ニ

協議ヲ願ヒ臨時政府ヨリ維新政府ニ通報スヘシ

五、統稅ハ各品目毎ニ兩政府専門家ヲシテ協議研究セシメ稅額ハ相互ニ通報ス

六、鹽稅ニ關シテハ維新政府ノ管轄區域内ニ於ケル官署ノ設置竝ニ人事ハ同政府ニ於テ主管セラルヘク稅額ハ相互ニ通報ス

七、鹽稅、關稅、統稅ヲ全國的ニ主管スヘキ機關(總稅務司ノ如シ)ハ臨時政府ニ於テ設置スルノ意嚮ナキニ付維新政府ニ於テモ之カ設置ヲ差控ヘラレ度シ



211 昭和13年4月29日

近く訪日予定の王克敏に対する応酬方針骨子

付記 陸軍省作成、作成日不明

中華民國臨時政府への折衝・指導に関する陸
海外三省間覚書案

王克敏ニ對スル應酬方針骨子

昭和二三、四二五 外務省

一、帝國ノ支那ニ對シ求ムル所ハ支那方眞ノ親日防共ノ國家

トナリ帝國及滿洲國ト相提携シテ文化、經濟、軍事等各方面ニ於テ完全ナル融合協力ヲ實現シ以テ東亞ノ安定世界ノ平和ニ寄與セントスルニアル次第ヲ篤ト諒解セシムルコト

二、帝國ノ國民政府ニ對スル態度ハ本年一月十六日帝國政府聲明ノ通同政府ヲ對手トセス飽迄之カ潰滅ヲ計リ中途半端ナル媾和ヲナスカ如キ意圖絕對ニナキコトヲ說示シ安心ヲ與フルコト

三、帝國ノ臨時政府及維新政府ニ對スル方針ハ全力ヲ以テ之カ發展ヲ支援シ前記第一項ノ趣旨ニヨル兩國國交ノ調整ヲ計リ更生新支那ノ建設ニ協力セントスルニアリ又臨時、維新兩政府ノ關係ニ付テハ帝國政府ハ臨時政府ヲ中央政府トシテ維新政府ハ成ルヘク速ニ之ニ合併統一セシムル方針ヲ堅持スルモノナルコト勿論ナル次第ヲ篤ト説明スルコト

四、今次事變ニ對スル帝國ノ國論ハ上下、軍民完全ニ一致シ對支政策ノ遂行ニ付毫末ノ不一致アルコトナキ次第ヲ特ニ充分納得セシムルコト

五、帝國ノ國力ハ益々充實發展シ軍事、財政、金融、産業、

各般ニ亘リ毫モ不安アルコトナク、今後モ國民政府潰滅ノ爲軍事行動ヲ進ムルト共ニ對支經濟開發ノ如キモ着々實現ニ乗出シ得ルコト、又國際情勢モ帝國ニ有利ニ展開シ居リ内外ニ於ケル帝國ノ地位ハ牢固トシテ微動タニセサル次第ヲ篤ト認識セシムルコト

(本項ニ付テハ例ヘハ軍事ハ陸海軍大臣、外交ハ外務大臣、財政ハ大藏大臣日銀總裁等各關係ノ向ニ於テ所管事項ニ付特ニ詳細ナル説明ヲ與ヘ指導セララルル様致度)

(付記)

陸海外三省間覺書

陸軍省案

帝國政府ノ中華民國臨時政府ニ對スル折衝竝指導ハ作戰期間ハ從前ノ通り北支那ニ於ケル陸軍最高指揮官之ヲ代行スルモノトス

說明

一、帝國政府ハ中華民國臨時政府ヲ新興支那ノ中心勢力トシテ之ヲ育成スヘク決意シタリ
此決意ヲ達成シ且新興支那ヲ眞ニ親日滿タラシムルニハ我帝國ノ指導ハ一途ニ出テ苟クモ支那側ニ乗セララルノ

罅隙ナカラシムルヲ要ス

而シテ現在ハ作戰行動中ニシテ占據地域内ニ於ケル治安モ未タ完全ニ恢復セス軍ノ實力ヲ以テセサレハ支那側ニ對スル的確ナル指導ヲ爲シ得サルノ状態ニシテ從前モ事實上軍力指導シテ新政權ヲ誕生セシメタルモノナリ

從テ現状ニ於テハ臨時政府ニ對スル指導ハ北支那方面陸軍最高指揮官ヲシテ實施セシムルヲ要ス

二、若シ作戰上ノ要求ニシテ陸海兩軍ニ關係スルモノアラハ中央部ニ於テ協議ノ上之ヲ現地ニ移シ陸軍最高指揮官ヲシテ臨時政府ニ要求スルヲ適當トシ又居留民ニ關スル問題或ハ青島ノ如ク局地的ニ處理シ得ル問題等ニ就テハ陸海外現地機關互ニ協議シテ實行ニ移セハ可ナリ
三、將來作戰終了時機トナラハ帝國政府ノ代行機關ハ別ニ考慮セララルヘキモノトス

編注 石射東亞局長の闕了サインと「不賛成、參謀本部ハ本

案ニ反對ナル由ノ情報アリ」との書き込みあり。